調424－（3）－1

第４２４回
地震調査委員会資料

令和８年２月 10 日

気　象　庁

※ 本資料中のデータについて

気象庁では、平成９年11月10日より、国・地方公共団体及び住民が一体となった緊急防災対応の迅速かつ円滑な実施に資するため、気象庁の震度計の観測データに合わせて地方公共団体*及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものも震度情報として発表している。

また、気象庁では、地震防災対策特別措置法の趣旨に沿って、平成９年10月１日より、大学や国立研究開発法人防災科学技術研究所等の関係機関から地震観測データの提供を受け**、文部科学省と協力してこれを整理し、整理結果等を、同法に基づいて設置された地震調査研究推進本部地震調査委員会に提供するとともに、気象業務の一環として防災情報として適宜発表する等活用している。

注* 令和８年２月２日現在：北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県、札幌市（北海道）、千葉市（千葉県）、横浜市（神奈川県）、川崎市（神奈川県）、相模原市（神奈川県）、名古屋市（愛知県）、京都市（京都府）の47都道府県、７政令指定都市。

注** 令和８年２月２日現在：国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

※ 本資料中の図について

本資料中の地図は、『**数値地図 25000（行政界・海岸線）**』（国土地理院）を加工して作成した。

また、一部の図版作成には GMT(Generic Mapping Tool[Wessel,P., and W.H.F.Smith, New, improved version of Generic Mapping Tools released, *EOS Trans. Amer. Geophys. U.*, vol.79 (47), pp.579, 1998]) を使用した。

※ 本資料利用上の注意

・資料中の語句について

M：マグニチュード（通常、揺れの最大振幅から推定した気象庁マグニチュードだが、気象庁 CMT 解のモーメントマグニチュードの場合がある。）

Mw：モーメントマグニチュード（特にことわりがない限り、気象庁 CMT 解のモーメントマグニチュードを表す。）

depth：深さ（km）

UND：マグニチュードの決まらない地震が含まれていることを意味する。

N= xx,yy/ZZ：図中に表示している地震の回数を表す（通常図の右上に示してある）。ZZ は回数の総数を表し、xx,yy は期間別に表示色を変更している場合に、期間毎の回数を表す。

・発震機構解について

発震機構解の図は下半球投影である。また、特にことわりがない限り、Ｐ波初動による発震機構解である。初動発震機構解が求められない場合や、十分な精度が得られない場合には、初動発震機構解に替えて CMT 解を掲載する場合がある。なお、CMT 解はベストダブルカップル解を示す。

・発震機構解の図中の語句について

Ｐ：Ｐ軸（圧力軸）　　Ｔ：Ｔ軸（張力軸）　　Ｎ：Ｎ軸（中立軸）

・Global CMT 解について

Global CMT 解は、米国のコロンビア大学とハーバード大学で行っている、世界で発生した規模の大きな地震の CMT 解を求めるプロジェクト（Global CMT Project）により求められた解である。

・Ｍ－Ｔ図について

縦軸にマグニチュード（M）、横軸に時間（Ｔ）を表示した図で、地震活動の経過を見るために用いる。

・震央地名について

本資料での震央地名は、原則として情報発表時に使用したものを用いるが、震央を精査した結果により、情報発表時とは異なる震央地名を用いる場合がある。なお、情報発表時の震央地名及びその領域については、各年の「地震・火山月報(防災編)」１月号の付録「地震・火山月報(防災編)で用いる震央地名」を参照のこと。

・震源と震央について

震源とは地震の発生原因である地球内部の岩石の破壊が開始した点であり、震源の真上の地点を震央という。

・地震の震源要素等について

2016 年４月１日以降の震源では、M の小さな地震は、自動処理による震源を表示している場合がある。自動処理による震源は、震源誤差の大きなものが表示されることがある。

2020 年９月以降に発生した地震を含む図については、2020 年８月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、日本海溝海底地震津波観測網（S-net）や紀伊水道沖の地震・津波観測監視システム（DONET2）による海域観測網の観測データの活用、震源計算処理における海域速度構造の導入及び標高を考慮した震源決定等それまでのデータ処理方法との違いにより、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがある。

震源の深さを「CMT 解による」とした場合は、気象庁 CMT 解のセントロイドの深さを用いている。

地震の震源要素、発震機構解、震度データ等は、再調査後、修正することがある。確定した値、算出方法については地震月報（カタログ編）[気象庁ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/bulletin/index.html]に掲載する。

なお、本誌で使用している震源位置・マグニチュードは世界測地系（Japanese Geodetic Datum 2000）に基づいて計算したものである。

・火山の活動解説の火山性地震回数等について

火山性地震や火山性微動の回数等は、再調査後、修正することがある。確定した値については、火山月報（カタログ編）[気象庁ホームページ：https://www.data.jma.go.jp/vois/data/filing/bulletin/index_vcatalog.html]に掲載する。

気象庁作成

別紙１

令和８年１月の主な地震活動[注１）]

番号	月　日	時　分	震央地名	深さ (km)	M	Mw	最大震度	備考／コメント
1	1月6日	10時18分	島根県東部	11	6.4	5.8	5強	**緊急地震速報（警報）を発表**（１月６日10時18分、10時28分、および10時37分の地震に対して発表） **長周期地震動階級４を観測**（１月６日10時18分の地震により観測） 長周期地震動階級１を観測（１月６日10時28分及び10時37分の地震により観測） 島根県東部の地震活動 １月６日以降、１月31日までに震度１以上を観測する地震が58回（震度５強：１回、震度５弱：１回、震度４：１回、震度３：６回、震度２：16回、震度１：33回）発生し、このうち最大規模の地震は、１月６日10時18分に発生したM6.4の地震（最大震度５強） 地殻内で発生した地震 **被害**：負傷者15人、住家一部破損114棟（1月14日17時00分現在、総務省消防庁による）
	1月6日	10時28分	島根県東部	12	5.1	－	5弱	
	1月6日	10時37分	島根県東部	14	5.5	5.0	4	
2	1月9日	18時56分	秋田県内陸北部	7	4.3	－	4	地殻内で発生した地震
	1月9日	20時24分	秋田県内陸北部	8	4.2	－	4	
3	1月9日	20時07分	千葉県東方沖[注２）]	30	4.6	4.6	4	フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
4	1月10日	08時51分	硫黄島近海		5.5	－	3	
5	1月11日	13時15分	岩手県沿岸北部	63	5.1	4.9	4	**緊急地震速報（警報）を発表** 太平洋プレート内部（二重地震面の上面）で発生した地震
6	1月12日	09時50分	宗谷地方南部	ごく浅い	5.1	－	3	宗谷地方北部・南部の地震活動 2026年１月12日以降、１月31日までに震度１以上を観測する地震が41回（震度３：５回、震度２：12回、震度１：24回）発生し、このうち最大規模の地震は、１月13日に発生したM5.2の地震（最大震度３） 地殻内で発生した地震
	1月13日	01時58分	宗谷地方北部[注３）]	ごく浅い	5.2	4.8	3	
	1月28日	15時34分	宗谷地方北部[注３）]	ごく浅い	4.8	4.5	3	
7	1月13日	05時09分	石川県能登地方	12	4.3	－	4	地殻内で発生した地震
8	1月13日	16時34分	択捉島南東沖	30[注５）]	6.3	6.2	2	
9	1月15日	07時13分	釧路沖	31	5.6	5.6	3	太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
10	1月15日	14時40分	岐阜県飛騨地方[注４）]	ごく浅い	4.8	－	4	地殻内で発生した地震
	1月15日	14時48分	岐阜県飛騨地方	ごく浅い	5.2	5.1	3	
11	1月17日	04時34分	青森県東方沖	35	5.4	5.3	3	青森県東方沖の地震活動 １月中に震度１以上を観測する地震が10回（震度３：３回、震度２：２回、震度１：５回） １月17日04時34分および１月21日02時51分の地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震 １月22日23時31分の地震は太平洋プレート内部で発生した地震
	1月21日	02時51分	青森県東方沖	58	5.3	5.4	3	
	1月22日	23時31分	青森県東方沖	46	5.5	5.3	3	
12	1月22日	01時37分	硫黄島近海	15[注５）]	6.5	6.1	－	
13	1月24日	06時19分	茨城県北部	7	4.5	－	4	地殻内で発生した地震
14	1月27日	11時47分	根室半島南東沖	42	5.0	4.8	3	太平洋プレート内部で発生した地震
15	1月28日	19時45分	三陸沖	20	5.2	5.1	3	太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
16	1月29日	10時25分	千葉県南部	24	4.5	－	4	フィリピン海プレート内部で発生した地震

注１）「主な地震活動」とは、①震度４以上の地震、②M6.0以上の地震、③陸域でM4.5以上かつ震度３以上の地震、④海域でM5.0以上かつ震度３以上の地震、⑤前に取り上げた地震活動で活動が継続しているもの、⑥その他、注目すべき活動。なお、掲載した震源要素については、後日修正されることがある。

注２）情報発表に用いた震央地名は「千葉県北東部」である。

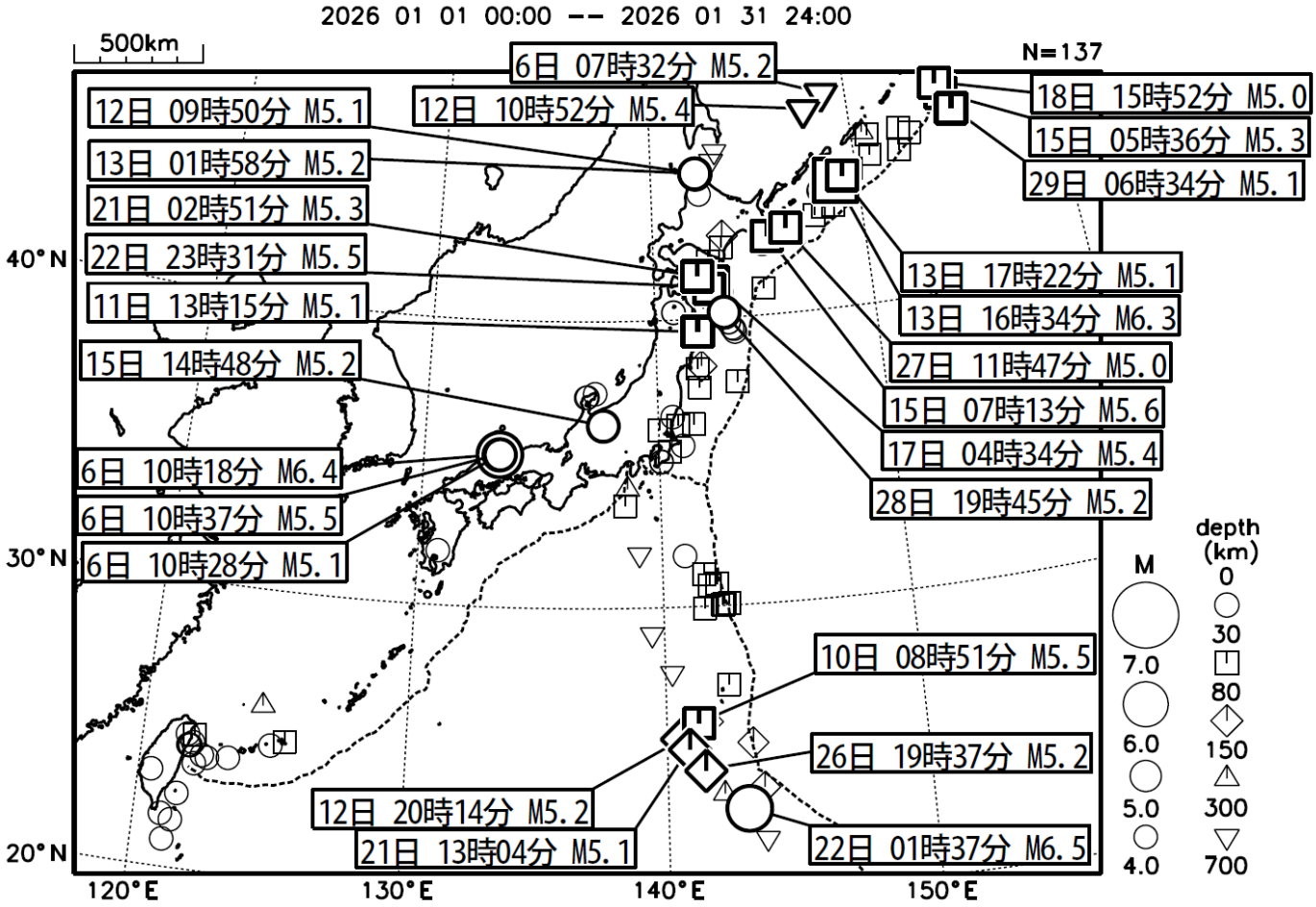
注３）情報発表に用いた震央地名は「宗谷地方南部」である。

注４）情報発表に用いた震央地名は「富山県東部」である。

注５）気象庁のCMT解による。

気象庁作成

2026 年１月の全国の地震活動
（マグニチュード 4.0 以上）



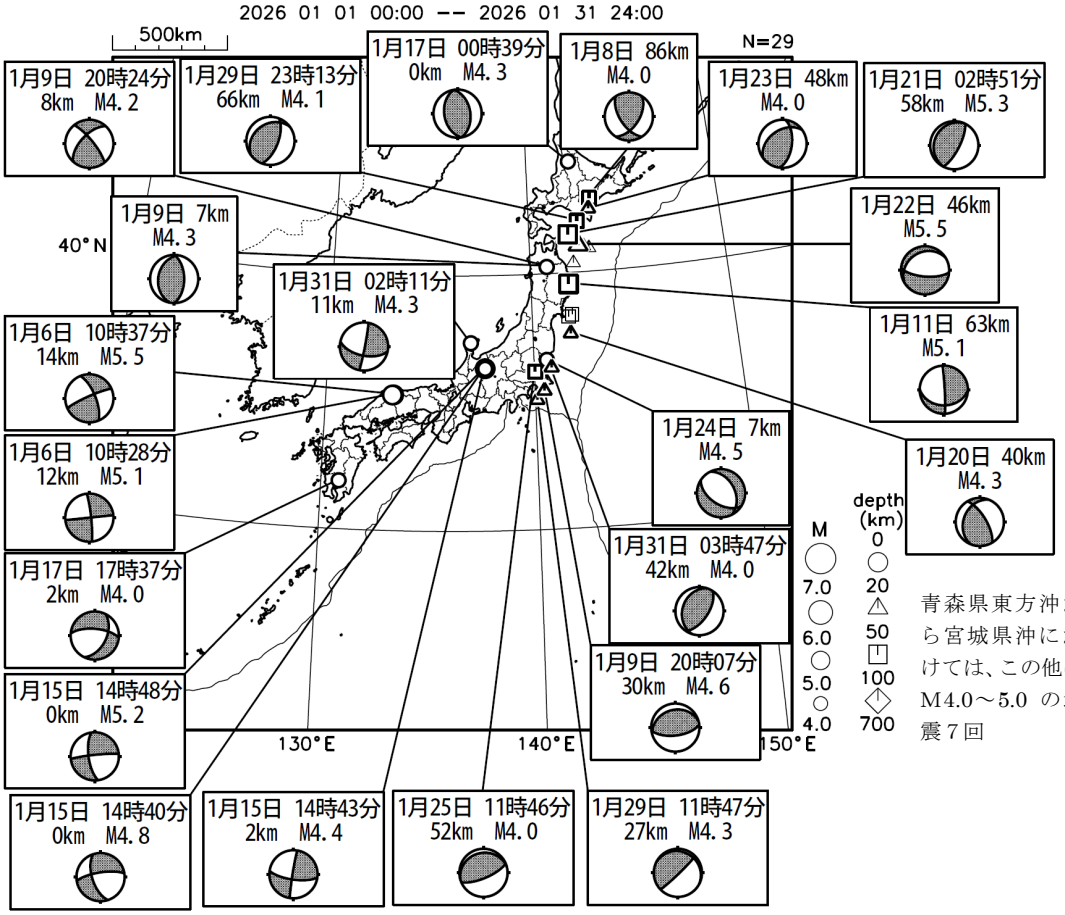
・１月６日 10 時 18 分に島根県東部で M6.4 の地震（最大震度５強）が発生した。
・１月６日 10 時 28 分に島根県東部で M5.1 の地震（最大震度５弱）が発生した。
・１月 13 日 16 時 34 分に択捉島南東沖で M6.3（最大震度２）が発生した。
・１月 22 日 01 時 37 分に硫黄島近海で M6.5（震度１以上を観測した地点はなし）が発生した。

［図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度５弱以上を観測した地震である。
また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度５弱以上を観測した地震である。］

気象庁・文部科学省（気象庁作成資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています）

主な地震の発震機構（2026 年１月）

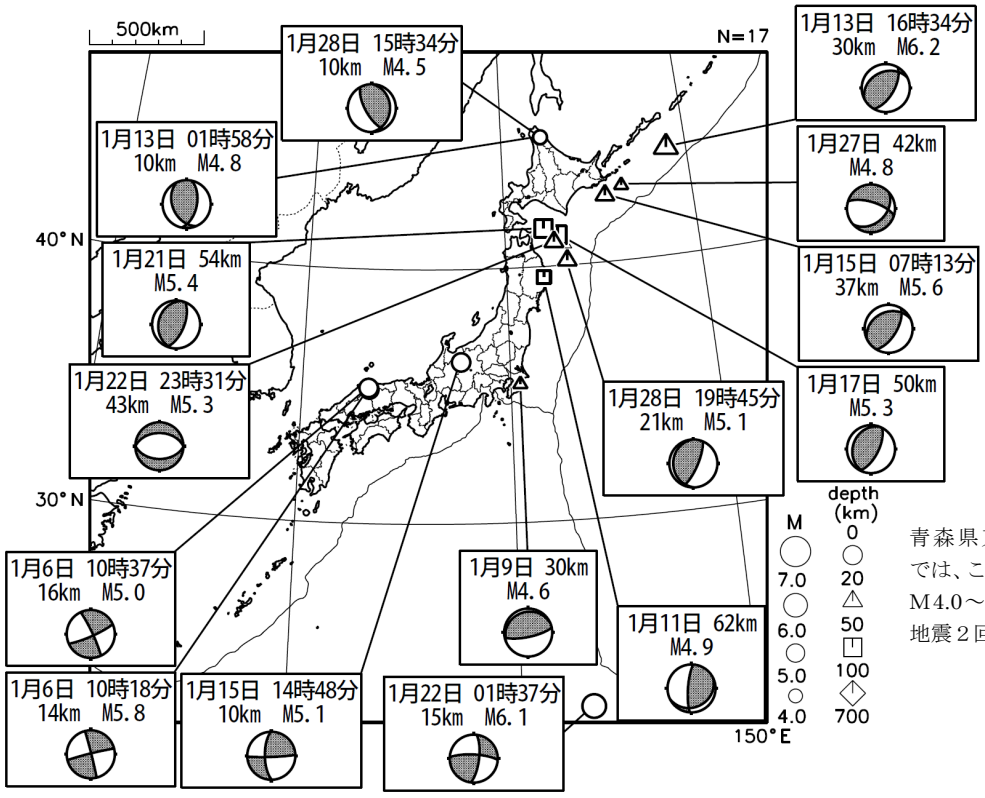
Ｐ波初動解



青森県東方沖から宮城県沖にかけては、この他にＭ4.0～5.0 の地震７回

ＣＭＴ解

Ｍは Mw の値、深さはセントロイド

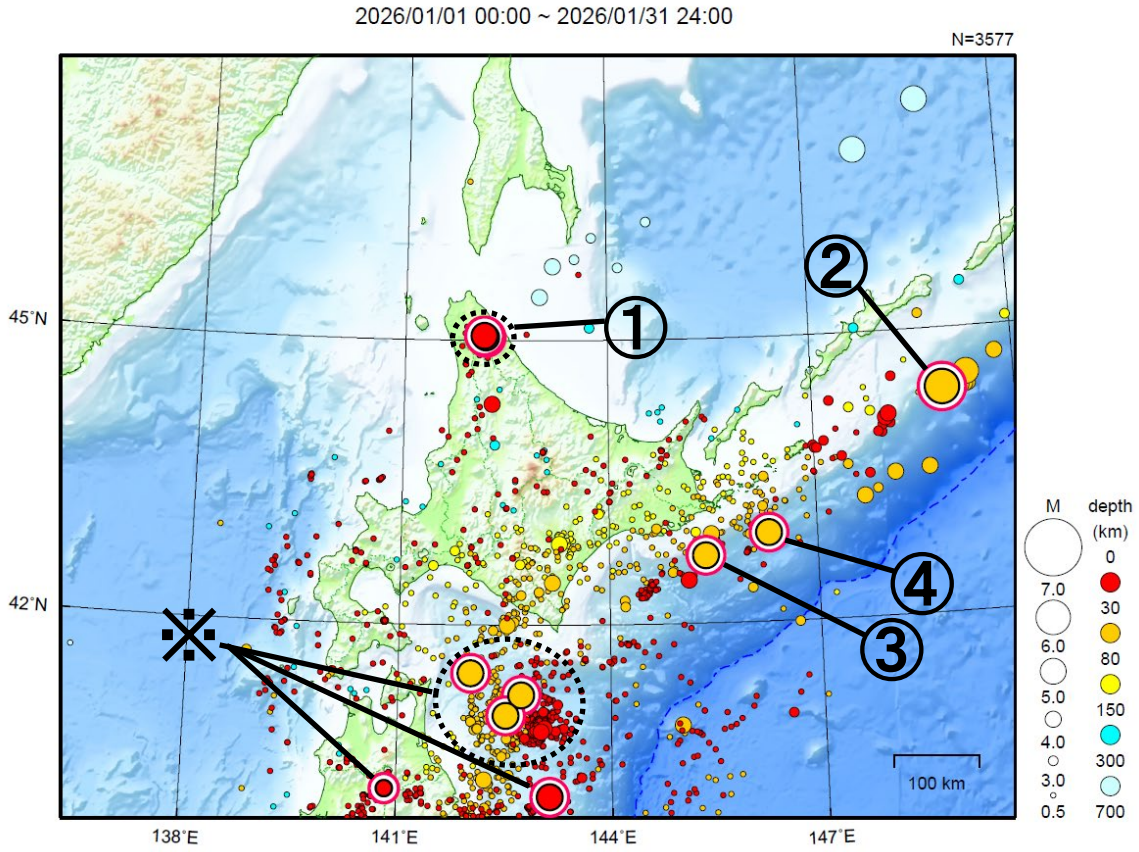


青森県東方沖では、この他にＭ4.0～5.0 の地震２回

次ページ以降、資料中に発震機構が示されている場合は、特段の断りがない限り「Ｐ波初動解」を示す。

気象庁作成

北海道地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 宗谷地方北部・南部では、１月 12 日から 31 日までに震度１以上を観測する地震が 41 回（震度３：５回、震度２：12 回、震度１：24 回）発生した。このうち最大規模の地震は、13 日に宗谷地方北部（注）で発生した M5.2 の地震（最大震度３）である。

（注）情報発表に用いた震央地名は〔宗谷地方南部〕である。

② １月 13 日に択捉島南東沖で M6.3 の地震（最大震度２）が発生した。

③ １月 15 日に釧路沖で M5.6 の地震（最大震度３）が発生した。

④ １月 27 日に根室半島南東沖で M5.0 の地震（最大震度３）が発生した。

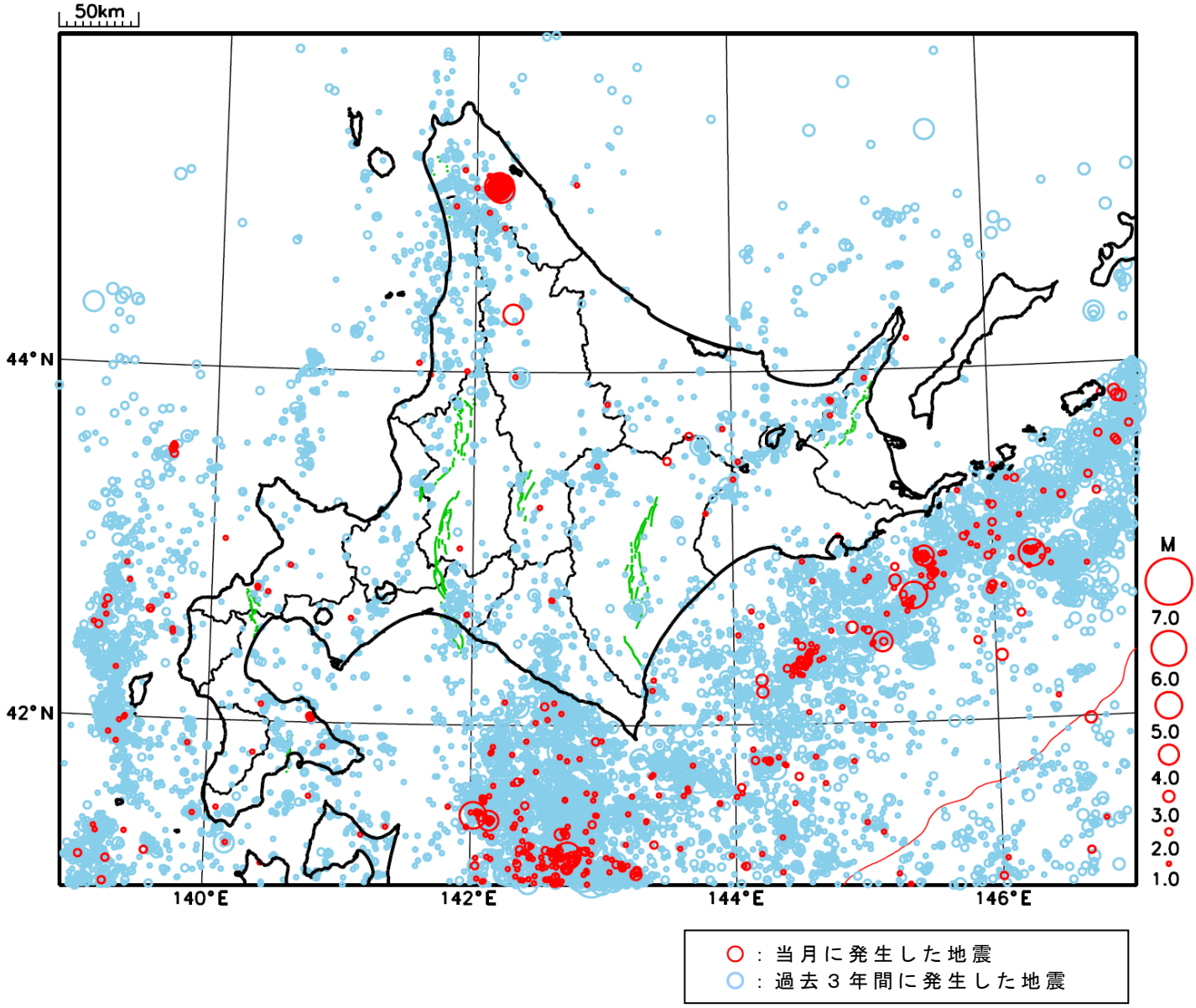
※で示した地震については東北地方の資料を参照。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

北海道地方における 2026 年 1 月の地震活動

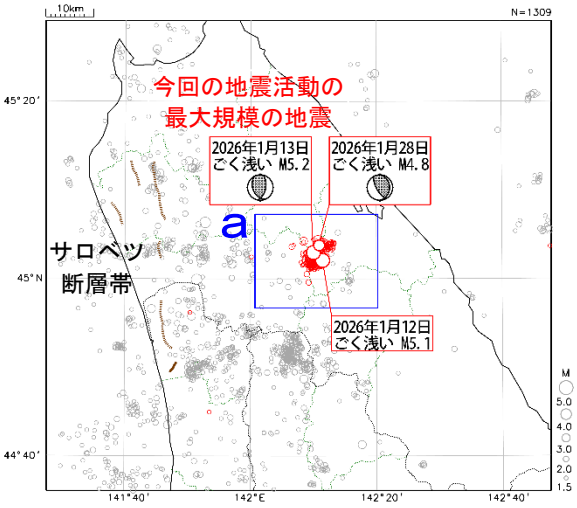
（M≧1.0、陸域 深さ 30km 以浅、海域 深さ 60km 以浅）



気象庁作成

１月12日からの宗谷地方北部・南部の地震活動

震央分布図
（2001 年 10 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～30km、M≧1.5）
2026 年１月に発生した地震を**赤色**で表示
図中の発震機構は CMT 解



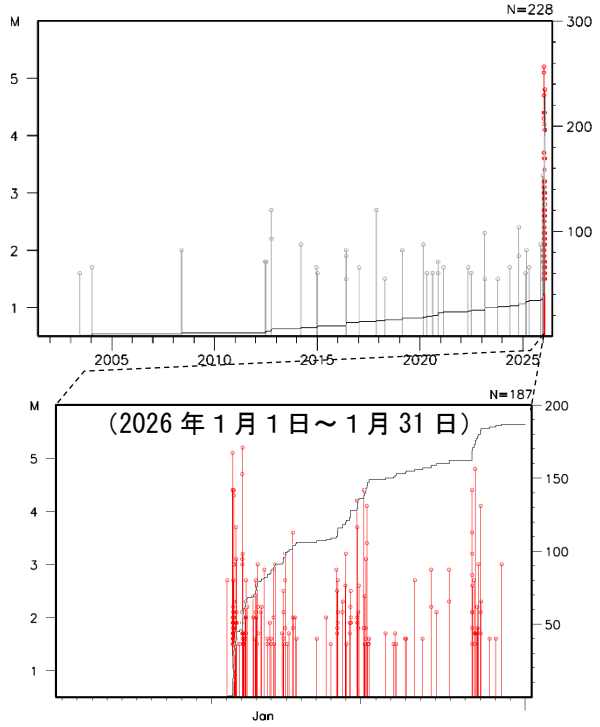
震央分布図中の茶線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

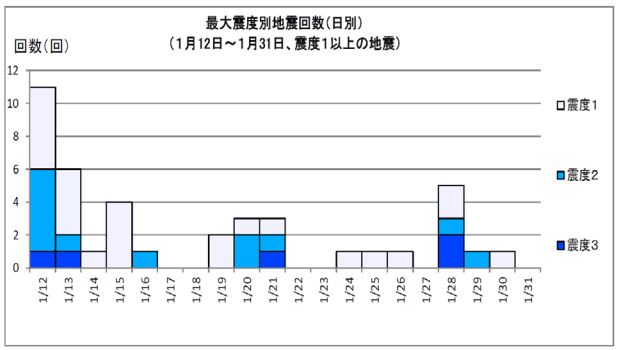
宗谷地方北部・南部では、2026年１月12日01時頃からややまとまった活動が見られ、31日までに、 震度１以上を観測した地震が41回（震度３：５回、震度２：12回、震度１：24回） 発生した。これらの地震は地殻内で発生した。このうち最大規模の地震は13日01時58分に発生したM5.2の地震（最大震度３）である。この地震の発震機構（CMT解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域ａ）では、M３程度の地震がまれに発生しているが、M5.0以上の地震は発生していなかった。

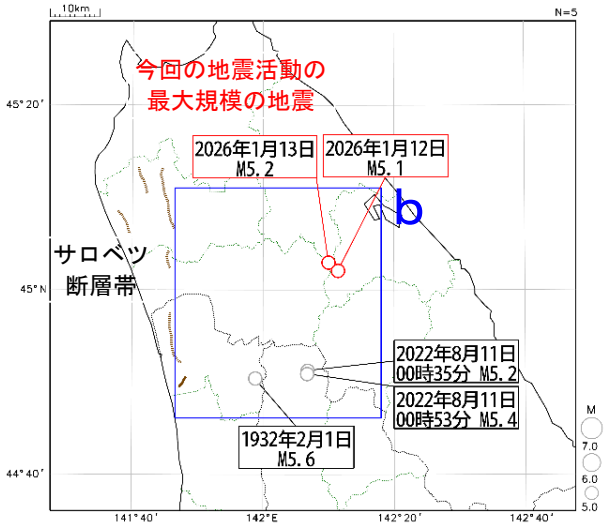
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）では、M5.0 以上の地震が今回の活動を除いて３回発生している。2022 年８月 11 日に発生した M5.4 の地震（最大震度５強）により、住家被害２棟の被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

領域ａ内のＭ－Ｔ図および回数積算図

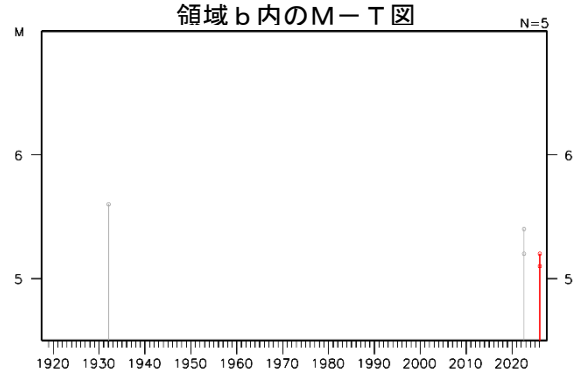




震央分布図
（1919年１月１日～2026年１月31日、
深さ０～60km、M≧5.0）



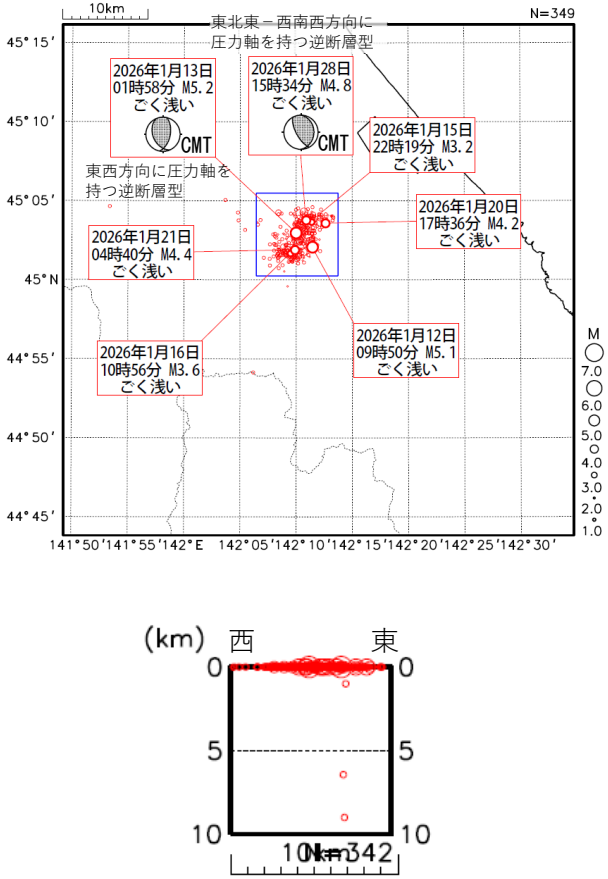
領域ｂ内のＭ－Ｔ図



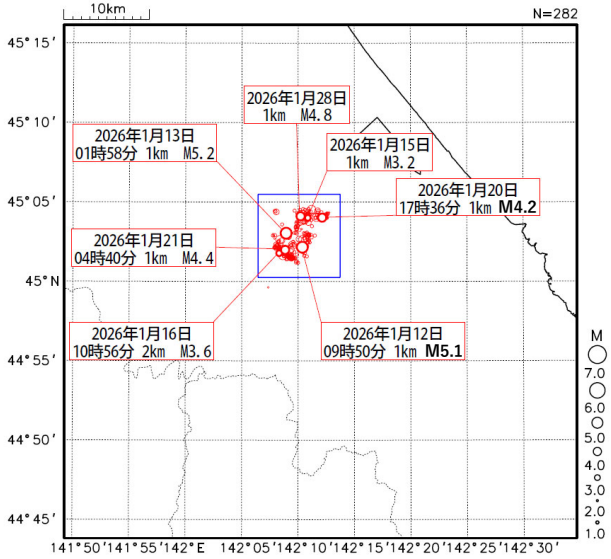
気象庁作成

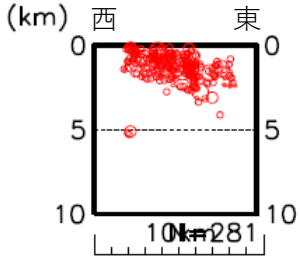
宗谷地方の地震活動

上図：一元化震源の震央分布図(2026年１月１日～28日、M≧1.0、深さ０-10km)
下図：一元化震源の断面図（東西投影）



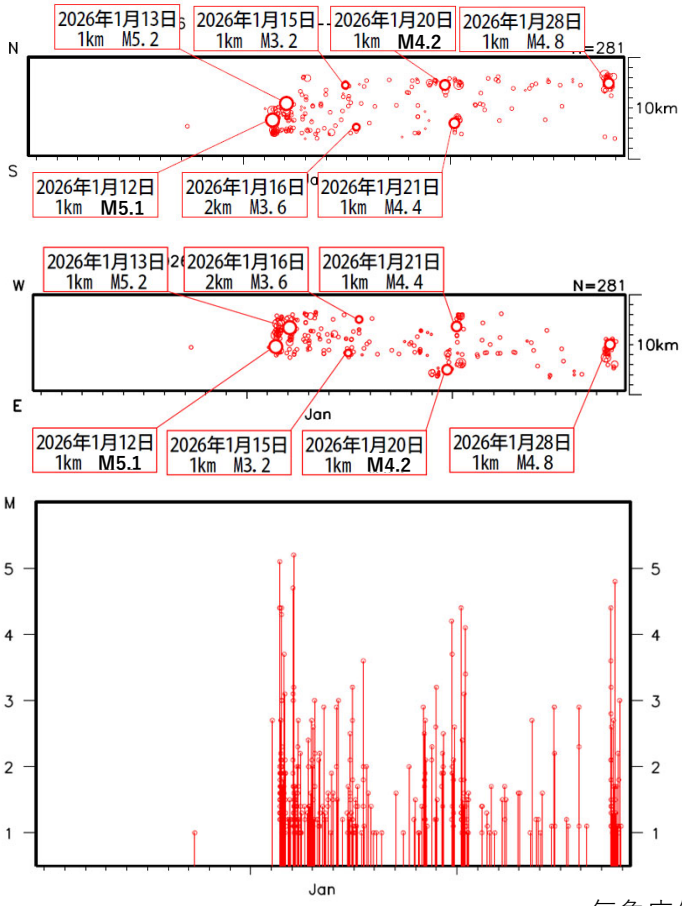
上図：DD震源の震央分布図(2026年１月１日～28日、M≧1.0、深さ０-10km)
下図：DD震源の青枠内の断面図（東西投影）





１月１日から28日までのデータを使用し波形相関を用いたDD(Double-Difference)法による震源再決定を行った。

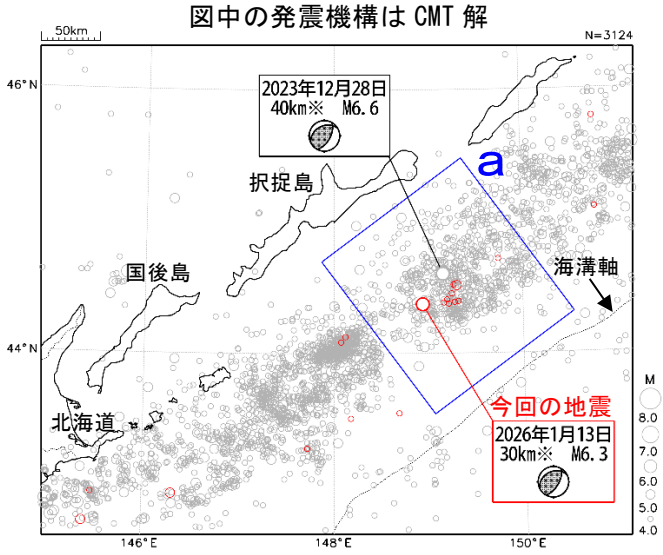
上図：DD震源の時空間分布図（南北投影）
中図：DD震源の時空間分布図（東西投影）
下図：一元化震源の青枠内のM-T図



気象庁作成

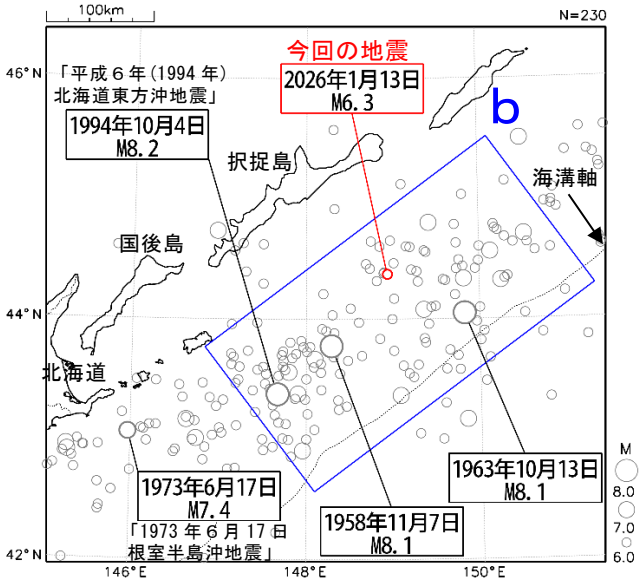
１月 13 日　択捉島南東沖の地震

震央分布図
（2001 年 10 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～100km、M≧4.0）
2026 年１月に発生した地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解



※深さは CMT 解による

震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～100km、M≧6.0）
2026 年１月の地震を赤色で表示

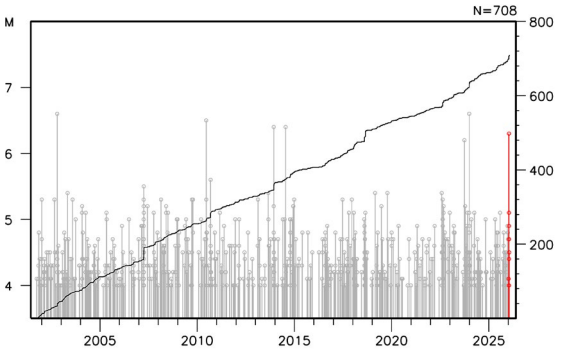


2026 年１月 13 日 16 時 34 分に択捉島南東沖の深さ 30km(CMT 解による)で M6.3 の地震（最大震度２）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。

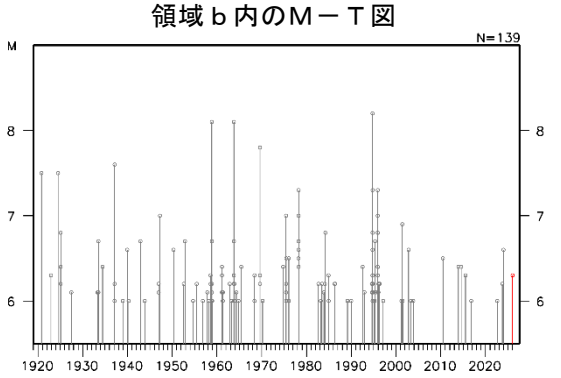
2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域ａ）では、M6.0以上の地震が今回の地震を除いて６回発生しており、直近では、2023年12月28日にM6.6の地震（最大震度３）が発生している。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）では、M8.0 以上の地震が３回発生している。1994 年 10 月４日に発生した「平成６年（1994 年）北海道東方沖地震」(M8.2、最大震度６）では、根室市花咲で 168cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測するなど、北海道から沖縄県にかけて津波を観測したほか、重軽傷者 436 人、住家被害 4,586 棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図

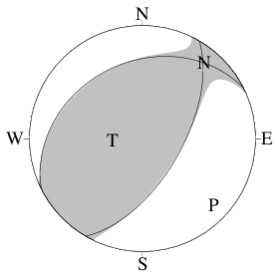
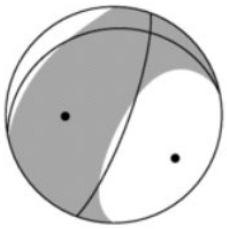
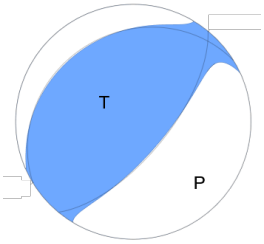


領域ｂ内のＭ－Ｔ図

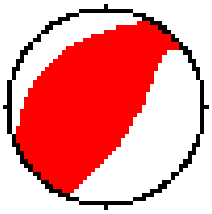
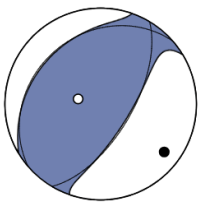


気象庁作成

１月13日　択捉島南東沖の地震（各機関のMT解）

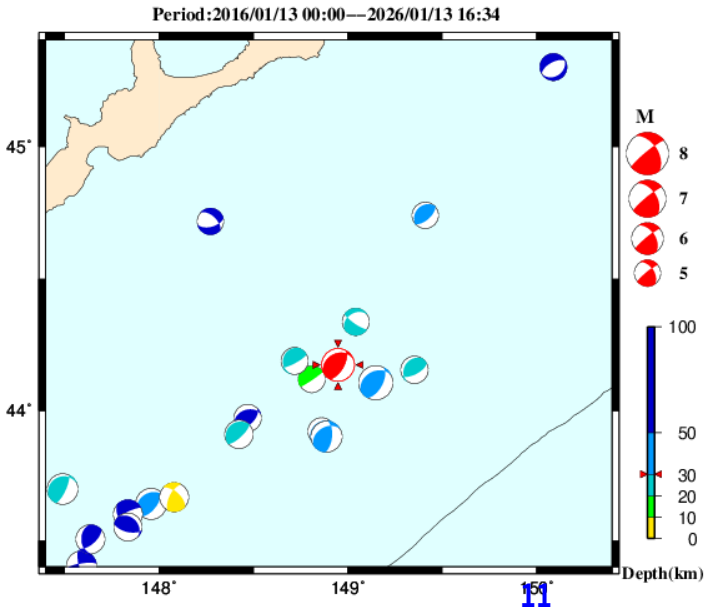
	気象庁CMT	防災科研（F-net）	USGS（W-phase）
一元化震源 M6.3 深さ30km			
Mw	6.2	6.2	6.25
深さ	30km	35km	23.5km

USGS震源 深さ36km

	Global CMT	GEOFON	防災科研（AQUA）
			（掲載なし）
Mw	6.3	6.2	
深さ	30km	40km	

防災科研（F-net）：https://www.fnet.bosai.go.jp/event/joho.php?LANG=ja
USGS（W-phase）：https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/map/
Global CMT：https://www.globalcmt.org/CMTsearch.html
GEOFON MT：https://geofon.gfz-potsdam.de/eqinfo/list.php?mode=mt
防災科研（AQUA）：https://www.hinet.bosai.go.jp/AQUA/aqua_catalogue.php?LANG=ja

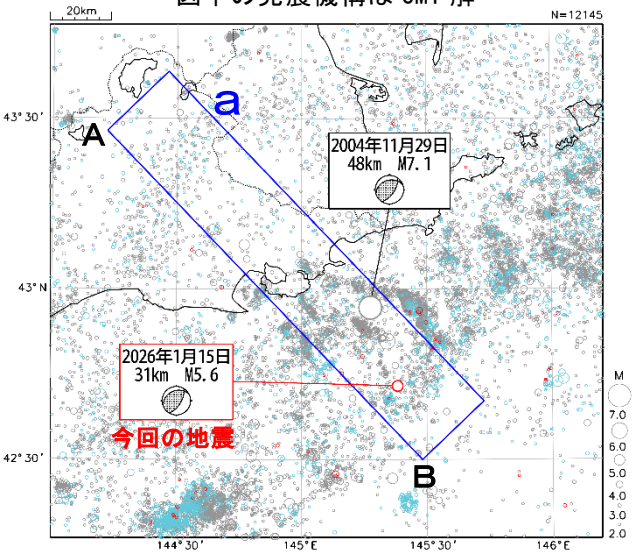
周辺の気象庁CMT解の分布図



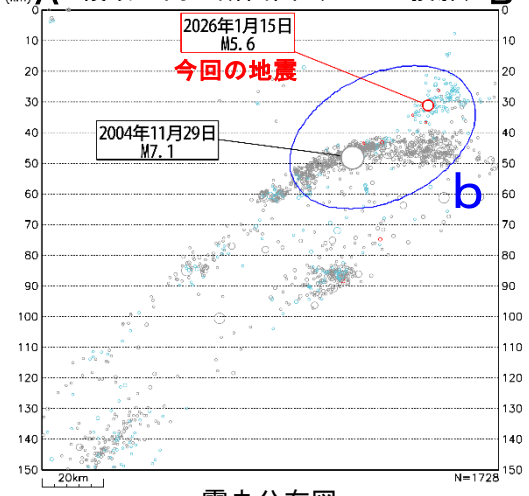
気象庁作成

１月 15 日　釧路沖の地震

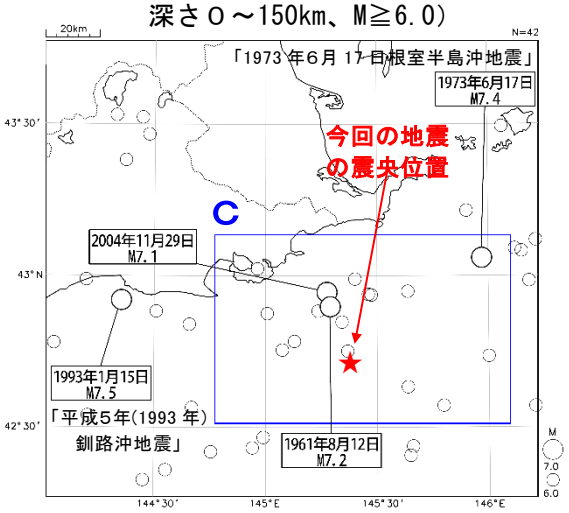
震央分布図
（2001 年 10 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～150km、M≧2.0）
2020 年９月以降に発生した地震を水色、
2026 年１月に発生した地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解



領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～150km、M≧6.0）

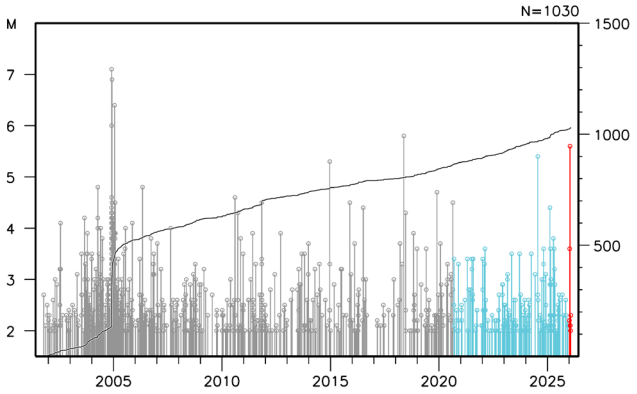


2026年１月15日07時13分に釧路沖の深さ31kmでM5.6の地震（最大震度３）が発生した。発震機構（CMT解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

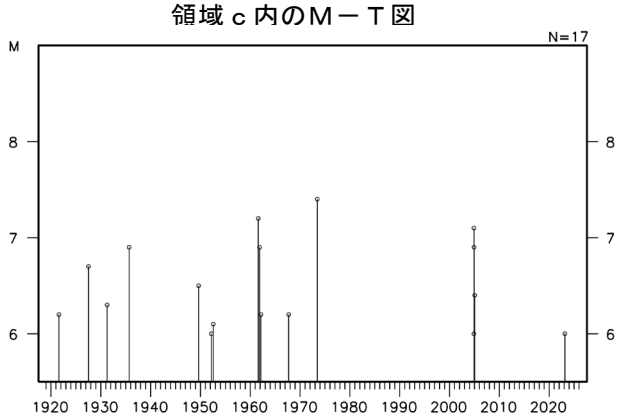
2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、M5.0以上の地震が時々発生している。2004年11月29日に発生したM7.1（最大震度５強）の地震では、負傷者52人、住家被害５棟などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ12cmの津波を観測するなど、北海道太平洋沿岸東部で小さな津波を観測した（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M7.0以上の地震が３回発生している。「1973年６月17日根室半島沖地震」（M7.4、最大震度５）では、根室・釧路地方で負傷者26人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ280cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



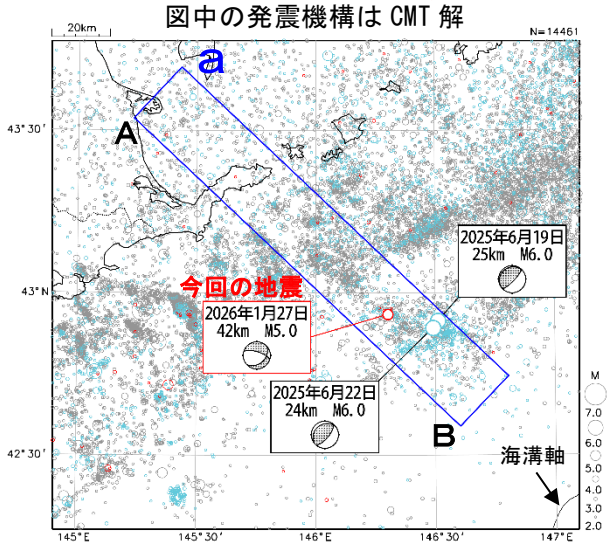
領域ｃ内のＭ－Ｔ図

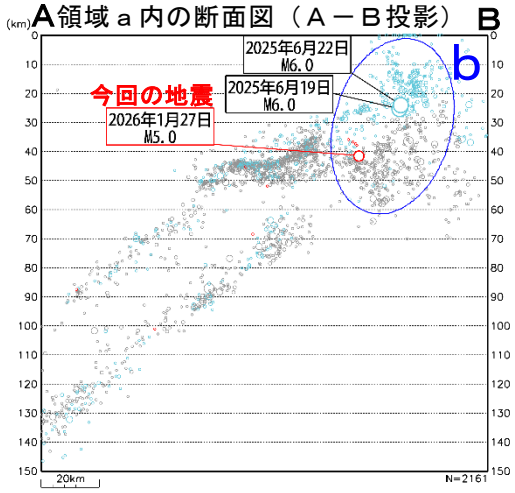


気象庁作成

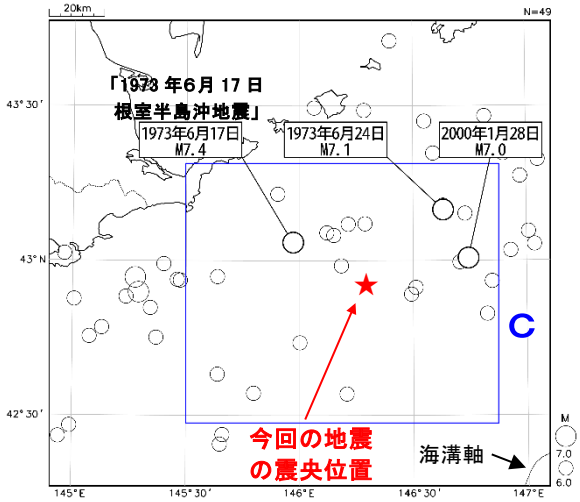
１月 27 日　根室半島南東沖の地震

震央分布図
（2001 年 10 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～150km、M≧2.0）
2020 年９月以降に発生した地震を水色、
2026 年１月に発生した地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解





震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～150km、M≧6.0）

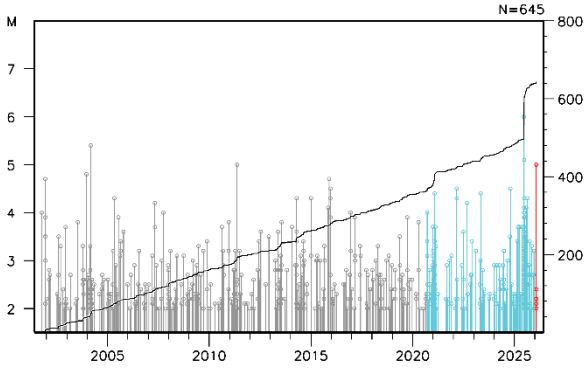


2026年１月27日11時47分に根室半島南東沖の深さ42kmでM5.0の地震（最大震度３）が発生した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は南北方向に張力軸を持つ型である。

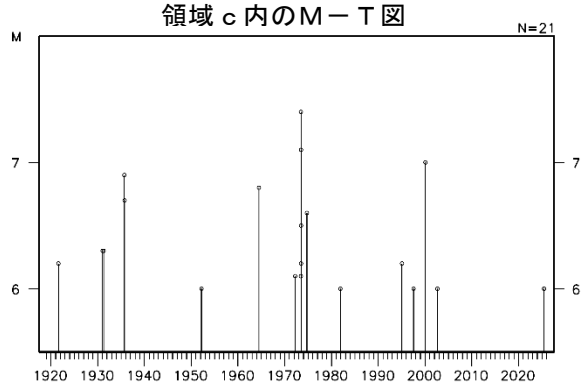
2001年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、M5.0以上の地震が今回の地震を除いて４回発生している。最大規模の地震は2025年６月19日に発生したM6.0の地震（最大震度４）と、同年６月22日に発生したM6.0の地震（最大震度３）である。

1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M7.0以上の地震が３回発生している。「1973年６月17日根室半島沖地震」（M7.4、最大震度５）では、根室・釧路地方で負傷者26人などの被害が生じ、根室市花咲で最大の高さ280cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測するなど、北海道から四国地方にかけての太平洋沿岸で津波を観測した（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



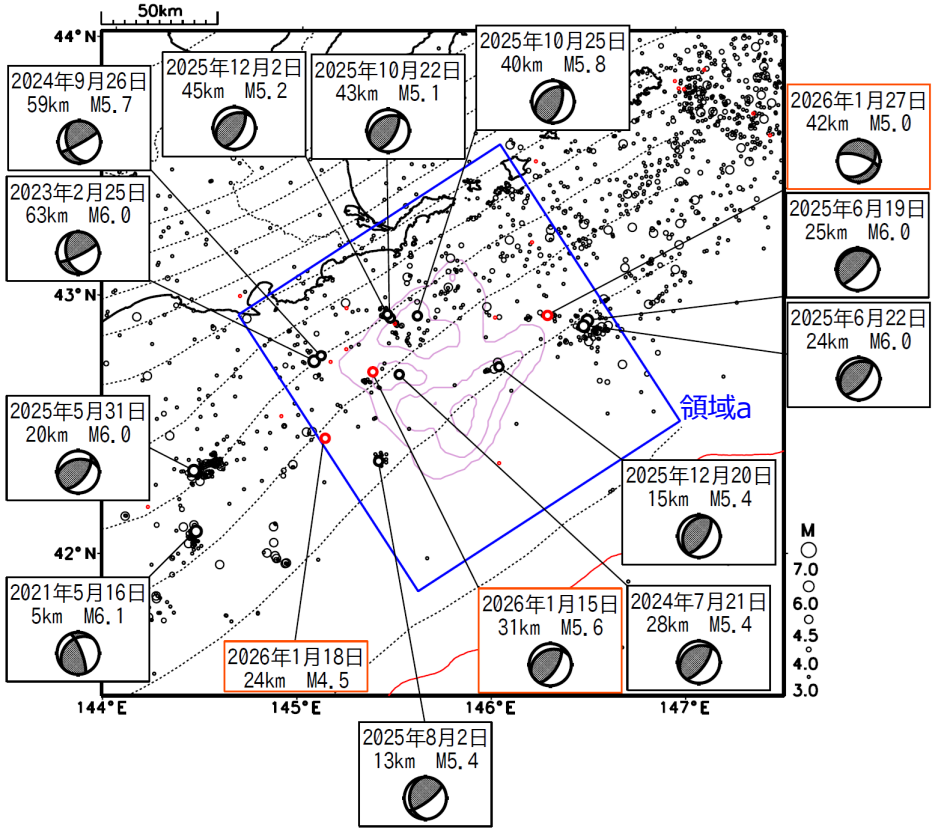
領域ｃ内のＭ－Ｔ図



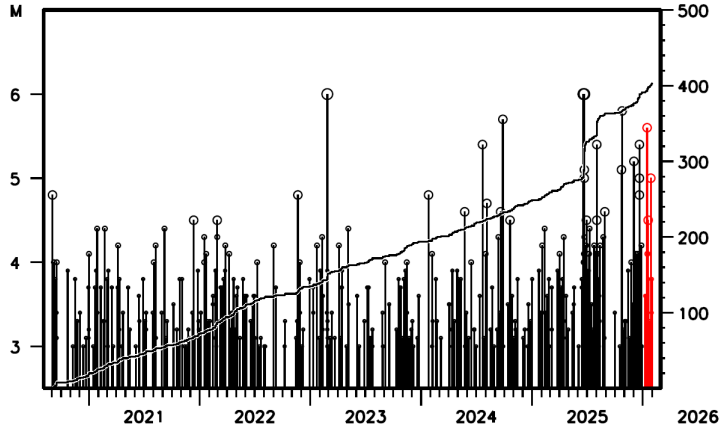
気象庁作成

1月15日釧路沖の地震・27日根室半島南東沖の地震（1973年根室半島沖地震の地震時すべり分布）

震央分布図
2020年9月1日（S-net活用）～2026年1月31日、深さ0～150km、M≧3.0
発震機構はCMT解を示す
2026年1月の地震を赤色で表示



領域a内のM-T図及び回数積算図



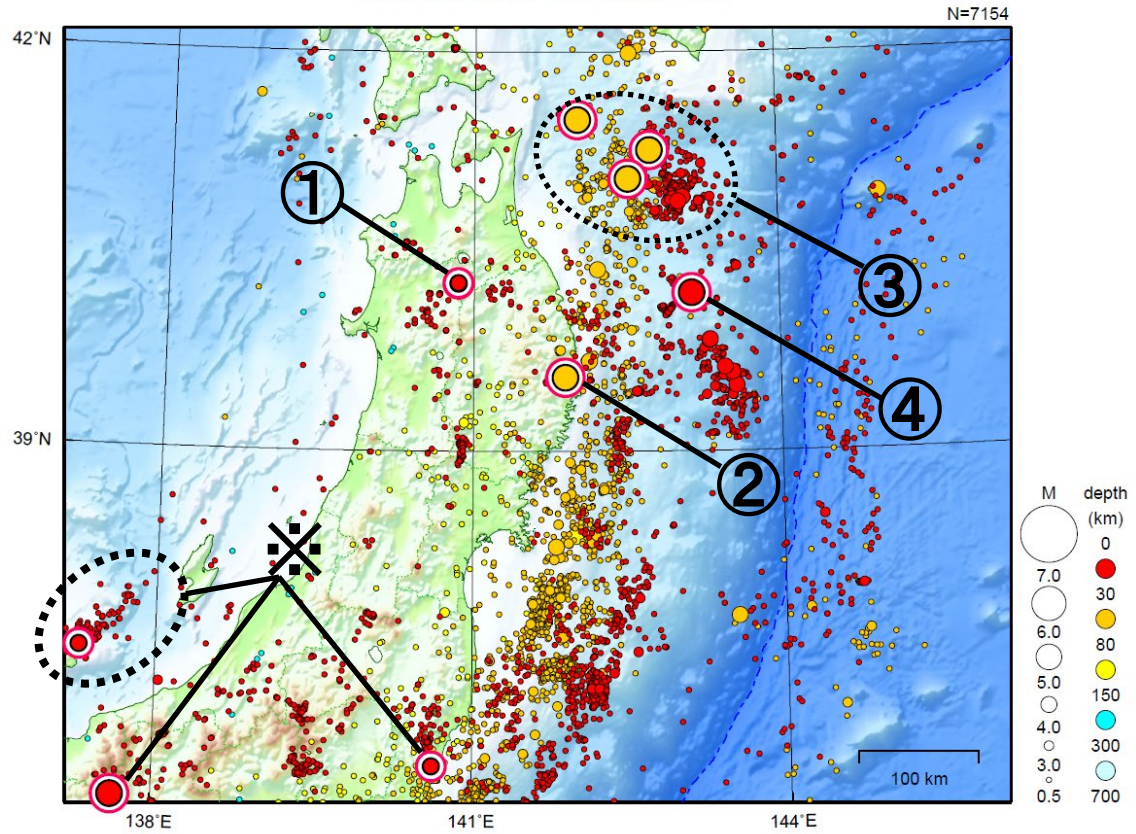
・薄紫色のコンターは、1973年根室半島沖地震の地震時すべり分布〔山中(2005)〕を示す。

・黒色破線は、太平洋プレート上面モデルの等深線（Kita et al., 2010、Nakajima and Hasegawa, 2006）を示す（10km間隔）。

気象庁作成

東北地方

2026/01/01 00:00 ~ 2026/01/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 1月9日 18時56分に秋田県内陸北部で M4.3 の地震（最大震度４）、同日 20 時 24 分に M4.2 の地震（最大震度４）が発生した。

② 1月 11 日に岩手県沿岸北部で M5.1 の地震（最大震度４）が発生した。

③ 1月 17 日に青森県東方沖で M5.4 の地震（最大震度３）、21 日に M5.3 の地震（最大震度３）、22 日に M5.5 の地震（最大震度３）が発生した。青森県東方沖では、1月中に震度１以上を観測した地震が 10 回（震度３：３回、震度２：２回、震度１：５回）発生した。

④ 1月 28 日に三陸沖で M5.2 の地震（最大震度３）が発生した。

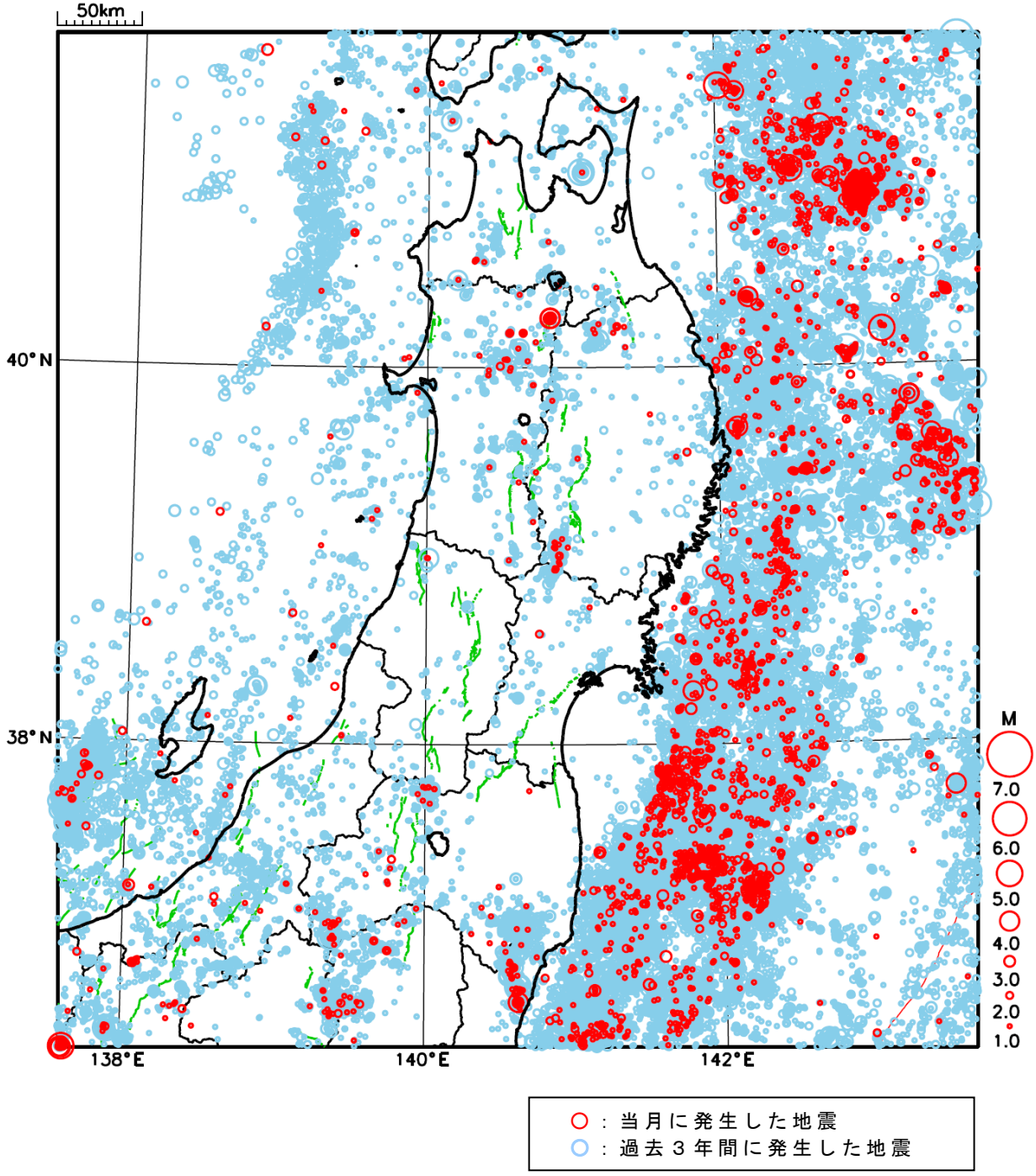
※で示した地震については関東・中部地方の資料を参照。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

東北地方における 2026 年 1 月の地震活動

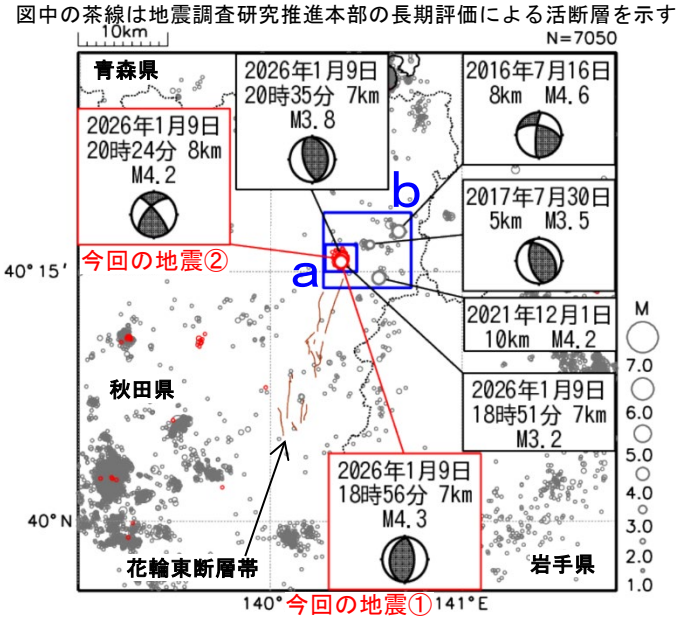
（M≧1.0、陸域 深さ 30km 以浅、海域 深さ 60km 以浅）



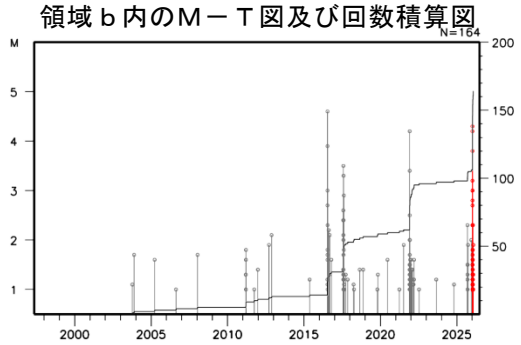
気象庁作成

１月９日　秋田県内陸北部の地震

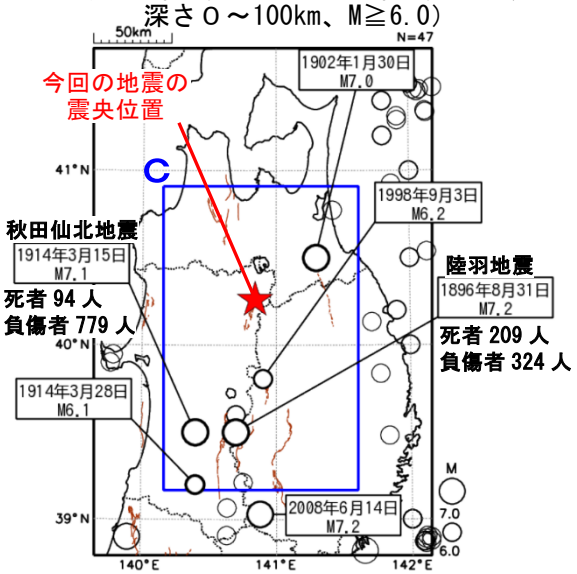
震央分布図
（1997年10月１日～2026年１月31日、
深さ０～30km、M≧1.0）
○1997年10月１日～2025年12月31日　○2026年１月１日以降
図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。



領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



震央分布図
（1885年１月１日～2026年１月31日、
深さ０～100km、M≧6.0）

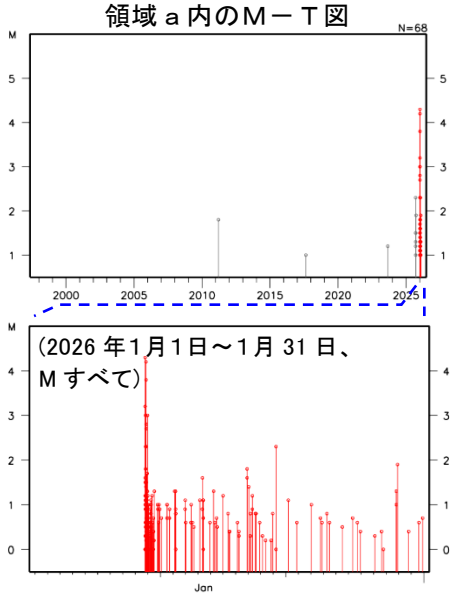


図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。
震源要素は、1885年～1918年は茅野・宇津(2001)、宇津(1982,1985)による。
被害は「日本被害地震総覧」による。

2026年１月９日18時56分に秋田県内陸北部の深さ７kmでM4.3の地震（図中①、最大震度４）が発生した。この地震は発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型である。同日20時24分にほぼ同じ場所の深さ８kmでM4.2の地震（図中②、最大震度４）が発生した。この地震は発震機構が東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。これらの地震は地殻内で発生した。これらの地震の震央の近傍（領域ａ）では、９日18時51分にM3.2の地震（最大震度３）が発生して以降地震活動が活発となり、同日24時までに震度１以上を観測する地震が８回（震度４：２回、震度３：２回、震度２：２回、震度１：２回）発生した。

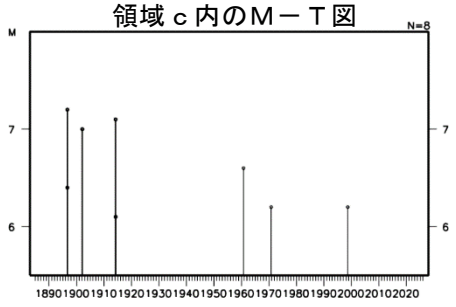
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域ｂ）では、2016年７月16日にM4.6の地震（最大震度３）が発生するなど、M4.0以上の地震が時々発生している。

領域ａ内のＭ－Ｔ図



1885年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M6.0以上の地震が時々発生している。1896年８月31日には「陸羽地震」（M7.2）が発生し、死者209人などの被害が生じた。また、1914年３月15日には秋田仙北地震（M7.1、強首（こわくび）地震とも呼ばれる）が発生し、死者94人などの被害が生じた（被害はいずれも「日本被害地震総覧」による）。

領域ｃ内のＭ－Ｔ図



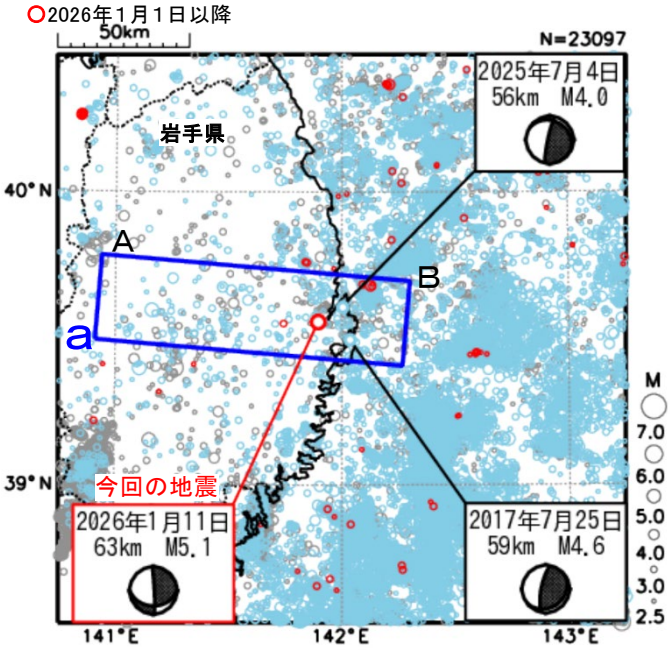
宇津徳治(1982)：日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年，震研彙報，56，401-463.
宇津徳治(1985)：日本付近のM6.0以上の地震および被害地震の表：1885年～1980年（訂正と追加），震研彙報，60，639-642.
茅野一郎・宇津徳治(2001)：日本の主な地震の表，「地震の事典」第２版，朝倉書店，657pp.

気象庁作成

１月11日　岩手県沿岸北部の地震

震央分布図
（1997年10月1日～2026年1月31日、
深さ0～140km、M≧2.5）

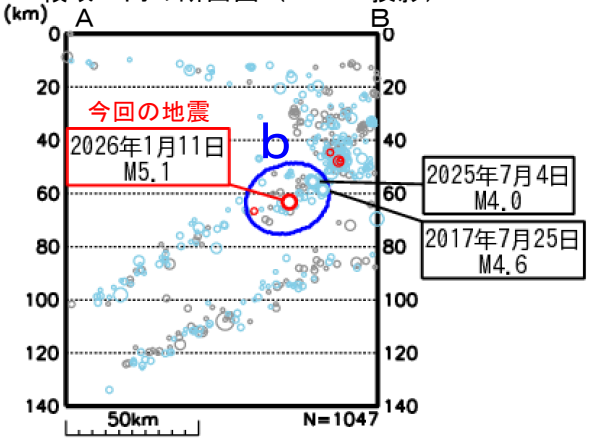
○1997年10月1日～2011年2月28日　○2011年3月1日～2025年12月31日
○2026年1月1日以降



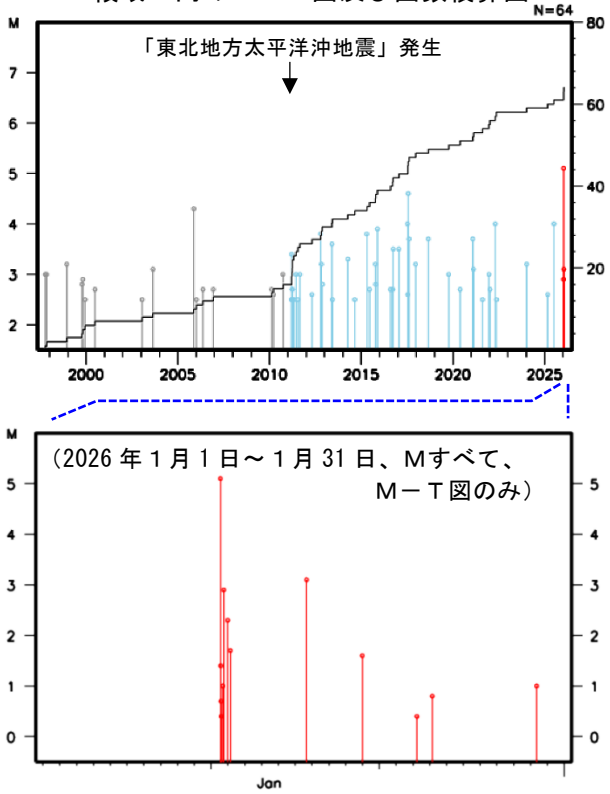
2026年１月11日13時15分に岩手県沿岸北部の深さ63kmでM5.1の地震（最大震度４）が発生した。この地震は太平洋プレート内部（二重地震面の上面）で発生した。発震機構は太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）は「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）以降、地震活動が活発となっており、M4.0以上の地震が時々発生している。

領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）

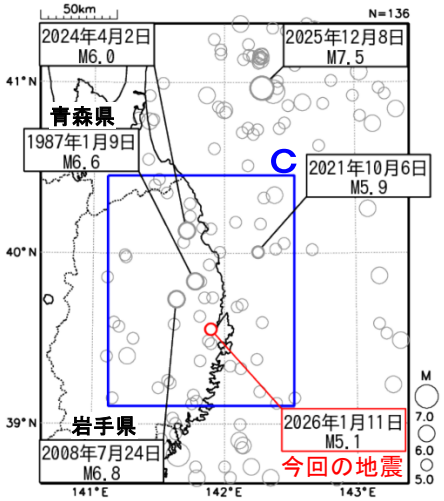


領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



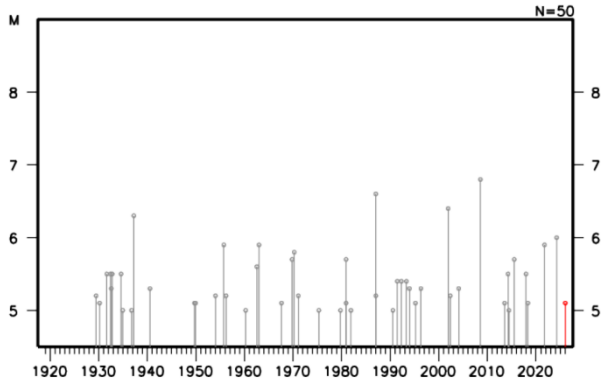
震央分布図
（1919年1月1日～2026年1月31日、
深さ50～150km、M≧5.0）

○ 1919 年1月1日～2025 年 12 月 31 日
○ 2026 年1月1日以降



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、Ｍ６を超える地震が時々発生しており、2008年７月24日には深さ108kmでM6.8の地震（最大震度６弱）が発生した。この地震により死者１人、負傷者211人、住家全壊１棟、一部破損379棟などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

領域ｃ内のＭ－Ｔ図



気象庁作成

１月 17 日、21 日、22 日　青森県東方沖の地震

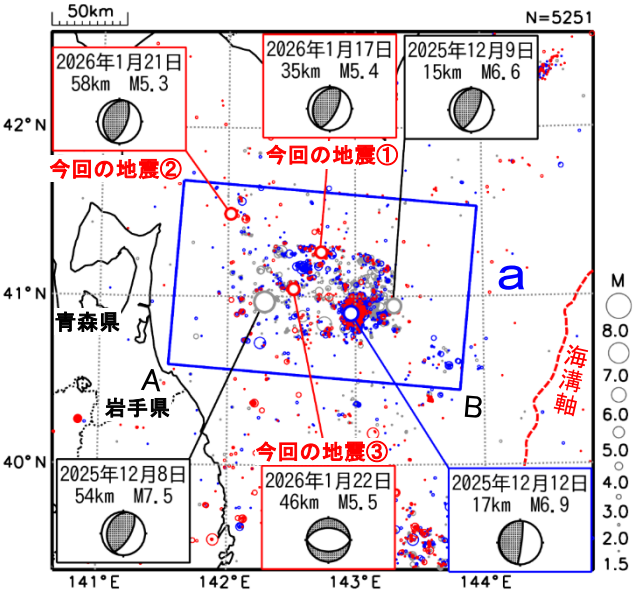
（2025 年 12 月８日からの青森県東方沖の地震活動）

震央分布図

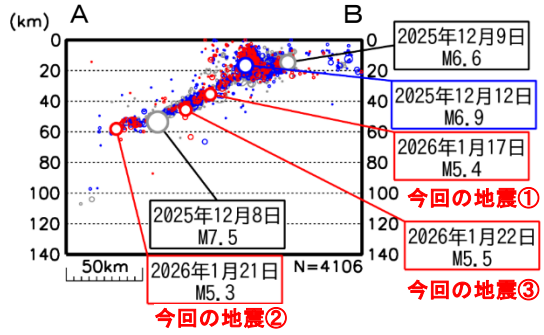
（2025年12月1日～2026年１月31日、深さ0～140km、M≧1.5）

○2025年12月１日～2025年12月11日　○2025年12月12日～2025年12月31日

○2026年１月１日以降　　図中の発震機構はCMT解を示す

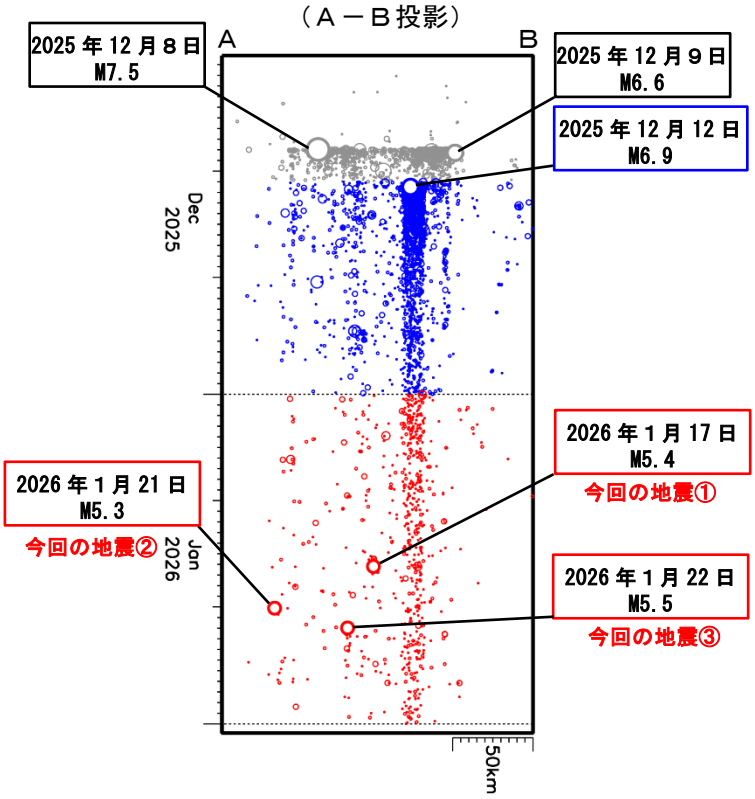


領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



領域ａ内の時空間分布図

（Ａ－Ｂ投影）



2026年１月17日04時34分に青森県東方沖の深さ35kmでM5.4の地震（最大震度３、図中①）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

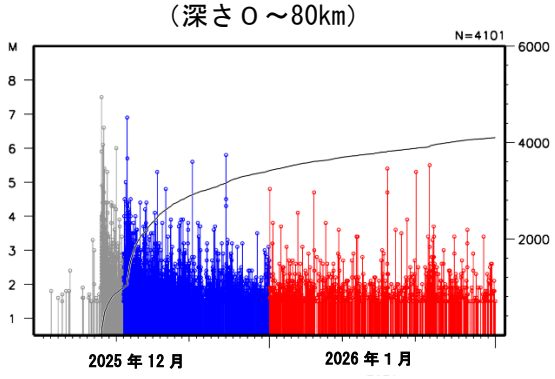
また、１月21日02時51分に①の地震の震央から西方の陸寄りの場所の深さ58kmでM5.3の地震（最大震度３、図中②）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

さらに、図中①の震央付近では１月22日23時31分に深さ46kmでM5.5の地震（最大震度３，図中③）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が南北方向に張力軸を持つ正断層型で、太平洋プレート内部で発生した。

今回の地震の震央周辺（領域ａ）では、2025年12月８日にM7.5の地震が発生して以降地震活動が継続しており、特に2025年12月12日のM6.9の地震の震源付近で活発に推移している。領域ａ内で12月８日から１月31日までに震度１以上を観測した地震は、60回（震度６強：１回、震度４：４回、震度３：９回、震度２：16回、震度１：30回）であった。

領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図

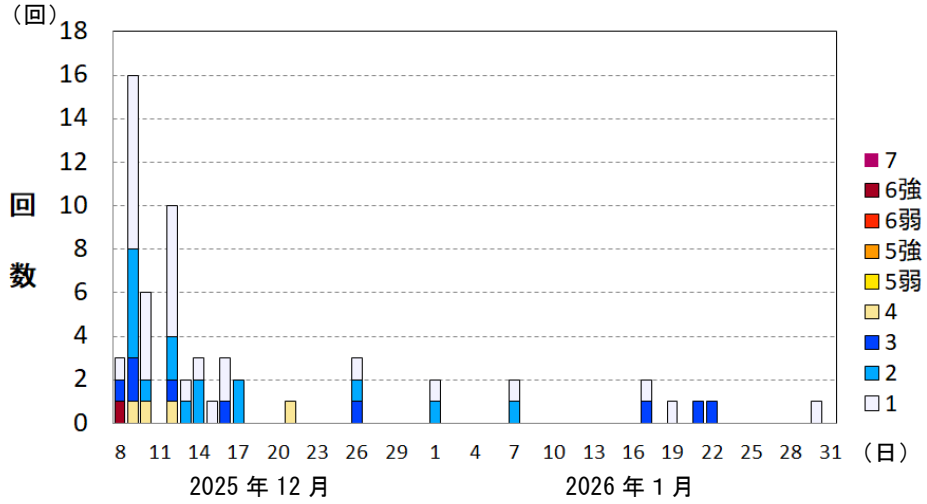
（深さ０～80km）



気象庁作成

最大震度別地震回数（日別）

（2025 年 12 月 8 日 23 時～2026 年 1 月 31 日 24 時、震度 1 以上の地震）

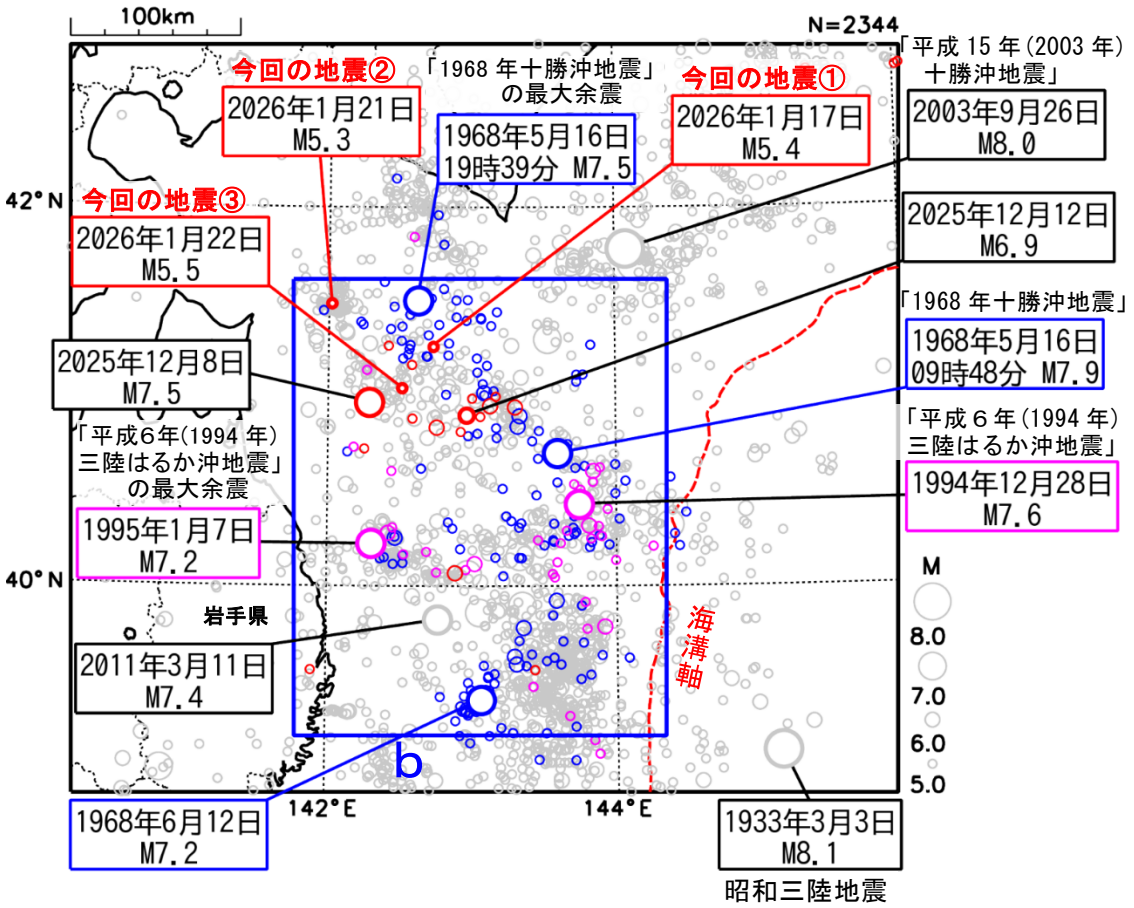


日別	最大震度別回数									震度1以上を観測した回数		震度4以上を観測した回数	
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	回数	累計
12/8 23時-24時	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3	3	1	1
12/9 00時-24時	8	5	2	1	0	0	0	0	0	16	19	1	2
12/10 00時-24時	4	1	0	1	0	0	0	0	0	6	25	1	3
12/11 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	3
12/12 00時-24時	6	2	1	1	0	0	0	0	0	10	35	1	4
12/13 00時-24時	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	37	0	4
12/14 00時-24時	1	2	0	0	0	0	0	0	0	3	40	0	4
12/15 00時-24時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	41	0	4
12/16 00時-24時	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	44	0	4
12/17 00時-24時	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	46	0	4
12/18 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	0	4
12/19 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	0	4
12/20 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	0	4
12/21 00時-24時	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	47	1	5
12/22 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	5
12/23 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	5
12/24 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	5
12/25 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47	0	5
12/26 00時-24時	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3	50	0	5
12/27 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	5
12/28 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	5
12/29 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	5
12/30 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	5
12/31 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50	0	5
1/1 00時-24時	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	52	0	5
1/2 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	5
1/3 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	5
1/4 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	5
1/5 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	5
1/6 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	5
1/7 00時-24時	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	54	0	5
1/8 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/9 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/10 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/11 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/12 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/13 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/14 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/15 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/16 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	54	0	5
1/17 00時-24時	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	56	0	5
1/18 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	0	5
1/19 00時-24時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	57	0	5
1/20 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	57	0	5
1/21 00時-24時	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	58	0	5
1/22 00時-24時	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	59	0	5
1/23 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0	5
1/24 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0	5
1/25 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0	5
1/26 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0	5
1/27 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0	5
1/28 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0	5
1/29 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	59	0	5
1/30 00時-24時	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	60	0	5
1/31 00時-24時	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	60	0	5
総計	30	16	9	4	0	0	0	1	0	－	60	－	5

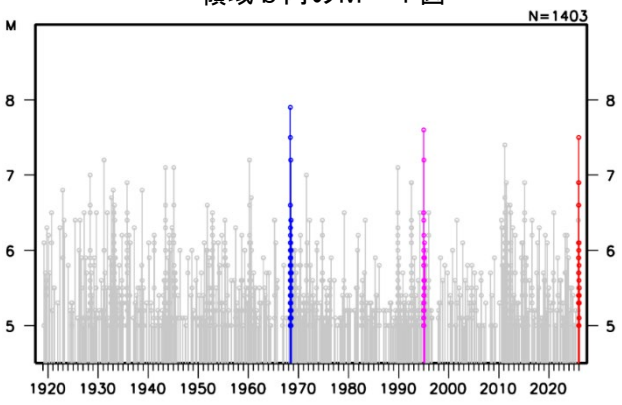
最大震度別地震回数表（日別）

気象庁作成

震央分布図（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、深さ０～100km、M≧5.0）
○1968 年５月 16 日～1968 年７月 31 日　○1994 年 12 月 28 日～1995 年２月 28 日
○2025 年 12 月１日以降　○上記以外の期間



領域ｂ内のＭ－Ｔ図



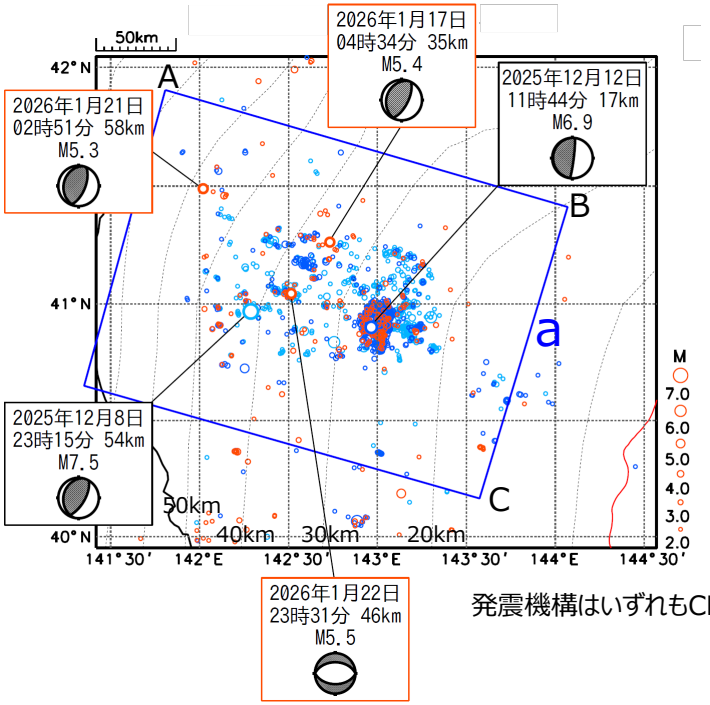
1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）では、Ｍ７を超える地震が時々発生している。このうち、1968年５月16日には「1968年十勝沖地震」（M7.9、最大震度５）が発生し、青森県八戸［火力発電所］で295cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測したほか、死者52人、負傷者330人、住家全壊673棟、半壊3,004棟、一部破損15,697棟などの被害が生じた。

また、1994年12月28日には「平成６年（1994年）三陸はるか沖地震」（M7.6、最大震度６）が発生した。この地震により、青森県八戸と岩手県宮古で50cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測した（「験震時報第64巻」による）ほか、死者３人、負傷者688人、住家全壊72棟、半壊429棟、一部破損9,021棟などの被害が生じた（被害は、いずれも「日本被害地震総覧」による）。

気象庁作成

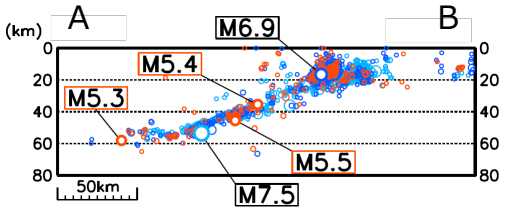
1月17日・21日・22日　青森県東方沖の地震（2025年12月8日M7.5の地震以降の地震活動）

震央分布図
2025年12月8日20時00分～2026年1月31日日24時00分、
深さ0～80km、M≧2.0



発震機構はいずれもCMT解

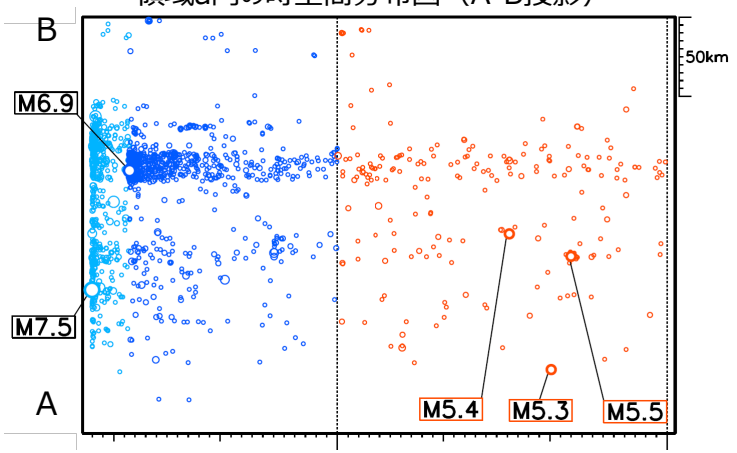
領域a内の断面図（A-B投影）



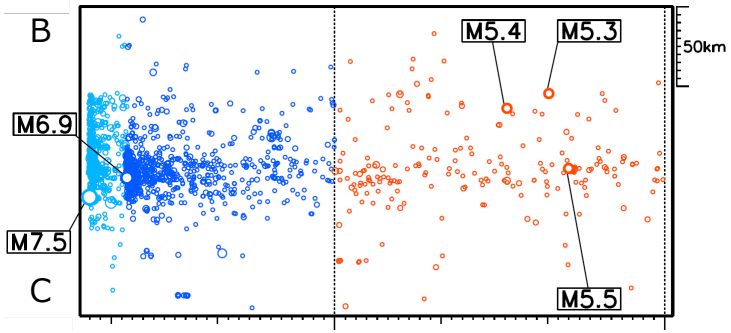
○2025年12月8日20時00分～12日11時43分（M6.9発生前）
○2025年12月12日11時44分（M6.9発生）～31日24時00分
○2026年1月1日～31日

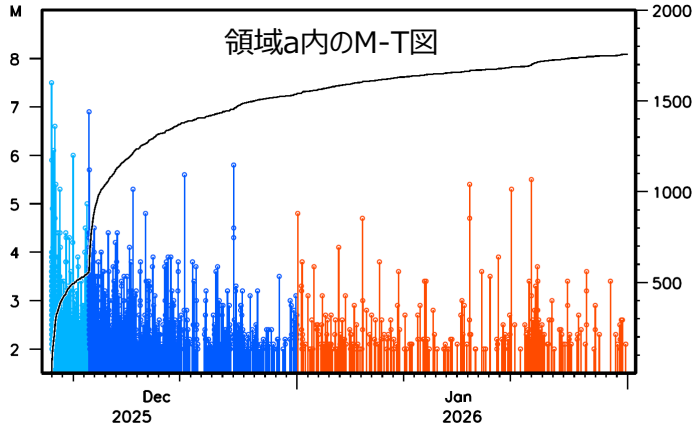
震央分布図中の黒色破線は、Kita et al. (2010)およびNakajima and Hasegawa (2006)による太平洋プレート上面のおよその深さを示す

領域a内の時空間分布図（A-B投影）



領域a内の時空間分布図（B-C投影）



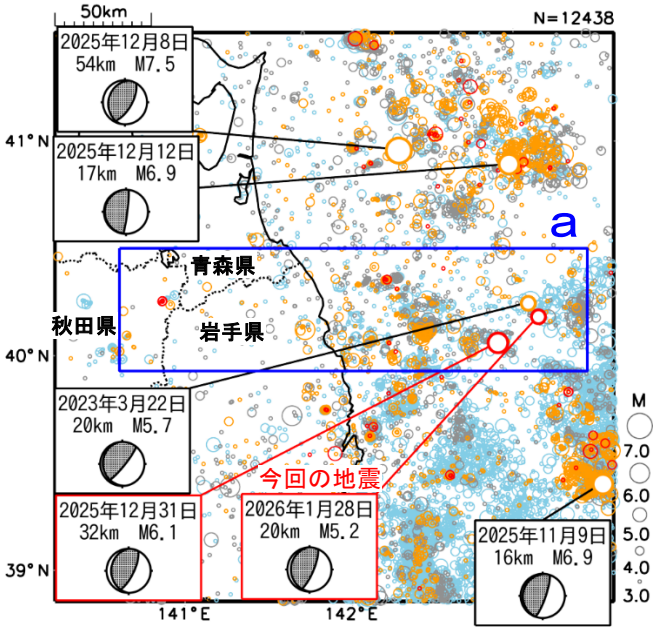


気象庁作成

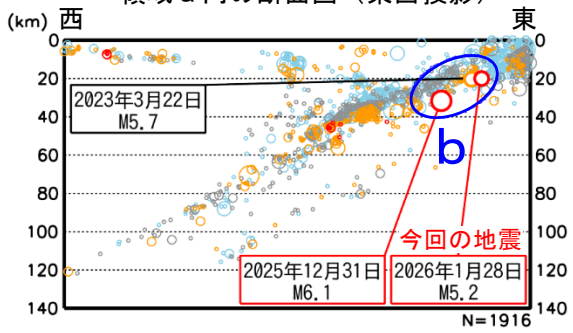
１月 28 日　三陸沖の地震

震央分布図
（1997年10月1日～2026年１月31日、
深さ0～140km、M≧3.0）

○1997年10月1日～2011年2月28日　○2011年3月1日～2020年8月31日
○2020年9月1日～2025年12月31日　○2025年12月31日以降

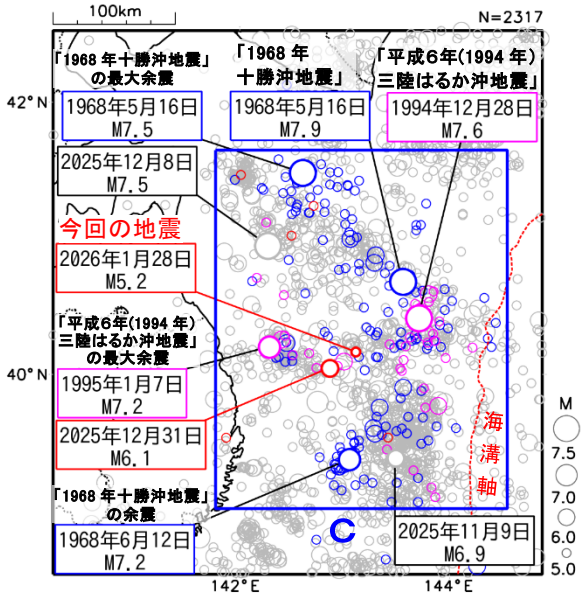


領域ａ内の断面図（東西投影）



震央分布図
（1919年１月１日～2026年１月31日、
深さ0～100km、M≧5.0）

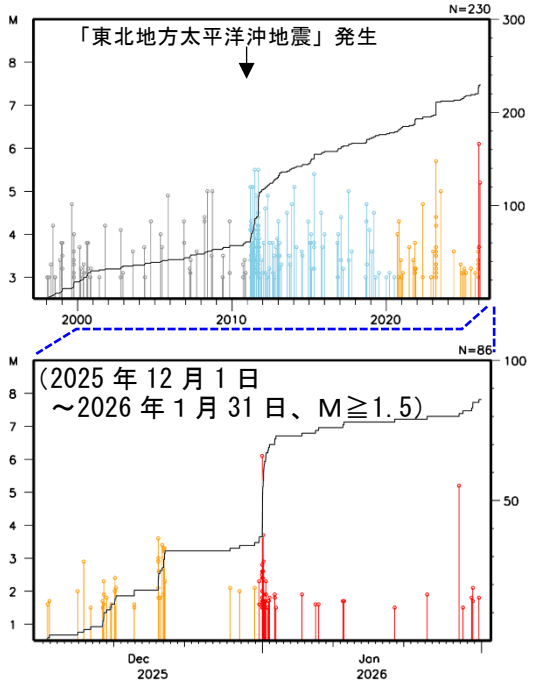
○1968 年 5 月 1 日～7 月 31 日
○1994 年 12 月 1 日～1995 年 2 月 28 日
○2025 年 12 月 31 日～2026 年 1 月 31 日　○上記以外の期間



2026年１月28日19時45分に三陸沖の深さ20kmでM5.2の地震（最大震度３）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

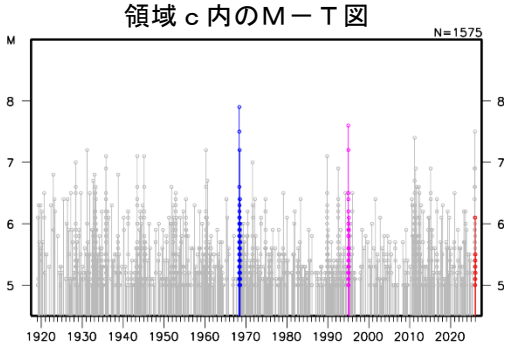
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では2025年12月31日に深さ32kmでM6.1の地震（最大震度４）が発生するなど「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）以降、地震活動が活発となっていた。また、今回の地震の震央周辺では、2025年11月９日に三陸沖でM6.9の地震（最大震度４）が、2025年12月８日には青森県東方沖でM7.5の地震（最大震度６強）が発生している。

領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、Ｍ７を超える地震が時々発生しており、1968年５月16日に「1968年十勝沖地震」(M7.9、最大震度５、死者52人)で、青森県八戸［火力発電所］で295cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測した。また、1994年12月28日には「平成６年(1994年)三陸はるか沖地震」(M7.6、最大震度６、死者３人)が発生し、青森県八戸と岩手県宮古で50cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測した（「験震時報第64巻」による）。被害は、いずれも「日本被害地震総覧」による。

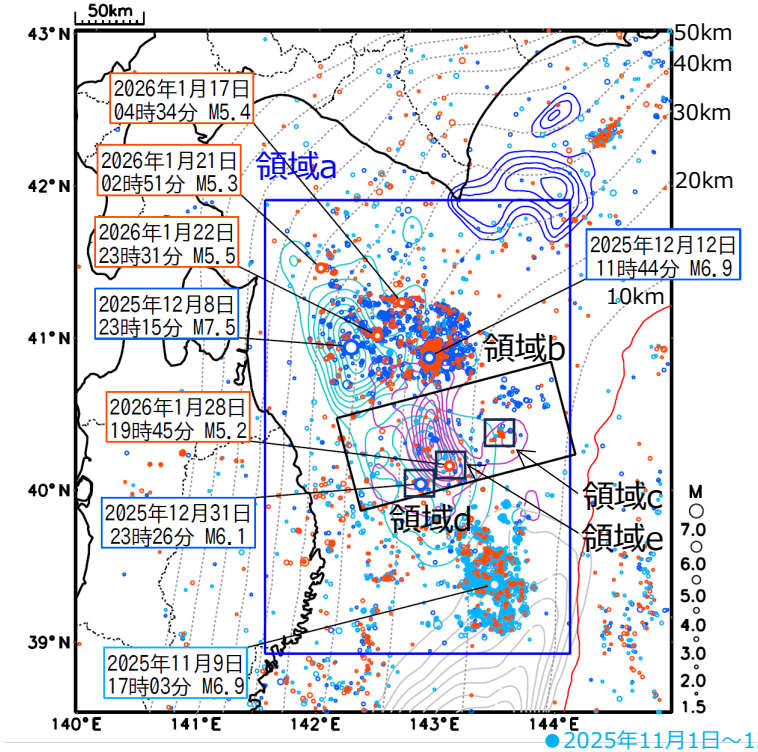
領域ｃ内のＭ－Ｔ図



気象庁作成

青森県東方沖・岩手県沖・三陸沖　周辺の地震活動

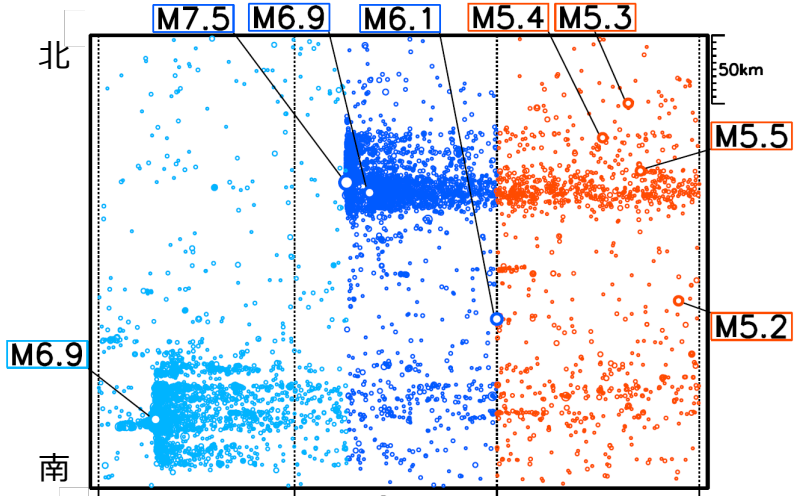
震央分布図
2025年11月1日～2026年1月31日、深さ0～100km、M≧1.5

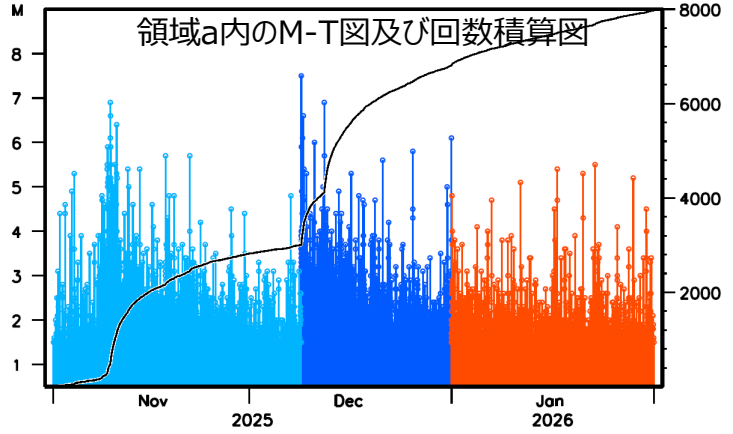


●2025年11月1日～12月8日23時14分
●2025年12月8日23時15分～31日24時00分
●2026年1月1日～31日

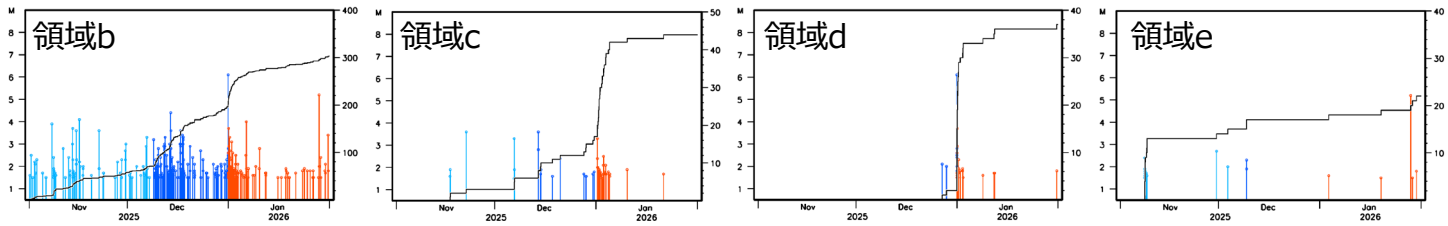
色付きのコンターは主な地震のすべり分布
　青色：2003年十勝沖地震（Yamanaka and Kikuchi, 2003）
　水色：1968年十勝沖地震（永井・他, 2001）
　紫色：1994年三陸はるか沖地震（永井・他, 2001）
　灰色：2011年東北地方太平洋沖地震（Yoshida et al., 2011）
黒色破線は太平洋プレート上面のおよその深さ
　Kita et al. (2010)及びNakajima and Hasegawa (2006)

領域a内の時空間分布図（南北投影）

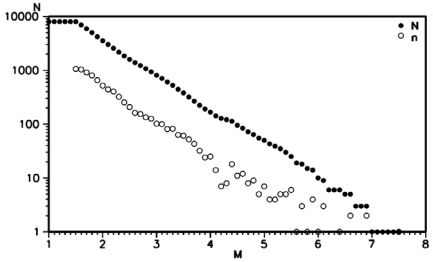




領域b-e内のM-T図及び回数積算図



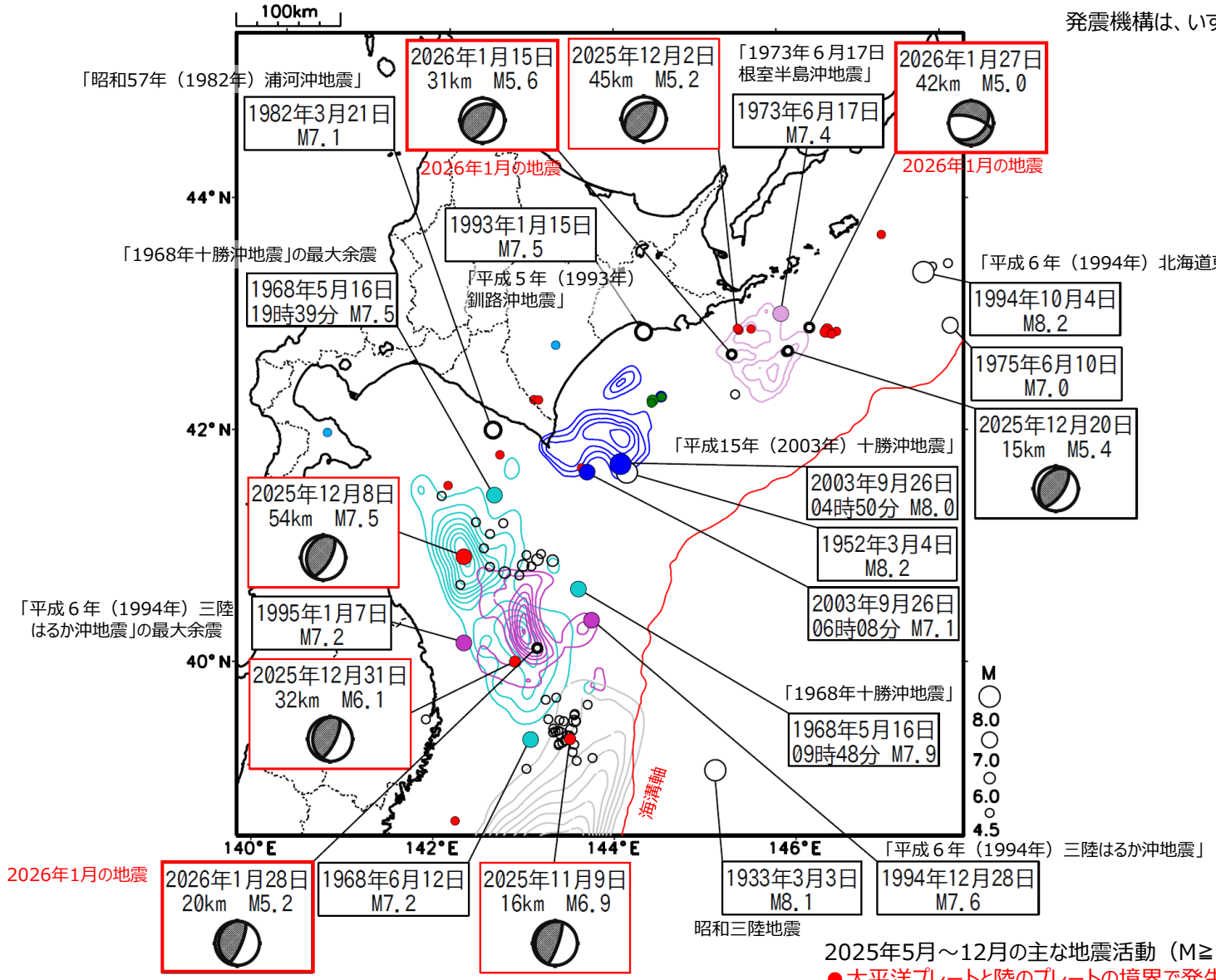
領域a内のM別頻度分布図



気象庁作成

2025年5月～2026年1月の主な地震活動と1919年以降の主な被害地震（北海道東方沖～三陸沖）

発震機構は、いずれもCMT解を示す



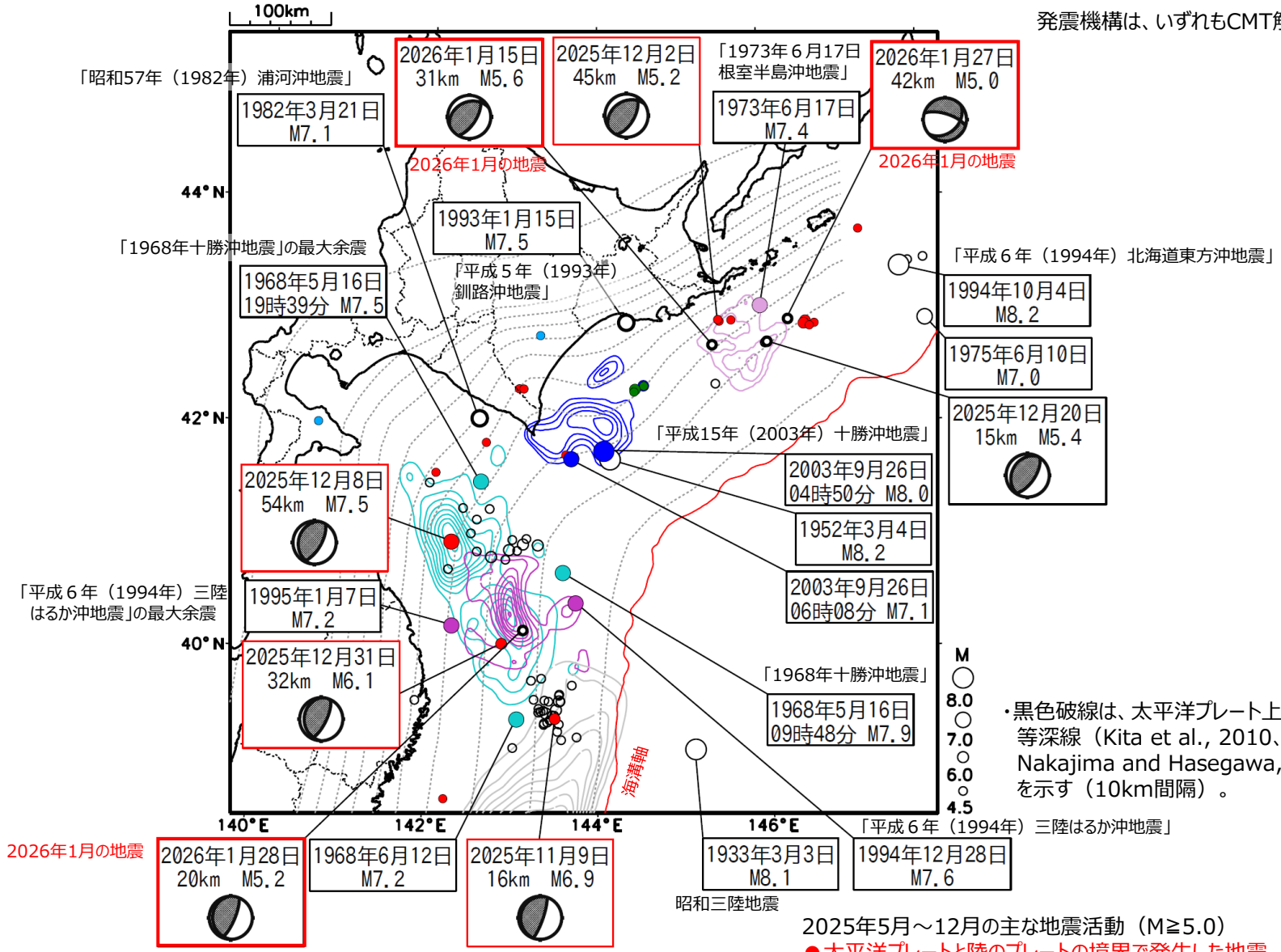
2025年5月～12月の主な地震活動（M≧5.0）
- ●太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
- ●太平洋プレート内部で発生した地震
- ●陸のプレート内で発生した地震

※11月及び12月の主な地震に吹き出しを付けた
※11月9日三陸沖の地震（M6.9）及び12月8日青森県東方沖の地震（M7.5）以降の地震活動は○で表示

○1919年1月1日以降の主な被害地震（吹き出しを付けた地震）
・震央の塗りつぶしは以下の地震の本震及び主な余震を、色付き等値線は、以下の地震時すべり分布を示す。
- 水色：1968年十勝沖地震〔永井・他(2001)〕
- 薄紫色：1973年根室半島沖地震〔山中(2005)〕
- 紫色：1994年三陸はるか沖地震〔永井・他(2001)〕
- 青色：2003年十勝沖地震〔Yamanaka and Kikuchi (2003)〕
- 灰色：2011年東北地方太平洋沖地震〔Yoshida et al. (2012)〕

気象庁作成

2025年5月～2026年1月の主な地震活動と1919年以降の主な被害地震（北海道東方沖～三陸沖）

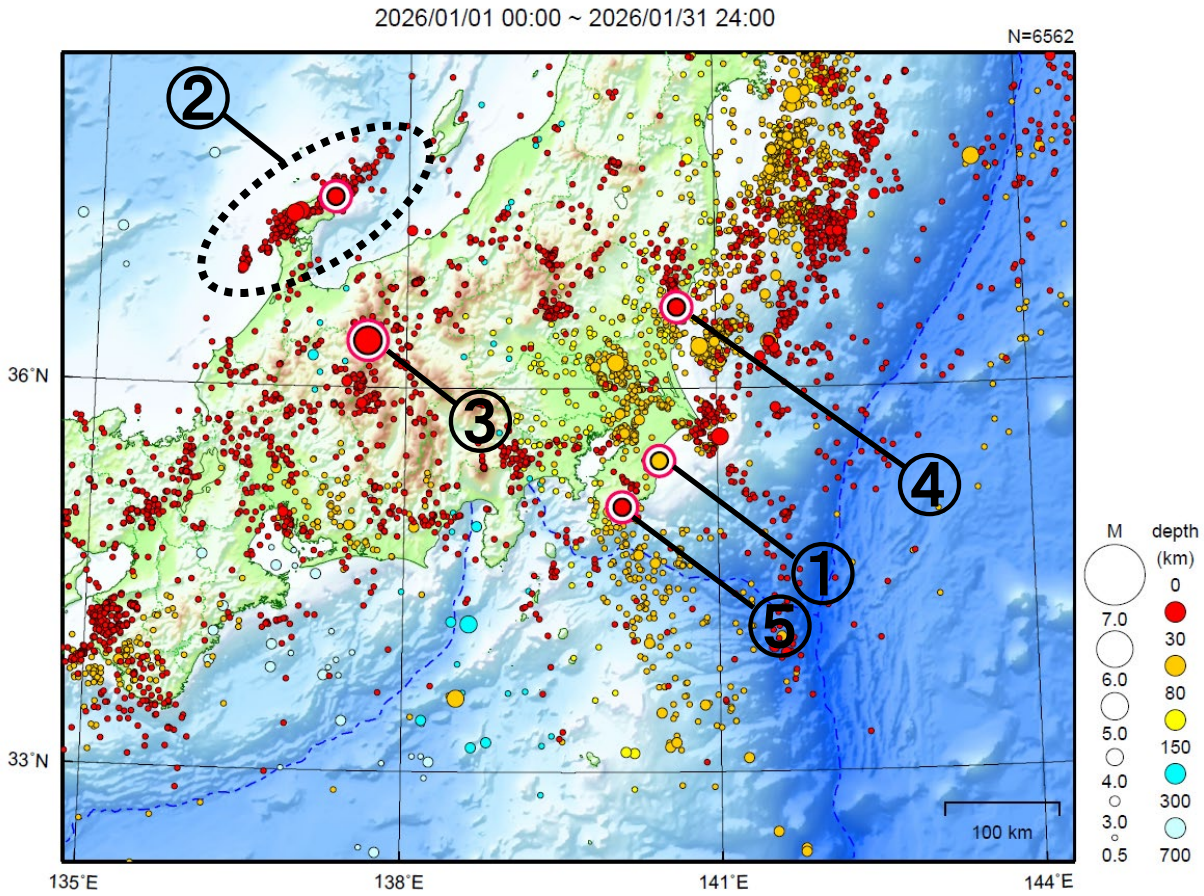


○1919年1月1日以降の主な被害地震（吹き出しを付けた地震）
・震央の塗りつぶしは以下の地震の本震及び主な余震を、色付き等値線は、以下の地震時すべり分布を示す。
水色：1968年十勝沖地震〔永井・他(2001)〕
薄紫色：1973年根室半島沖地震〔山中(2005)〕
紫色：1994年三陸はるか沖地震〔永井・他(2001)〕
青色：2003年十勝沖地震〔Yamanaka and Kikuchi (2003)〕
灰色：2011年東北地方太平洋沖地震〔Yoshida et al. (2012)〕

2025年5月～12月の主な地震活動（M≧5.0）
●太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震
●太平洋プレート内部で発生した地震
●陸のプレート内で発生した地震
※11月及び12月の主な地震に吹き出しを付けた
※11月9日三陸沖の地震（M6.9）及び12月8日青森県東方沖の地震（M7.5）以降の地震活動は○で表示

気象庁作成

関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 1月9日に千葉県東方沖で M4.6 の地震（最大震度４）が発生した。

② 1月 13 日に石川県能登地方で M4.3 の地震（最大震度４）が発生した。「令和６年能登半島地震」の地震活動域では、１月中に震度１以上を観測した地震が９回（震度４：１回、震度３：３回、震度２：１回、震度１：４回）発生した。

③ 1月 15 日 14 時 40 分に岐阜県飛騨地方で M4.8 の地震（最大震度４）、同日 14 時 48 分に M5.2 の地震（最大震度３）が発生した。

④ 1月 24 日に茨城県北部で M4.5 の地震（最大震度４）が発生した。

⑤ 1月 29 日に千葉県南部で M4.5 の地震（最大震度４）が発生した。

（図の範囲外）

1月 10 日に硫黄島近海で M5.5 の地震（最大震度３）が発生した。

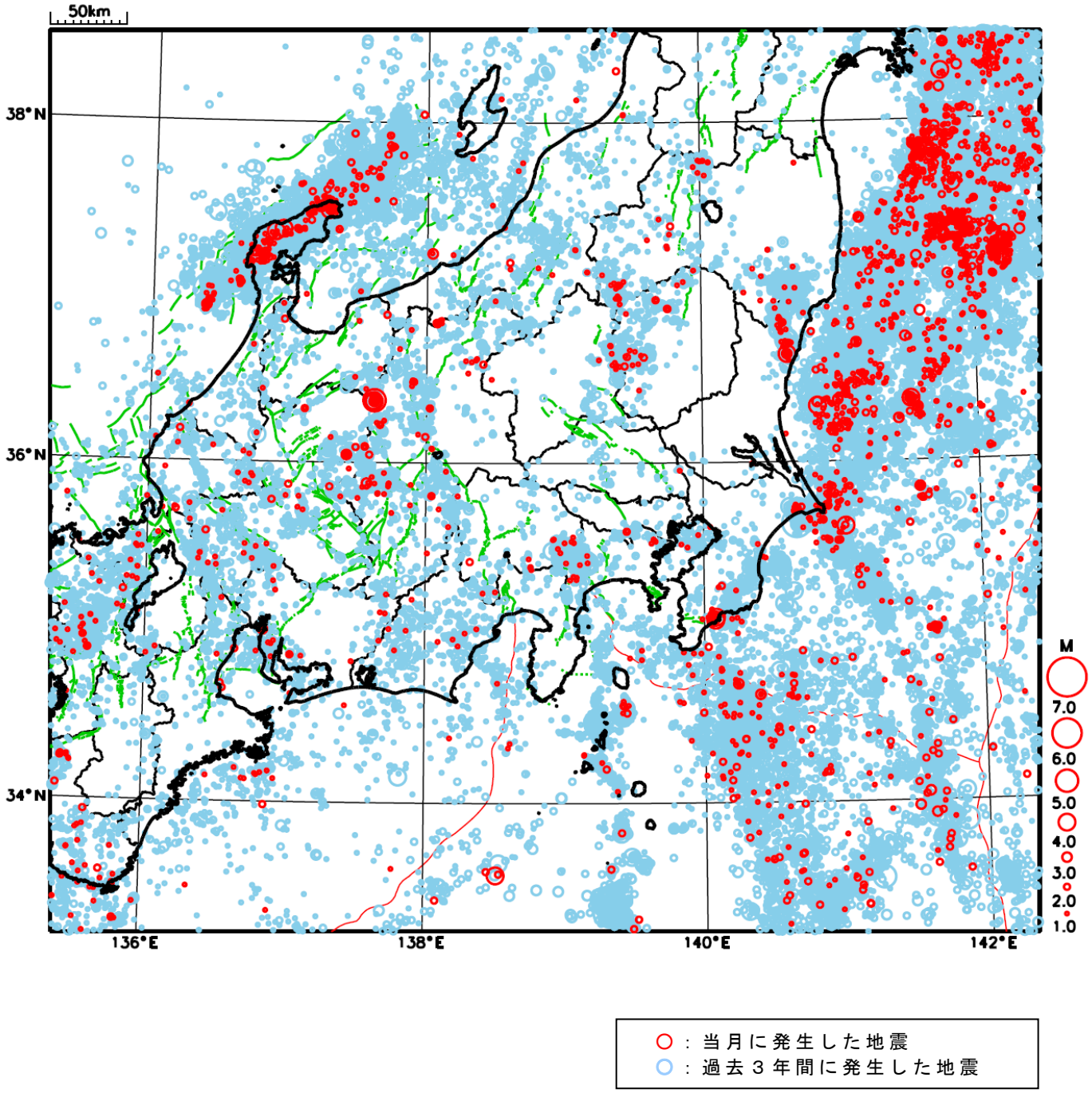
1月 22 日に硫黄島近海で M6.5 の地震（震度１以上を観測した地点はなし）が発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

関東・中部地方における 2026 年１月の地震活動

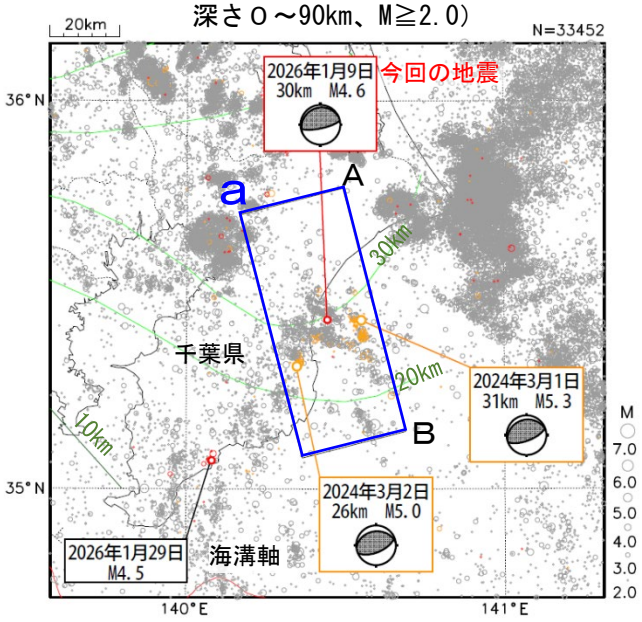
（M≧1.0、陸域 深さ 30km 以浅、海域 深さ 60km 以浅）



気象庁作成

１月９日　千葉県東方沖の地震

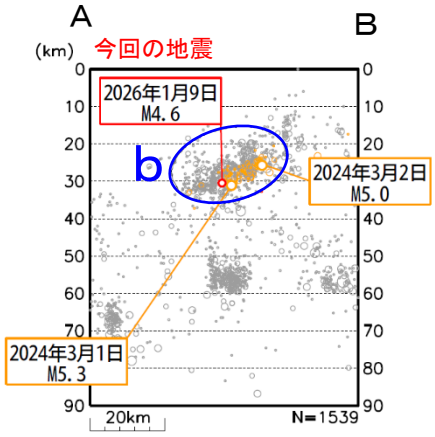
震央分布図
（1997 年 10 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～90km、M≧2.0）



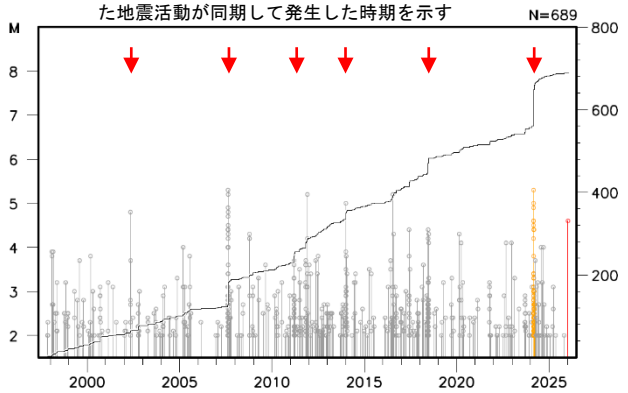
1997 年 10 月１日から 2024 年２月 25 日までを灰色
2024 年２月 26 日から 2024 年３月 25 日までを橙色
2024 年３月 26 日から 2025 年 12 月 31 日までを灰色
2026 年１月１日以降を赤色で表示

震央分布図中の緑色の破線は、弘瀬・他（2008）による
フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図
赤矢印はプレート境界でゆっくりすべりとまとまった地震活動が同期して発生した時期を示す



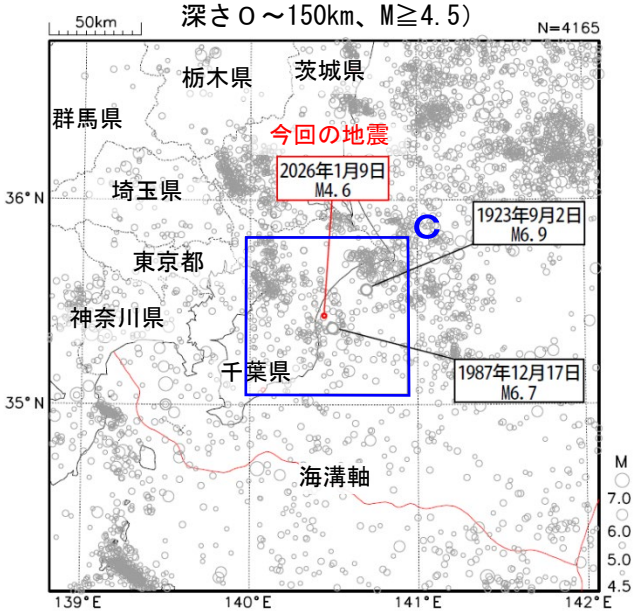
情報発表に用いた震央地名は〔千葉県北東部〕である。

2026 年１月９日 20 時 07 分に千葉県東方沖の深さ 30km で M4.6 の地震（最大震度４）が発生した。この地震の発震機構は、南北方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

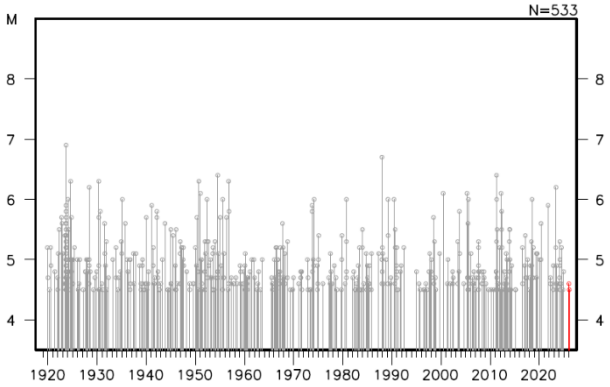
1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では時々、プレート境界で発生したゆっくりすべり（国土地理院及び防災科学技術研究所による）を伴うまとまった地震活動がある。2024 年の地震活動では、２月 26 日から地震活動が見られ、３月１日に M5.3 の地震（最大震度４）の地震が発生するなど、３月 25 日までに震度１以上を観測した地震が 48 回発生した。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。1987 年 12 月 17 日に発生した M6.7 の地震（最大震度５）では、死者２人、負傷者 161 人、住家全壊 16 棟、住家半壊 102 棟、住家一部破損 72,580 棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～150km、M≧4.5）



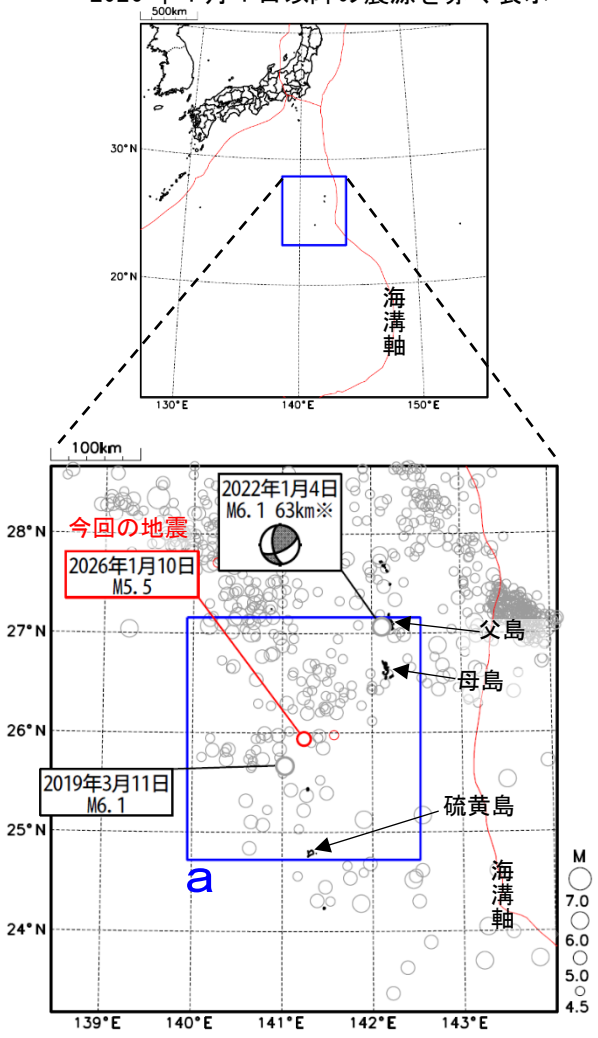
領域ｃ内のＭ－Ｔ図



気象庁作成

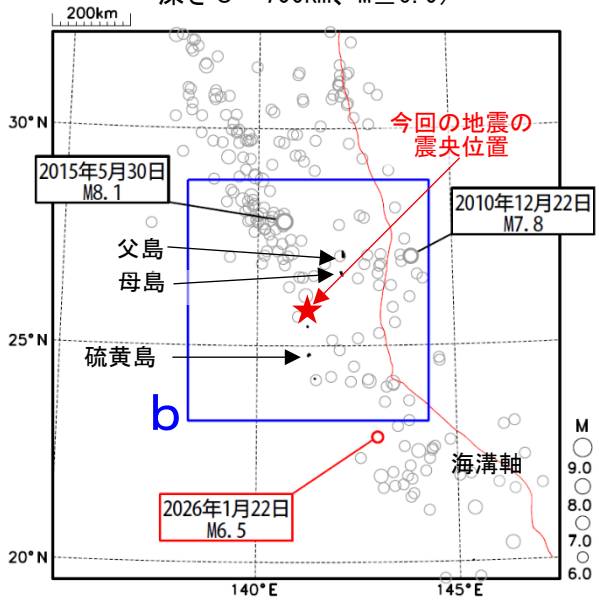
１月 10 日　硫黄島近海の地震

震央分布図
（2000 年４月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～700km、M≧4.5）
2026 年１月１日以降の震源を赤く表示



※深さは CMT 解による

震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～700km、M≧6.0）



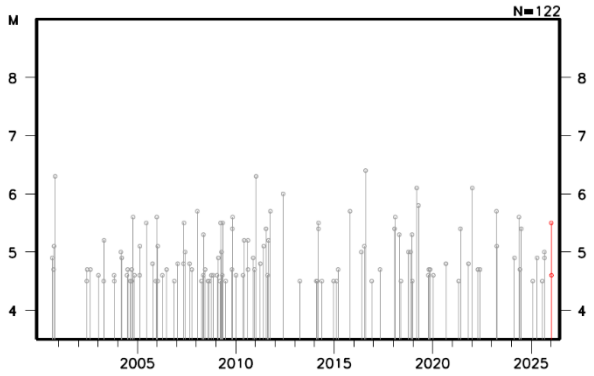
2026 年１月 10 日 08 時 51 分に硫黄島近海で M5.5 の地震（最大震度３）が発生した。

2000 年４月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域ａ）では、Ｍ６程度の地震が時々発生している。2022 年１月４日には M6.1 の地震（最大震度５強）が発生し、１月 31 日までに震度１以上を観測する地震が 14 回（震度５強：１回、震度２：３回、震度１：10 回）発生した。

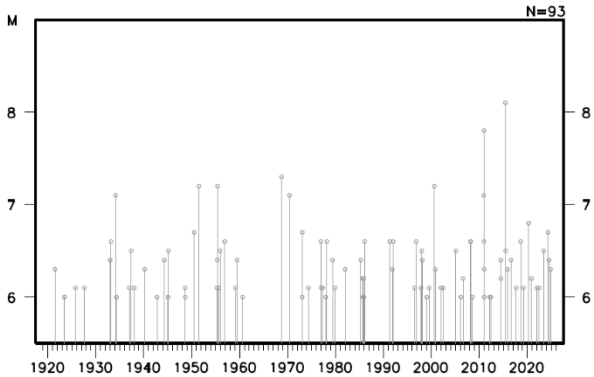
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）では、M7.0 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日には父島近海で M7.8 の地震（最大震度４）が発生し、八丈島八重根で 0.5m (注) の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015 年５月 30 日には小笠原諸島西方沖の深さ 682km で M8.1 の地震（最大震度５強）が発生し、関東地方で軽傷者８人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

（注）巨大津波計の観測点により観測されたことを示す（観測単位は 0.1m）。

領域ａ内のＭ－Ｔ図



領域ｂ内のＭ－Ｔ図

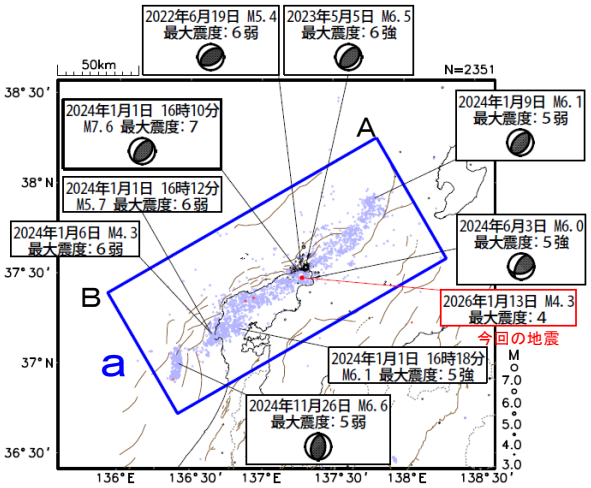


気象庁作成

１月 13 日　石川県能登地方の地震

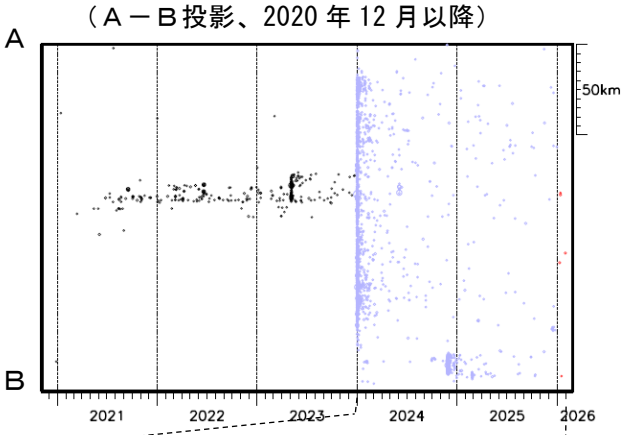
（「令和６年能登半島地震」の地震活動）

震央分布図
（2020 年 12 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～30km、M≧3.0）
震源のプロット
黒色　2020 年 12 月１日～2023 年 12 月 31 日
水色　2024 年１月１日～2025 年 12 月 31 日
赤色　2026 年１月１日～31 日
吹き出しは最大震度６弱以上の地震、M6.0 以上の地震及び今回の地震
図中の発震機構は CMT 解

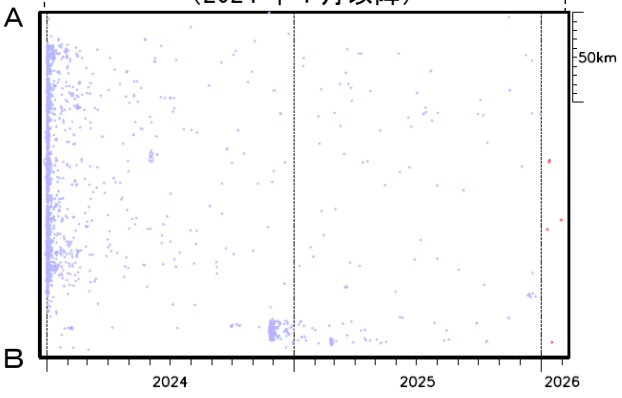


図中の茶色の線は、地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

領域ａ内の時空間分布図
（Ａ－Ｂ投影、2020 年 12 月以降）



（2024 年１月以降）



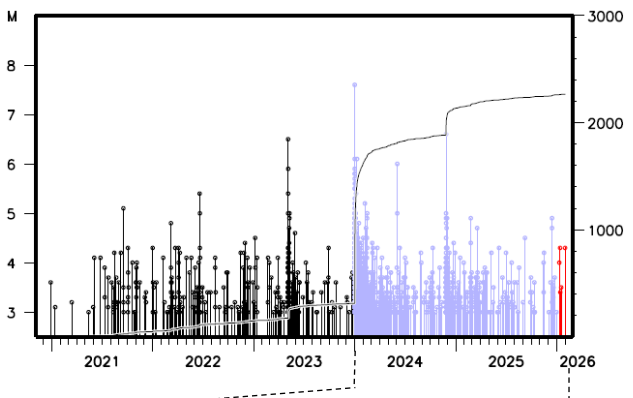
2026 年１月 13 日 05 時 09 分に石川県能登地方の深さ 12km で M4.3 の地震（最大震度４）が発生した。この地震は地殻内で発生した。

能登半島では 2020 年 12 月から地震活動が活発になり、2023 年５月５日には M6.5 の地震（最大震度６強）が発生していた。2023 年 12 月までの活動域は、能登半島北東部の概ね 30km 四方の範囲であった。

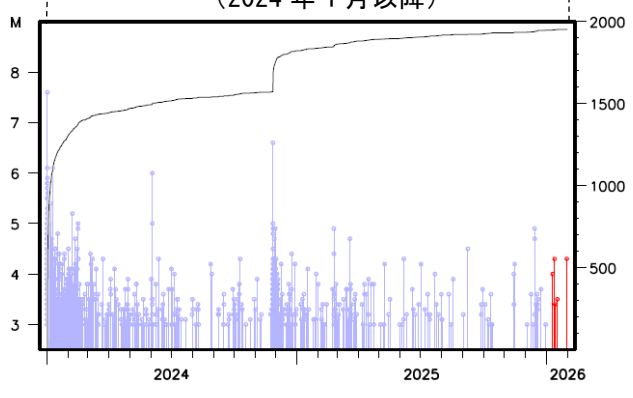
2024 年１月１日 16 時 10 分に石川県能登地方の深さ 16km で M7.6 の地震（最大震度７）が発生した後、地震活動はさらに活発になり、活動域は、能登半島及びその北東側の海域を中心とする北東－南西に延びる 150km 程度の範囲に広がっている。M7.6 の地震後の地震活動域の西端の石川県西方沖で、2024 年 11 月 26 日に M6.6 の地震（最大震度５弱）が発生した。

地震の発生数は増減を繰り返しながら大局的に緩やかに減少してきているが、１月中に震度１以上を観測した地震は９回発生するなど、地震活動が活発になった 2021 年以前と比較すると活発な状態が継続している（次ページ参照）。

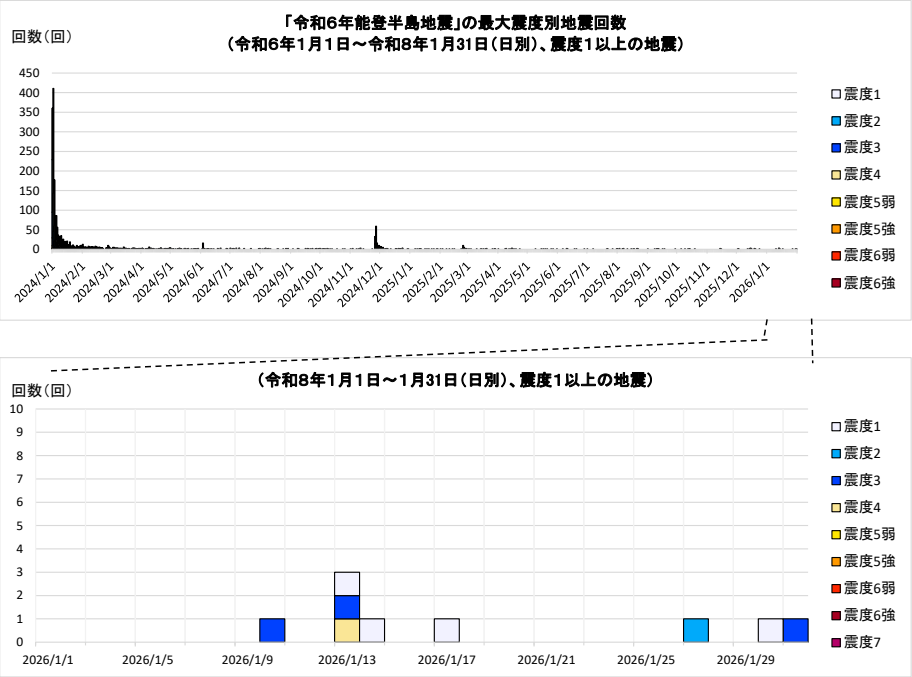
領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図
（2020 年 12 月以降）



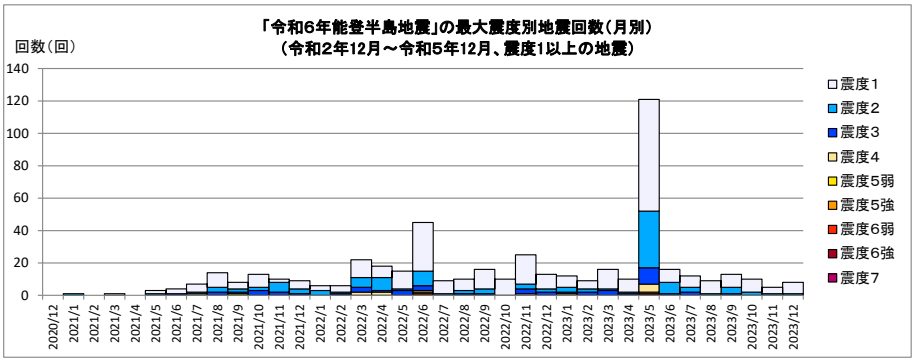
（2024 年１月以降）



気象庁作成



【令和2（2020）年12月～令和5（2023）年12月の発生回数（月別）】



【令和2（2020）年12月以降の発生回数（年別）】

年別	最大震度別回数									震度1以上を観測した回数		備考
	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	
2020/12/1 - 12/31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2021/1/1 - 12/31	39	19	10	1	1	0	0	0	0	70	70	
2022/1/1 - 12/31	130	39	18	6	0	1	1	0	0	195	265	
2023/1/1 - 12/31	151	61	21	6	0	1	0	1	0	241	506	2023/6/1～12/31の震度1以上を観測した回数 合計73回 月平均10.4回 月中央値10.0回
総計(2020～2023)	320	119	49	13	1	2	1	1	0		506	

2020～2023	320	119	49	13	1	2	1	1	0	506	506	
2024/1/1 - 31	941	395	159	45	7	8	2	0	1	1558	2064	
2024/2/1 - 29	95	34	12	3	0	0	0	0	0	144	2208	
2024/3/1 - 31	49	17	4	0	0	0	0	0	0	70	2278	
2024/4/1 -30	32	9	4	0	0	0	0	0	0	45	2323	
2024/5/1 -31	20	6	2	0	0	0	0	0	0	28	2351	
2024/6/1 -30	27	5	1	1	0	1	0	0	0	35	2386	
2024/7/1-31	16	3	1	0	0	0	0	0	0	20	2406	
2024/8/1-31	13	4	1	0	0	0	0	0	0	18	2424	
2024/9/1-30	14	4	0	0	0	0	0	0	0	18	2442	
2024/10/1-31	8	6	0	0	0	0	0	0	0	14	2456	
2024/11/1-30	88	41	5	1	1	0	0	0	0	136	2592	
2024/12/1-31	24	12	1	0	0	0	0	0	0	37	2629	
2025/1/1-31	8	2	2	0	0	0	0	0	0	12	2641	
2025/2/1-28	18	5	2	0	0	0	0	0	0	25	2666	
2025/3/1-31	7	3	1	1	0	0	0	0	0	12	2678	
2025/4/1-30	10	2	0	0	0	0	0	0	0	12	2690	
2025/5/1-31	6	1	1	0	0	0	0	0	0	8	2698	
2025/6/1-30	6	1	0	0	0	0	0	0	0	7	2705	
2025/7/1-31	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2711	
2025/8/1-31	12	1	0	0	0	0	0	0	0	13	2724	
2025/9/1-30	6	1	1	0	0	0	0	0	0	8	2732	
2025/10/1-31	5	1	0	0	0	0	0	0	0	6	2738	
2025/11/1-30	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	2741	
2025/12/1-31	8	3	1	1	0	0	0	0	0	13	2754	
2026/1/1-31	4	1	3	1	0	0	0	0	0	9	2763	
総計(2020/12/1～2026/1/31)	1745	677	250	66	9	11	3	1	1		2763	

※2024/1/1以降は地震活動の領域が広がったことから、対象領域を拡大して地震回数をカウントしている。

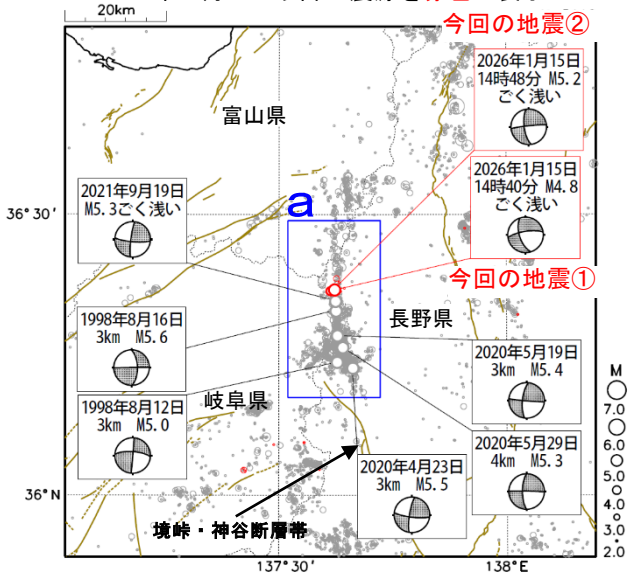
気象庁作成

１月 15 日　岐阜県飛騨地方の地震

（長野・岐阜県境付近の地震）

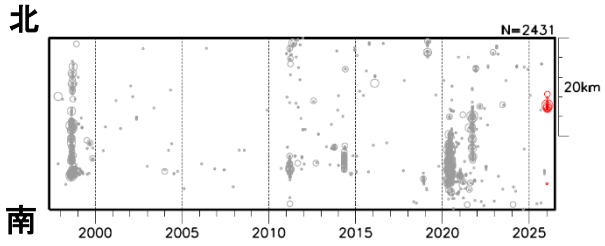
14 時 40 分に発生した M4.8 の地震の情報発表に用いた震央地名は〔富山県東部〕である。

震央分布図
（1997 年 10 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～30km、M≧2.0）
2026 年１月１日以降の震源を赤色で表示

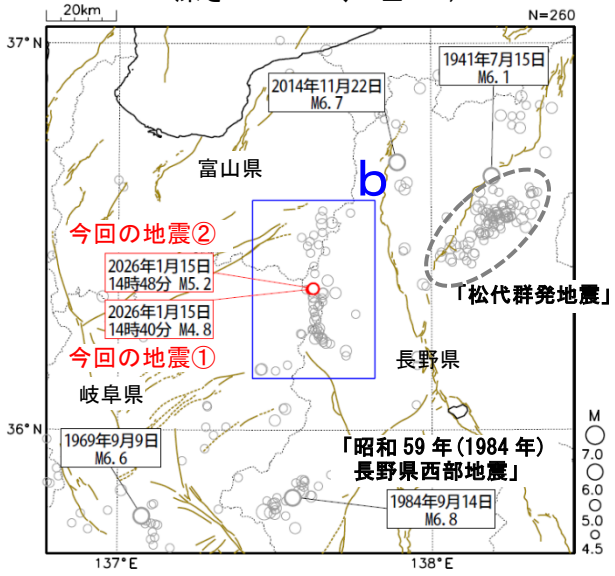


図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による主要活断層帯を示す。

領域ａ内の時空間分布図（南北投影）



震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～50km、M≧4.5）



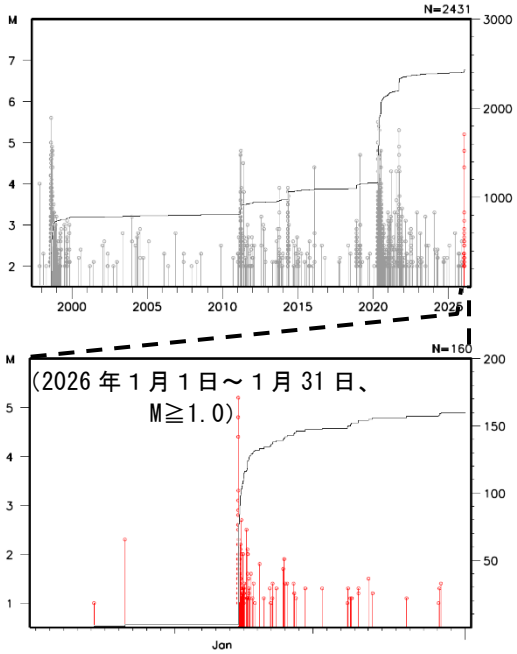
図中の茶色の細線は、地震調査研究推進本部の長期評価による主要活断層帯を示す。

2026 年１月 15 日 14 時 40 分に岐阜県飛騨地方のごく浅い場所でM4.8 の地震（最大震度４、図中①）が発生した。この地震の後、同日 14 時 48 分にほぼ同じ場所で M5.2 の地震（最大震度３、図中②）が発生した。これらの地震の発震機構は北西-南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。これらの地震は地殻内で発生した。今回の地震の震央付近では、１月中に震度１以上を観測する地震が８回（震度４：１回、震度３：１回、震度２：３回、震度１：３回）発生した。

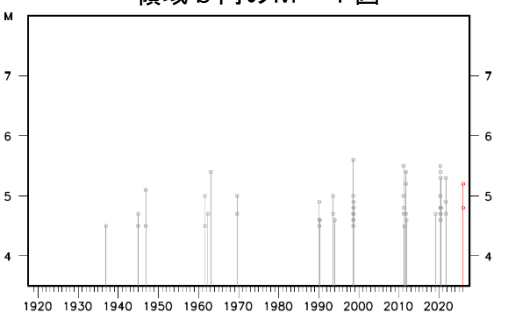
1997 年 10 月以降の活動をみると、領域ａでは時々まとまった地震活動がある。1998 年の地震活動では、８月 12 日に M5.0（最大震度５弱）の地震が発生するなど、８月１日から 10 月 31 日までに震度１以上を観測した地震が 284 回発生した。また 2020 年の地震活動では、４月 23 日に M5.5（最大震度４）の地震が発生するなど、４月１日から７月 31 日までに震度１以上を観測する地震が 225 回発生した。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）では、Ｍ５程度の地震が時々発生しているものの、M6.0 以上の地震は発生していない。

領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



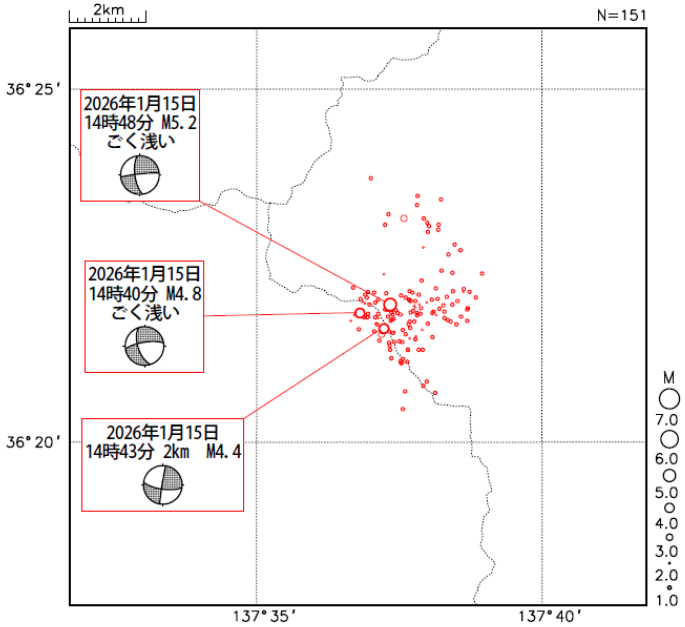
領域ｂ内のＭ－Ｔ図

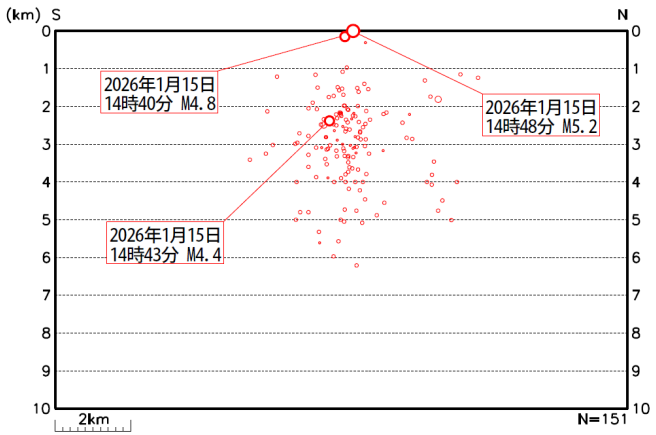


気象庁作成

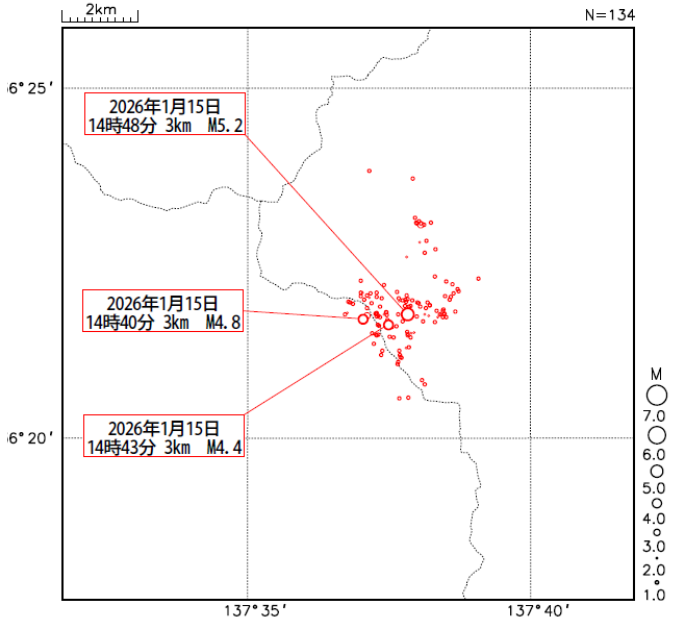
１月15日　岐阜県飛騨地方の地震

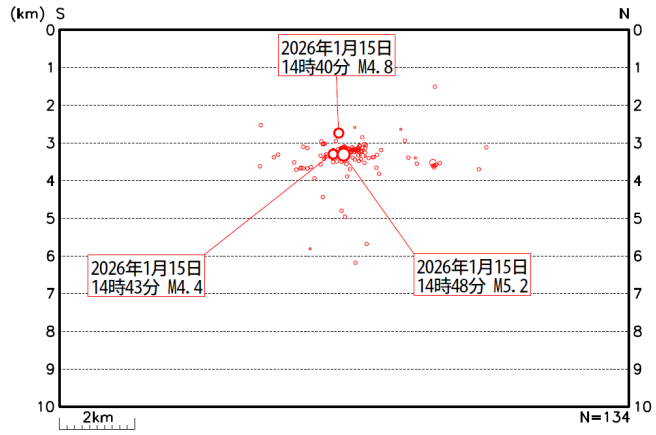
上図：一元化震源の震央分布図(2026年１月１日～25日、M≧1.0、深さ０-10km)
下図：一元化震源の断面図（南北投影）





上図：DD震源の震央分布図(2026年１月１日～25日、M≧1.0、深さ０-10km)
下図：DD震源の断面図（南北投影）

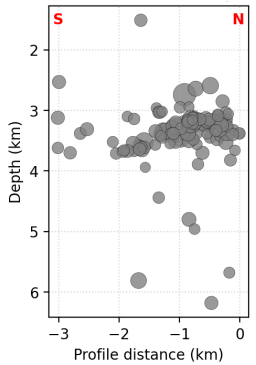




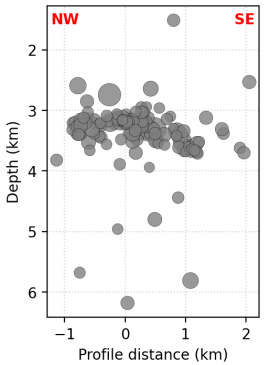
１月１日から25日までのデータを使用し波形相関を用いたDD(Double-Difference)法による震源再決定を行った。

DD震源の各方面からの断面図

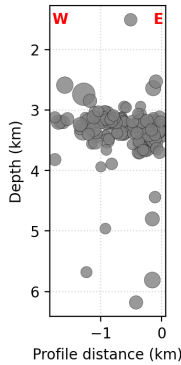
断面図（南北投影）



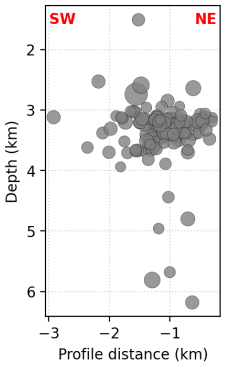
断面図
（北西ー南東投影）



断面図（東西投影）



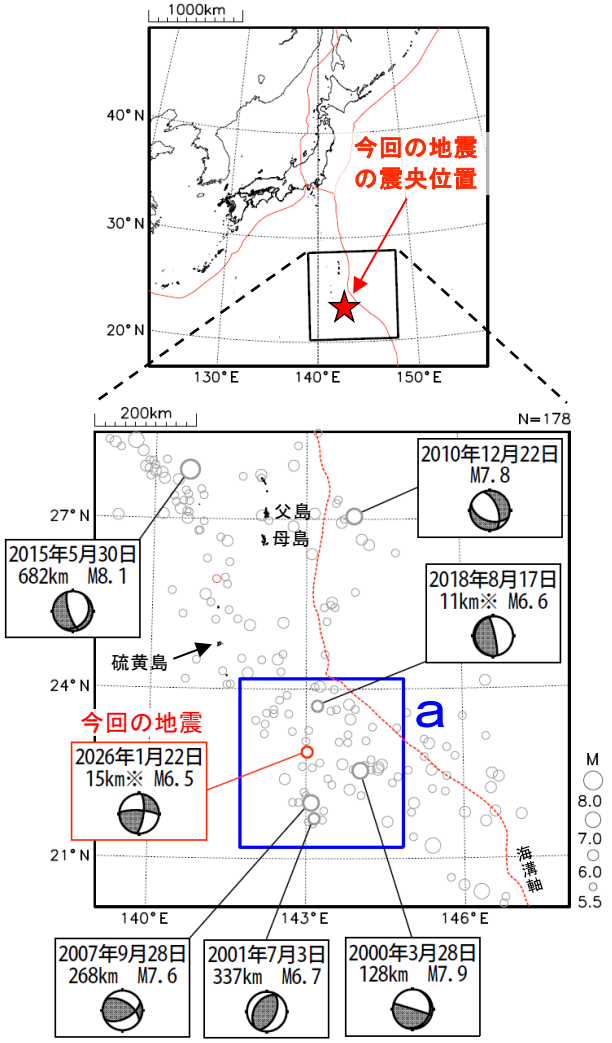
断面図
（北東ー南西投影）



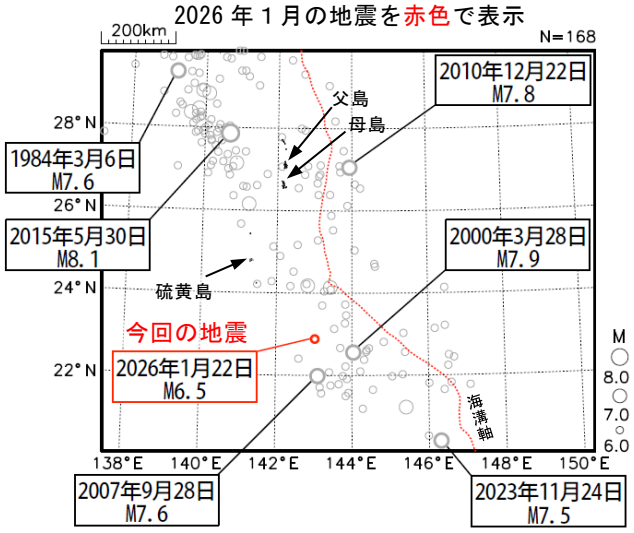
気象庁作成

１月 22 日　硫黄島近海の地震

震央分布図
（2000 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～700km、M≧5.5）
2026 年１月の地震を赤色で表示
図中の発震機構は CMT 解
深さに「※」を付したものは、CMT 解による



震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～700km、M≧6.0）
2026 年１月の地震を赤色で表示



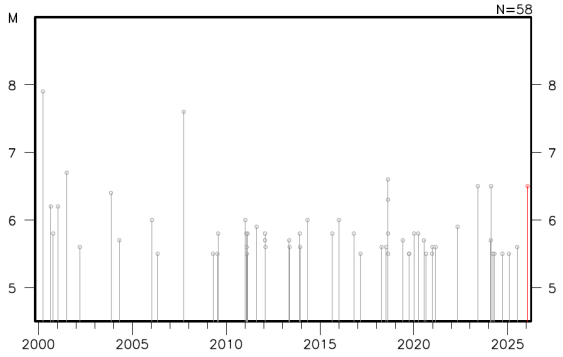
2026 年１月 22 日 01 時 37 分に硫黄島近海の深さ 15km（CMT 解による）で M6.5 の地震（震度１以上を観測した地点はなし）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は北西－南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

2000 年１月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ａ）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。

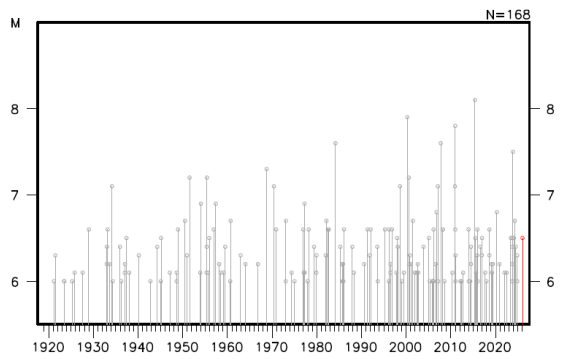
1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺では、M7.0 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日には父島近海で M7.8 の地震（最大震度４）が発生し、八丈島八重根で 0.5m（注）の津波など、岩手県及び関東地方南部から沖縄地方にかけて津波を観測した。また、2015 年５月 30 日には小笠原諸島西方沖の深さ 682km で M8.1 の地震（最大震度５強）が発生し、関東地方で軽傷者８人などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

（注）巨大津波計の観測点により観測されたことを示す（観測単位は 0.1m）。

領域ａ内のＭ－Ｔ図

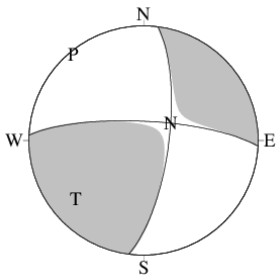
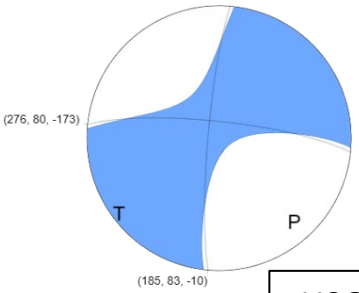


左図の領域内のＭ－Ｔ図

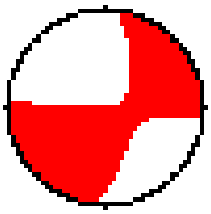
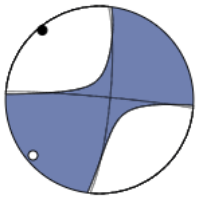


気象庁作成

1月22日　硫黄島近海の地震（各機関のMT解）

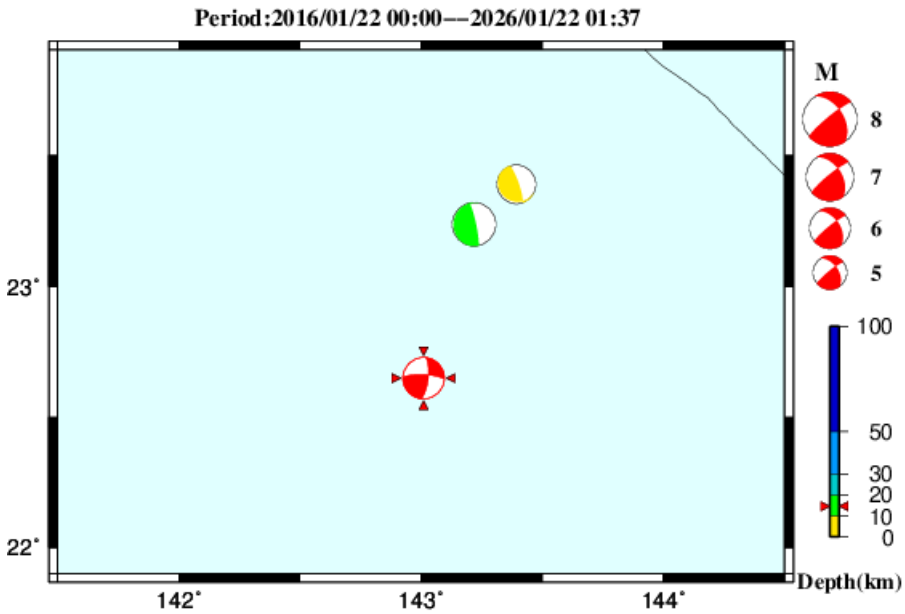
	気象庁CMT	防災科研（F-net）	USGS（W-phase）
一元化震源 M6.5 深さ0km		（掲載なし）	
Mw	6.1		6.1
深さ	15km		11.5km

USGS震源 深さ25.5km

	Global CMT	GEOFON	防災科研（AQUA）
			（掲載なし）
Mw	6.1	6.0	
深さ	13.0km	15km	

防災科研（F-net）：https://www.fnet.bosai.go.jp/event/joho.php?LANG=ja
USGS（W-phase）：https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/map/
Global CMT：https://www.globalcmt.org/CMTsearch.html
GEOFON MT：https://geofon.gfz-potsdam.de/eqinfo/list.php?mode=mt
防災科研（AQUA）：https://www.hinet.bosai.go.jp/AQUA/aqua_catalogue.php?LANG=ja

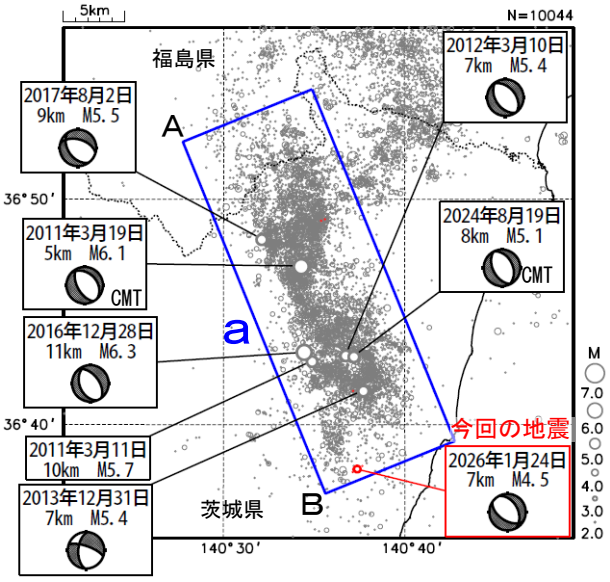
周辺の気象庁CMT解の分布図



気象庁作成

１月 24 日　茨城県北部の地震

震央分布図
（2011 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～20km、M≧2.0）
2026 年１月の地震を赤色で表示

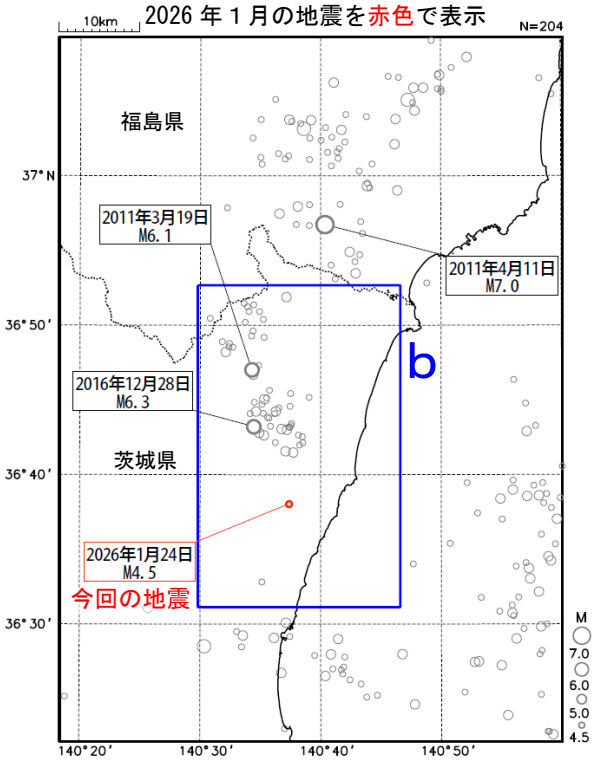


2026 年１月 24 日 06 時 19 分に茨城県北部の深さ７km で M4.5 の地震（最大震度４）が発生した。この地震は地殻内で発生した。この地震の発震機構は北東－南西方向に張力軸を持つ正断層型である。

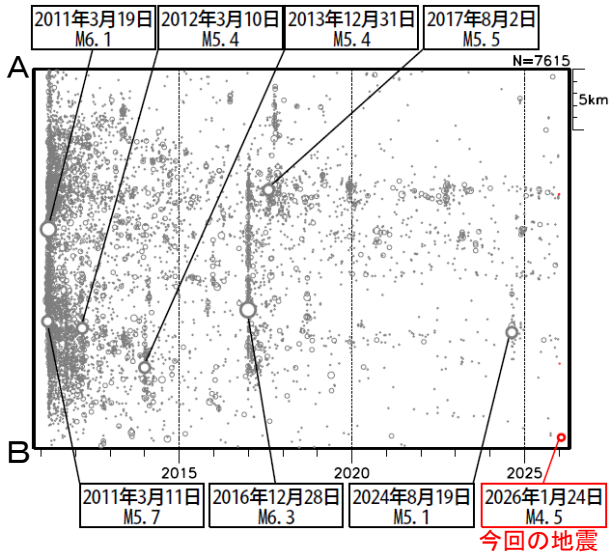
今回の地震の震央周辺（領域ａ）では、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」（以下、「東北地方太平洋沖地震」）の発生後に地震活動が活発化し、2016 年 12 月 28 日に発生した M6.3 の地震（最大震度６弱）では、茨城県で軽傷２人、住家半壊１棟、一部破損 25 棟などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。この活発な地震活動は徐々に減衰しつつも継続している。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）では、「東北地方太平洋沖地震」の発生前は M4.5 以上の地震がまれに発生していて、「東北地方太平洋沖地震」の発生後は M4.5 以上の地震が度々発生している。

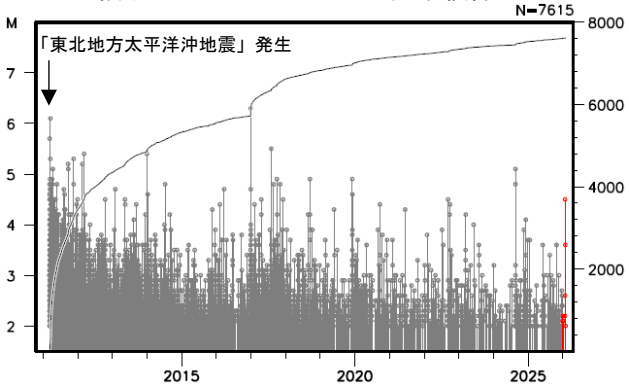
震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～50km、M≧4.5）
2026 年１月の地震を赤色で表示



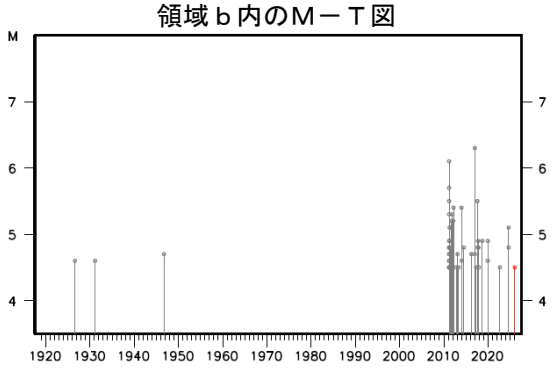
領域ａ内の時空間分布図（Ａ－Ｂ投影）



領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



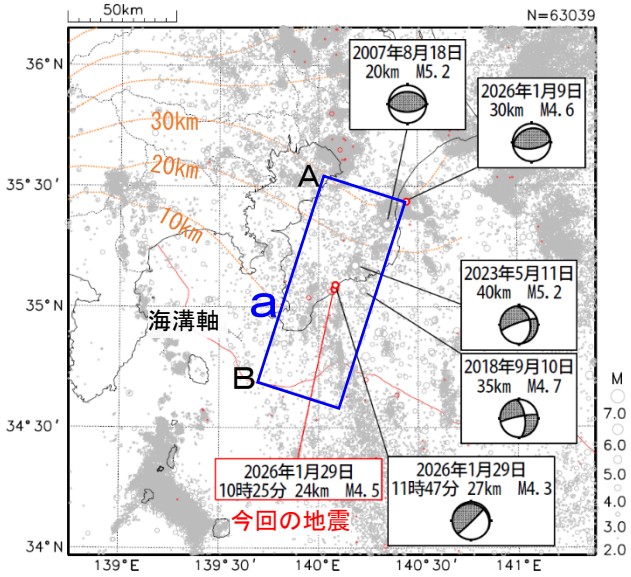
領域ｂ内のＭ－Ｔ図



気象庁作成

１月 29 日　千葉県南部の地震

震央分布図
（1997 年 10 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～100km、M≧2.0）
2026 年１月の地震を赤色で表示



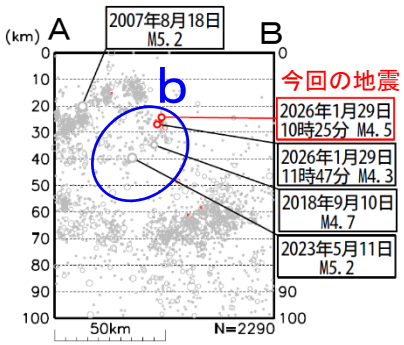
震央分布図中の橙色の破線は弘瀬・他（2008）による
フィリピン海プレート上面のおおよその深さを示す。

2026 年１月 29 日 10 時 25 分に千葉県南部の深さ 24km で M4.5 の地震（最大震度４）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。今回の地震の震源付近では、29 日中に震度１以上を観測する地震が６回（震度４：１回、震度３：１回、震度２：１回、震度１：２回）発生した。

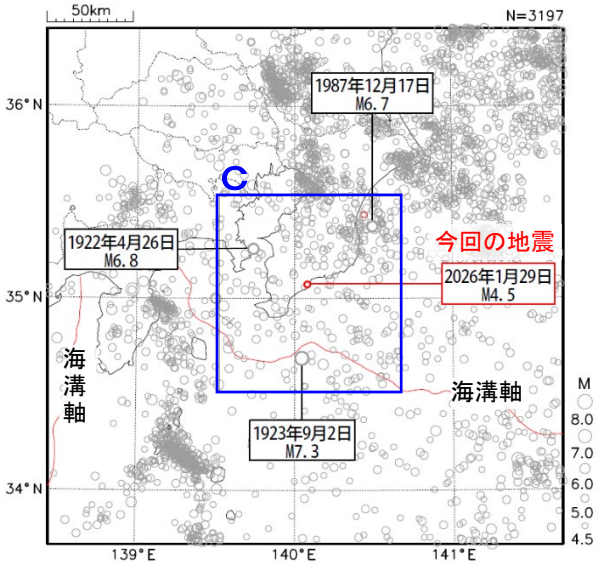
1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、M4.0 以上の地震が時々発生している。2023 年５月 11 日には M5.2 の地震（最大震度５強）が発生した。この地震により、負傷者８人、住家一部破損 77 棟の被害が生じた（2024 年３月６日 17 時 00 分現在、総務省消防庁による）。

1919 年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ｃ）では M6.0 以上の地震が時々発生している。1987 年 12 月 17 日には M6.7（最大震度５）の地震が発生した。この地震により、死者２人、負傷者 161 人、住家全壊 16 棟、住家半壊 102 棟、住家一部破損７万余棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

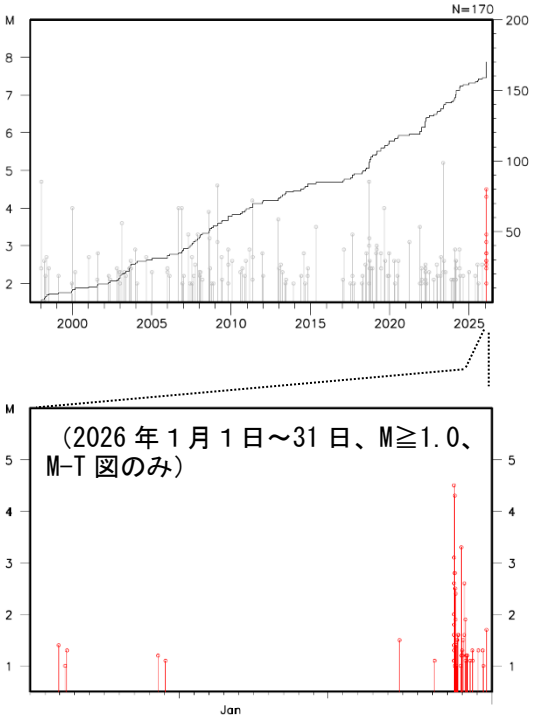
領域ａ内の断面図（Ａ－Ｂ投影）



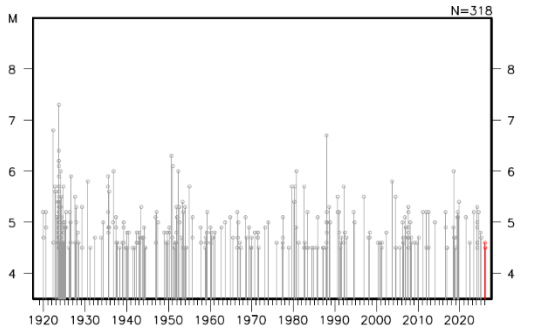
震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～120km、M≧4.5）
2026 年１月の地震を赤色で表示



領域ｂ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



領域ｃ内のＭ－Ｔ図



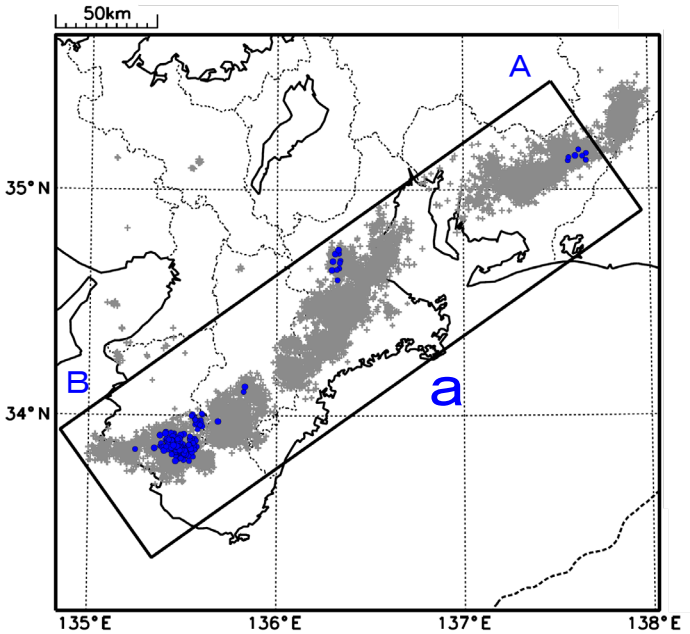
気象庁作成

東海の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

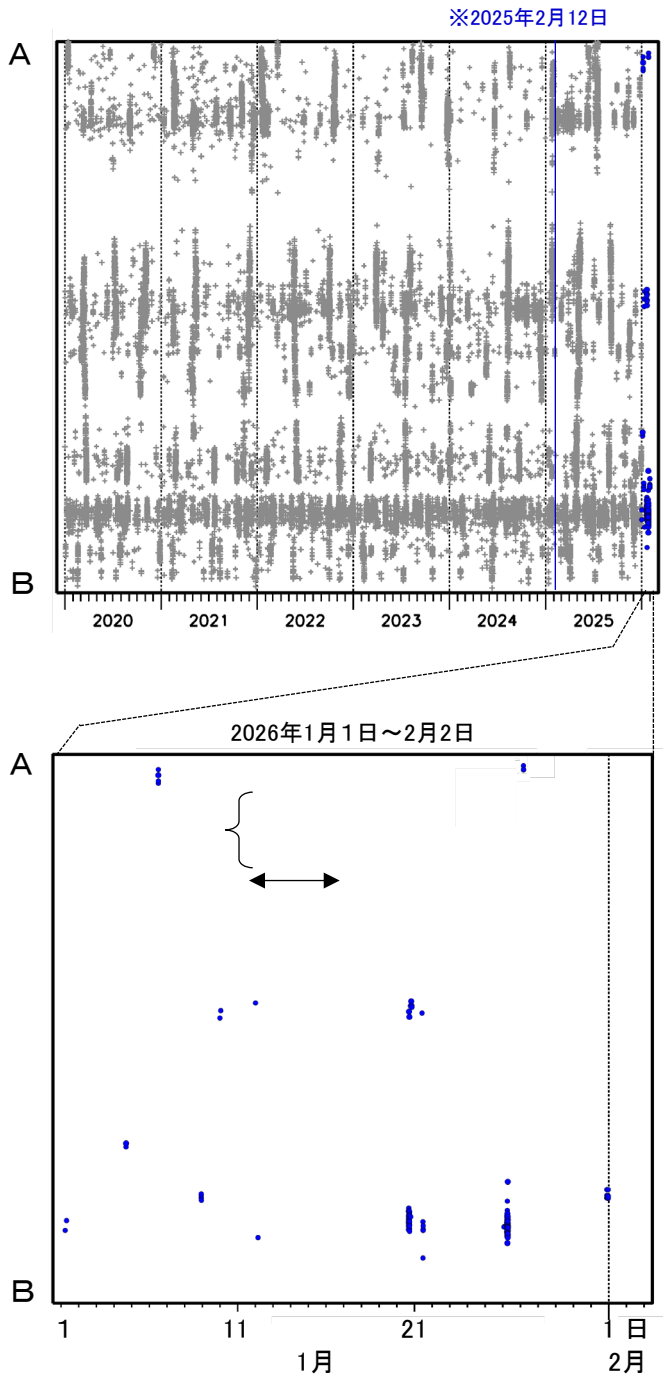
1月11日から17日にかけて、周辺に設置されている複数のひずみ計・傾斜計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。なお、対応する深部低周波地震（微動）活動は観測されていない。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図（2020年1月１日～2026年2月2日、
深さ0～60km、Mすべて）
灰：2020年1月１日～2025年12月31日、
青：2026年1月１日以降



領域a内の時空間分布図（A－B投影）

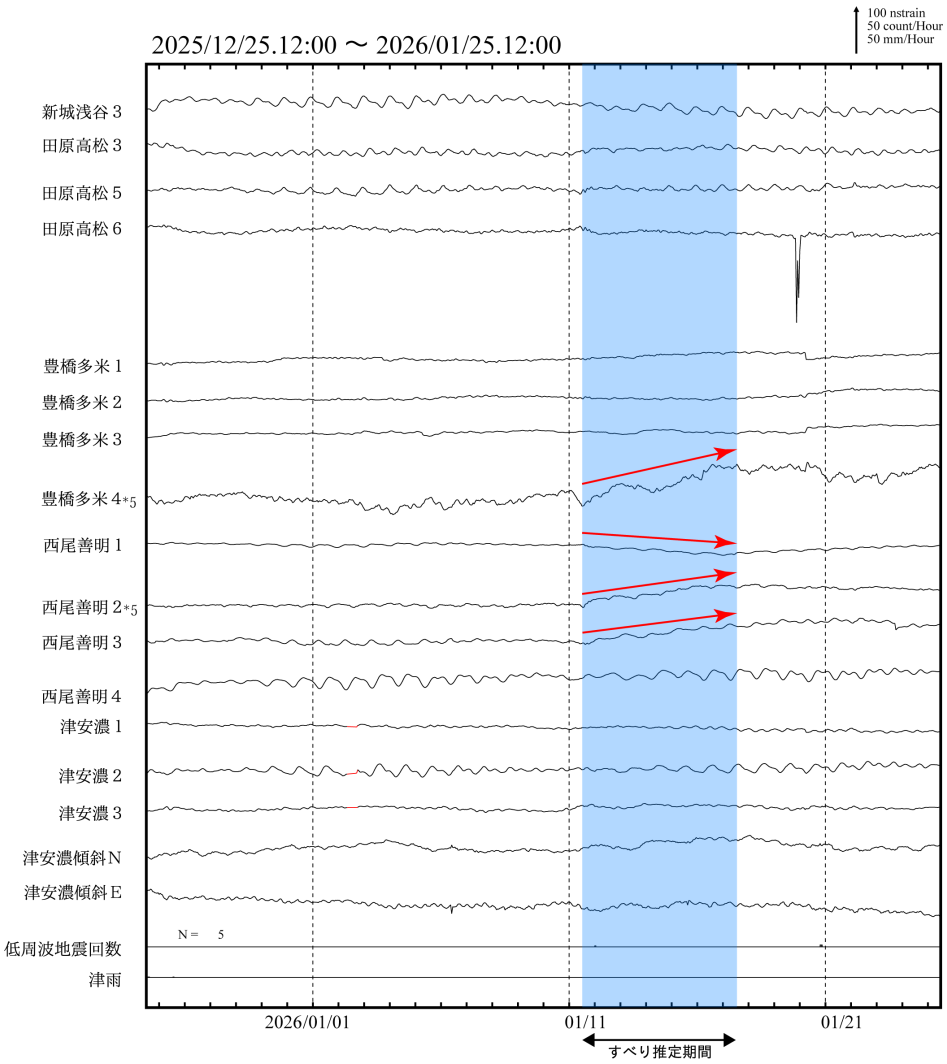


※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、
それ以前と比較して検知能力が変わっている。

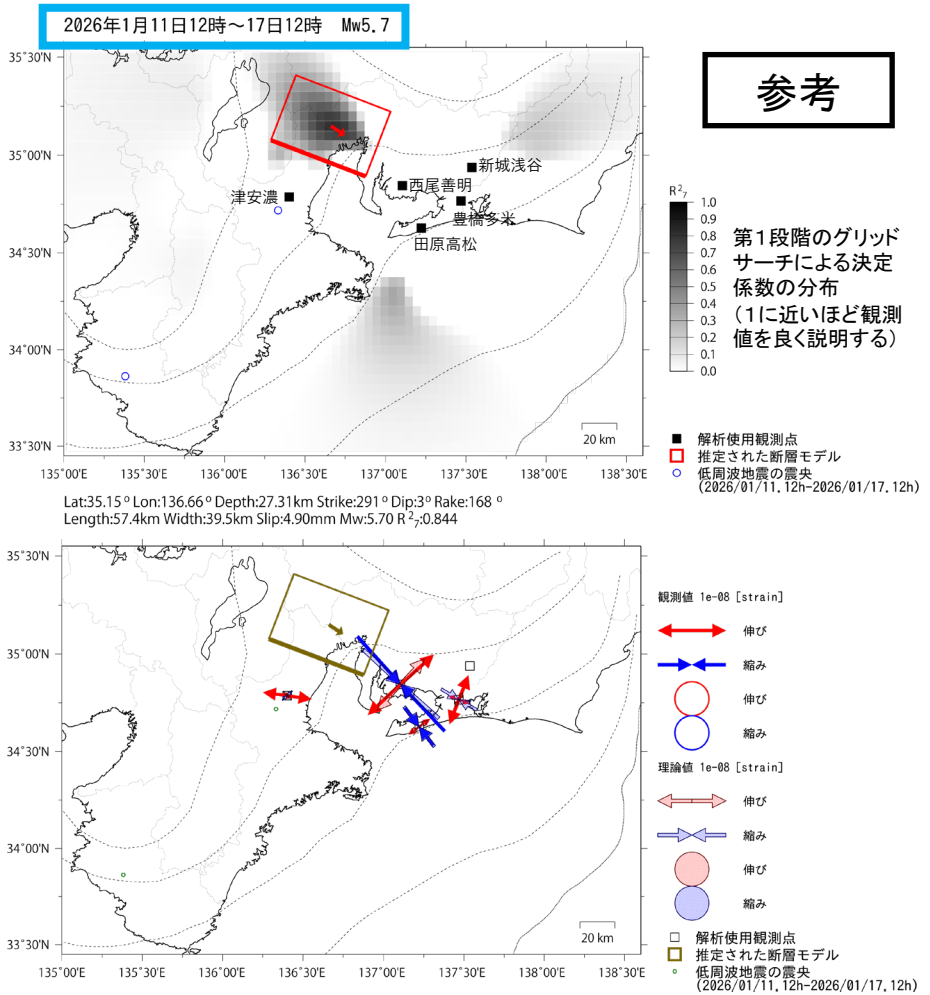
気象庁作成

東海で観測した短期的ゆっくりすべり（1月11日～17日）

愛知県から三重県で観測されたひずみ・傾斜変化



豊橋多米、西尾善明及び津安濃は産業技術総合研究所のひずみ・傾斜計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。



左図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

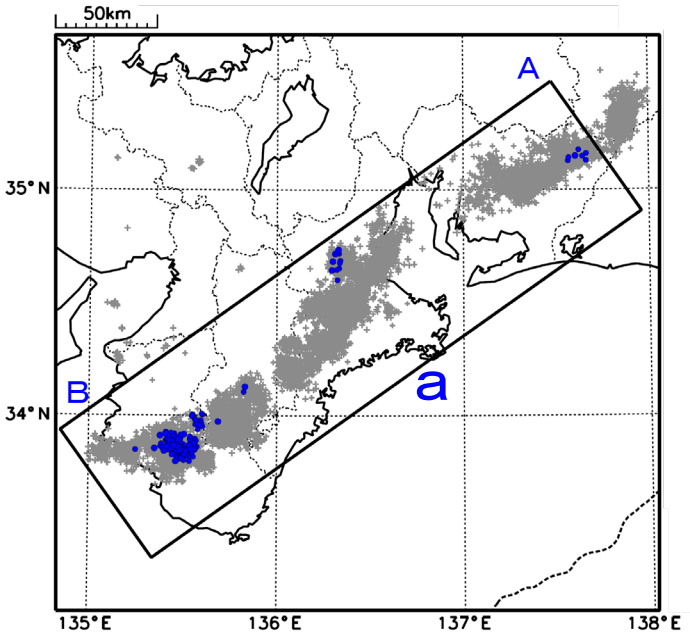
気象庁作成

紀伊半島中部から紀伊半島西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

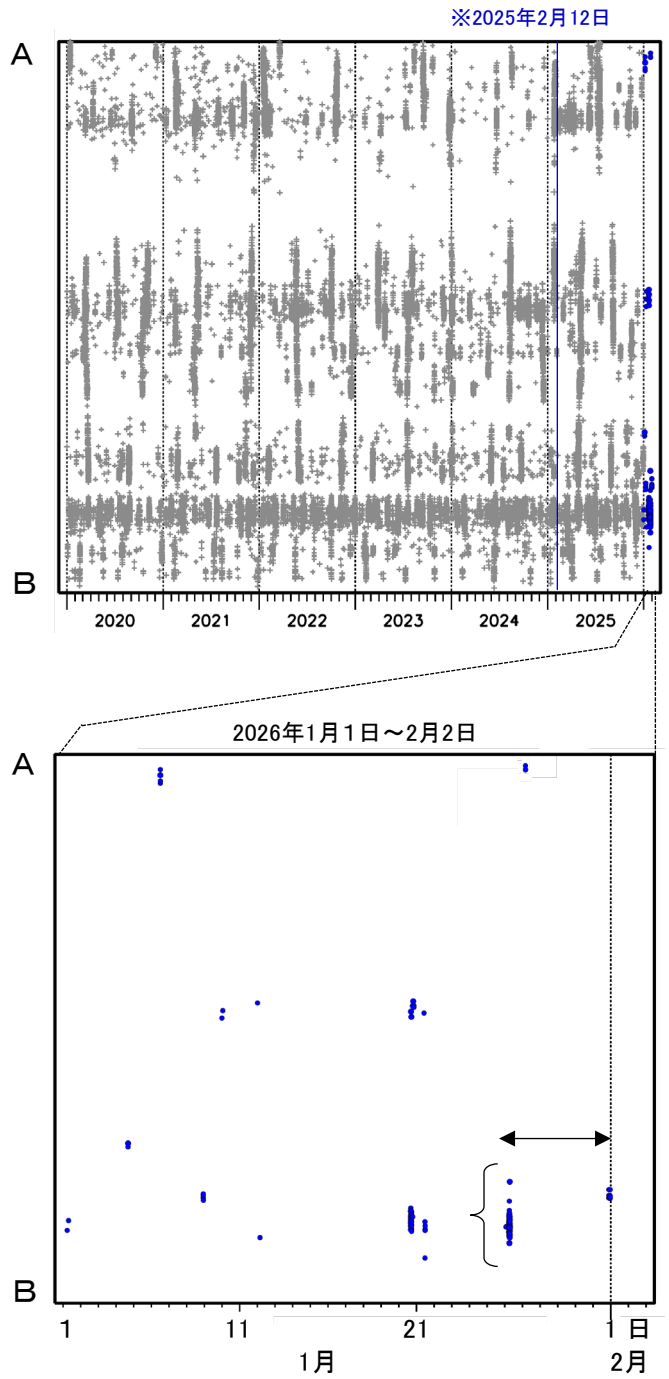
1月26日及び31日に紀伊半島中部で、 1月26日に紀伊半島西部で深部低周波地震（微動）を観測した。
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計で地殻変動を観測した。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図（2020年1月１日～2026年2月2日、
深さ0～60km、Mすべて）
灰：2020年1月１日～2025年12月31日、
青：2026年1月１日以降



領域a内の時空間分布図（A－B投影）

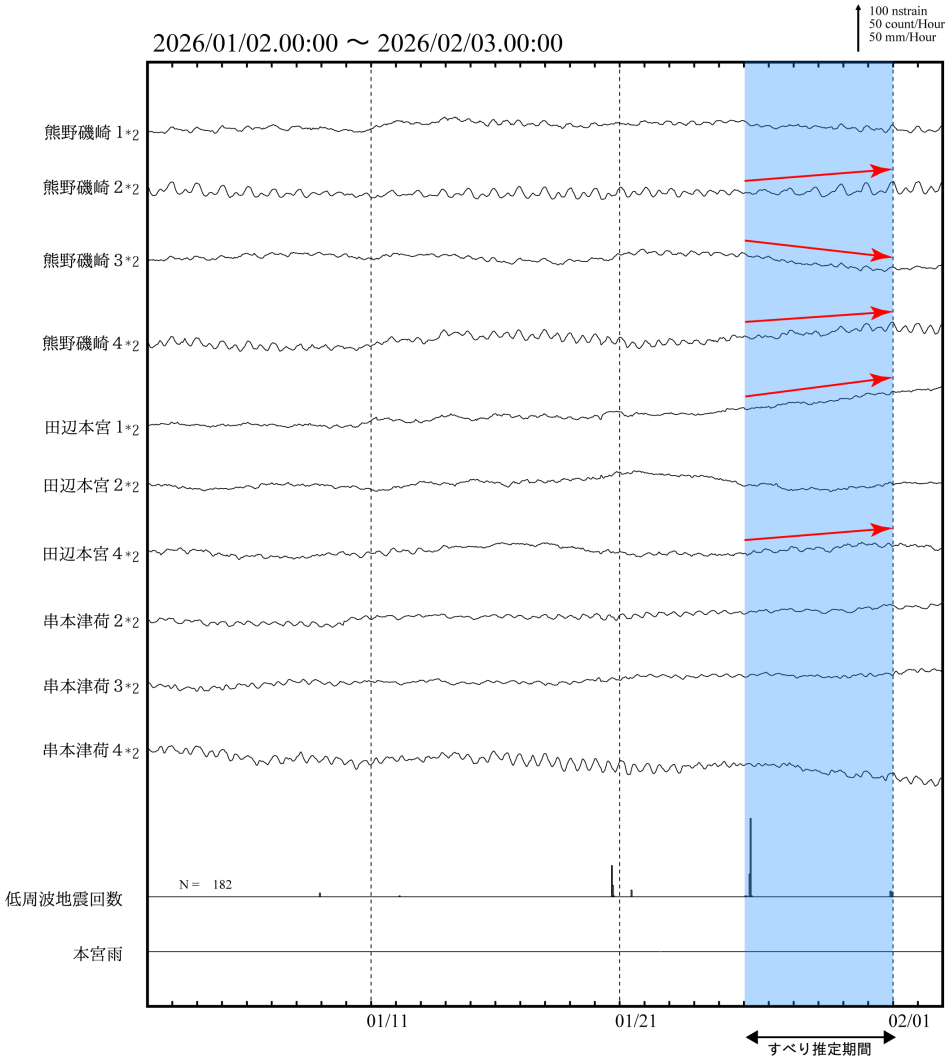


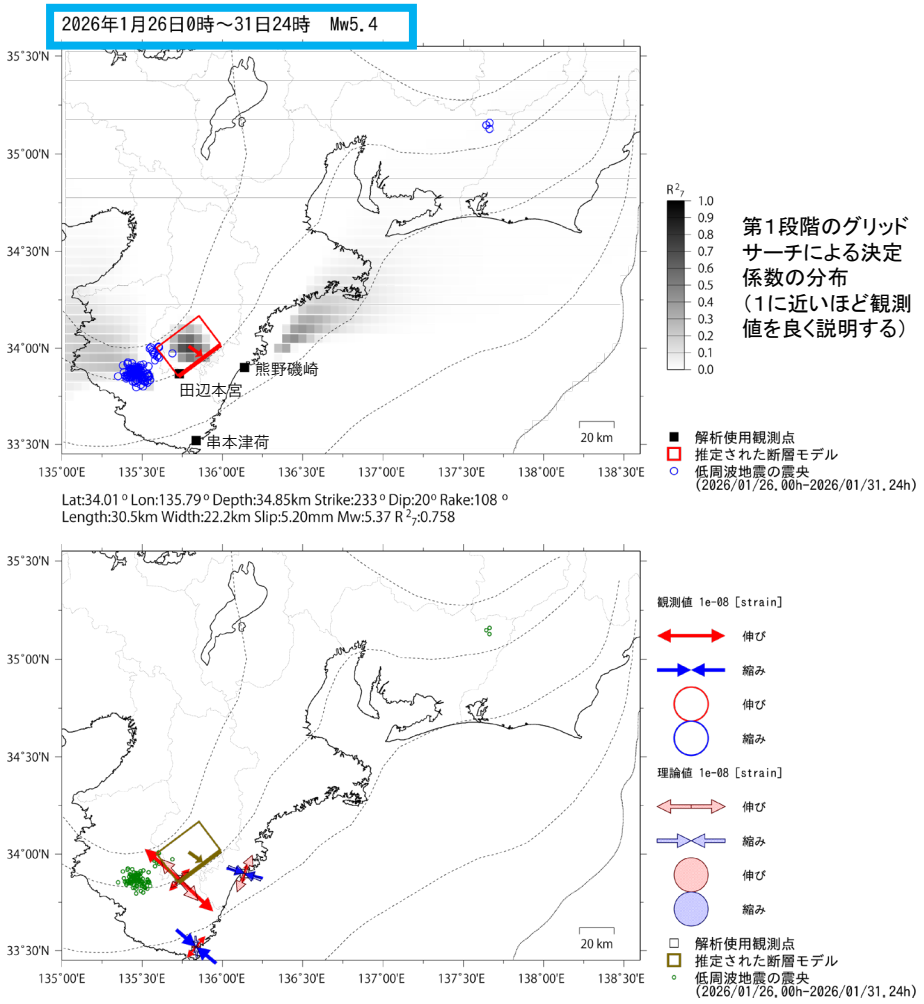
※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、
それ以前と比較して検知能力が変わっている。

気象庁作成

紀伊半島中部で観測した短期的ゆっくりすべり（1月26日～31日）

三重県から和歌山県で観測されたひずみ変化





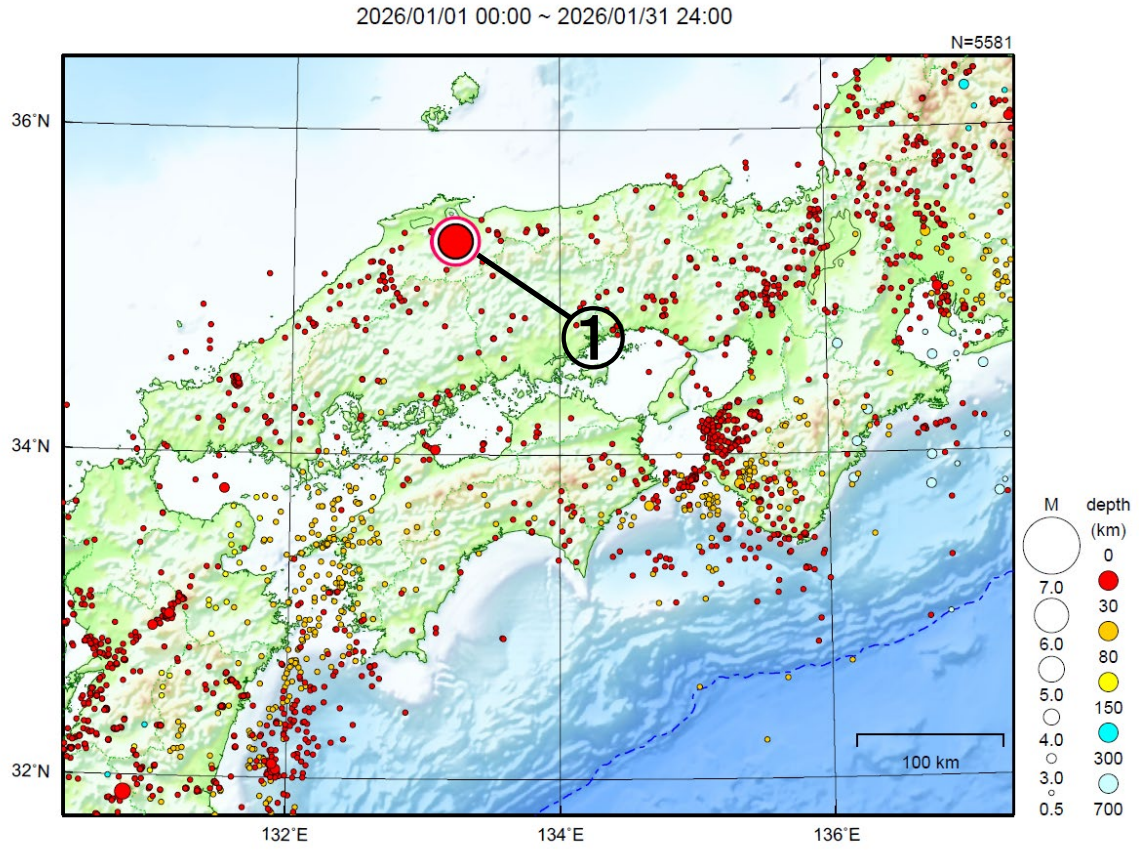
熊野磯崎、田辺本宮及び串本津荷は産業技術総合研究所のひずみ計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。

左図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

近畿・中国・四国地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

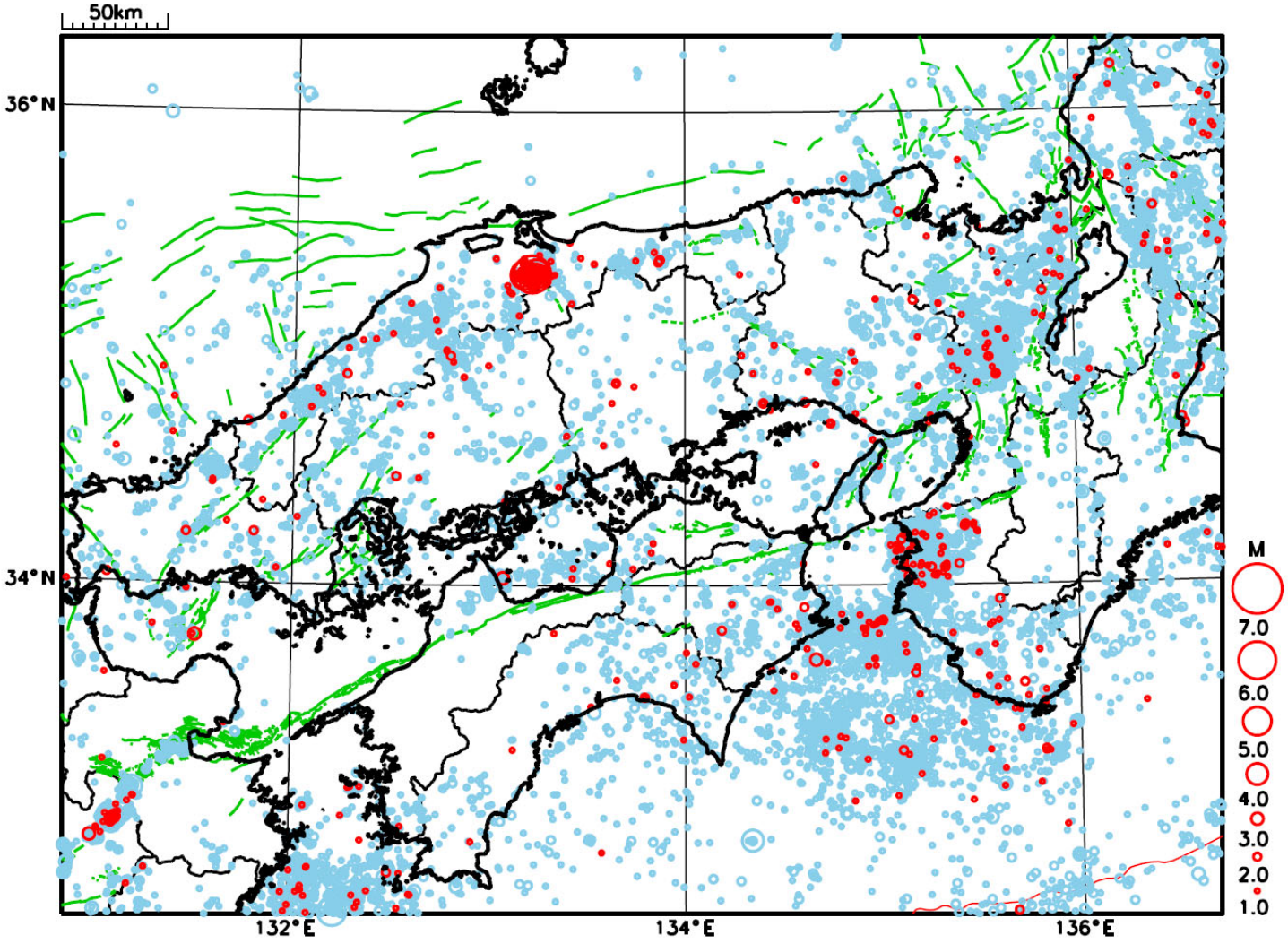
① １月６日に島根県東部で M6.4 の地震（最大震度５強）が発生した。島根県東部では１月６日から 31 日までに震度１以上を観測する地震が 58 回（震度５強：１回、震度５弱：１回、震度４：１回、震度３：６回、震度２：16 回、震度１：33 回）発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

近畿・中国・四国地方における 2026 年１月の地震活動

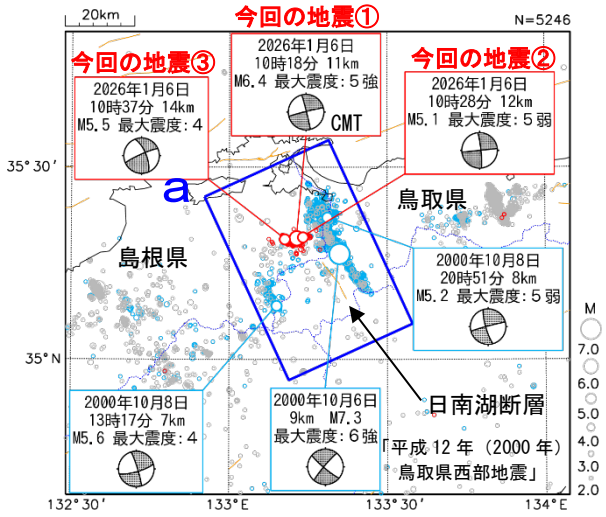
（M≧1.0、陸域 深さ 30km 以浅、海域 深さ 60km 以浅）



気象庁作成

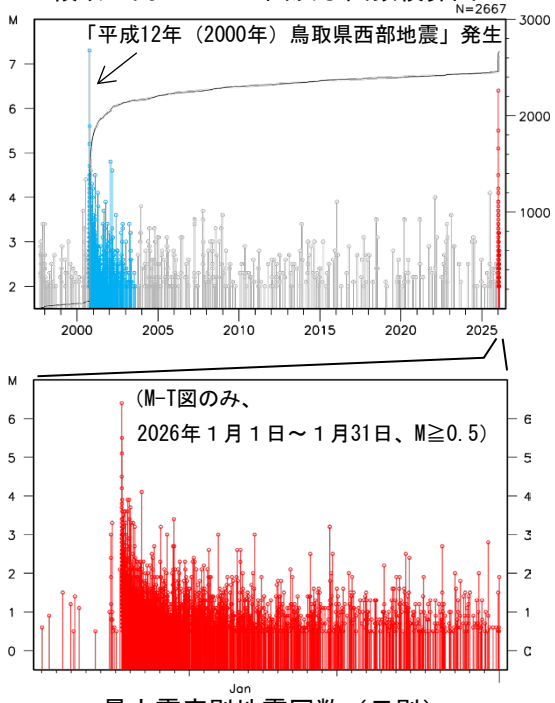
１月６日 島根県東部の地震

震央分布図
（1997 年 10 月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～30km、M≧2.0）
2000 年 10 月～2003 年９月の地震を水色、
2026 年１月の地震を赤色、
上記以外の期間の地震を灰色で表示

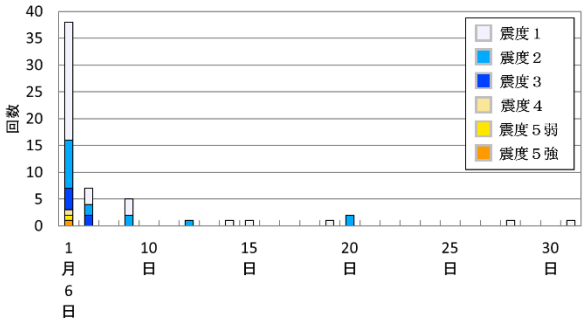


震央分布図中の橙色の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

領域ａ内のＭ－Ｔ図及び回数積算図



最大震度別地震回数（日別）
（2026年１月６日～１月31日、震度１以上）

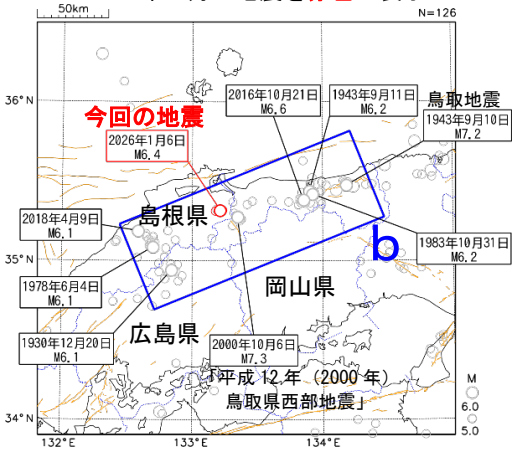


2026年１月６日10時18分に島根県東部の深さ11kmでM6.4の地震（最大震度５強、図中①）が発生した。この地震は地殻内で発生した。発震機構（CMT解）は、西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震の震央付近では、５日16時43分にM3.0の地震（最大震度１）及び同日18時42分にM3.3の地震（最大震度２）が発生した。また、M6.4の地震発生後には、６日10時28分にM5.1の地震（最大震度５弱、図中②）及び同日10時37分にM5.5の地震（最大震度４、図中③）が発生するなど、M5.0を超える地震が発生した。６日から31日までに震度１以上を観測した地震が58回（震度５強：１回、震度５弱：１回、震度４：１回、震度３：６回、震度２：16回、震度１：33回）発生した。この地震により、負傷者15人、住家一部破損114棟の被害が生じた（被害は2026年１月14日17時00分現在、総務省消防庁による）。

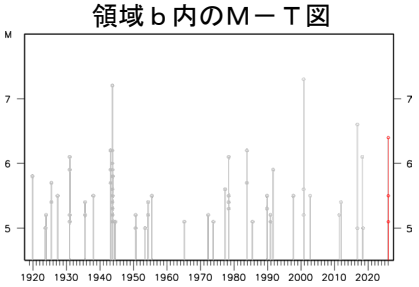
1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域ａ）では、「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」が発生している。この地震により、負傷者182人、住家全壊435棟などの被害が生じた（被害は総務省消防庁による）。

1919年以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺（領域ｂ）では、M6.0程度の地震が時々発生している。このうち、1943年９月10日に発生したM7.2の地震（鳥取地震、最大震度６）では、死者1,083人、住家全壊7,485棟などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

震央分布図
（1919 年１月１日～2026 年１月 31 日、
深さ０～30km、M≧5.0）
2026 年１月の地震を赤色で表示

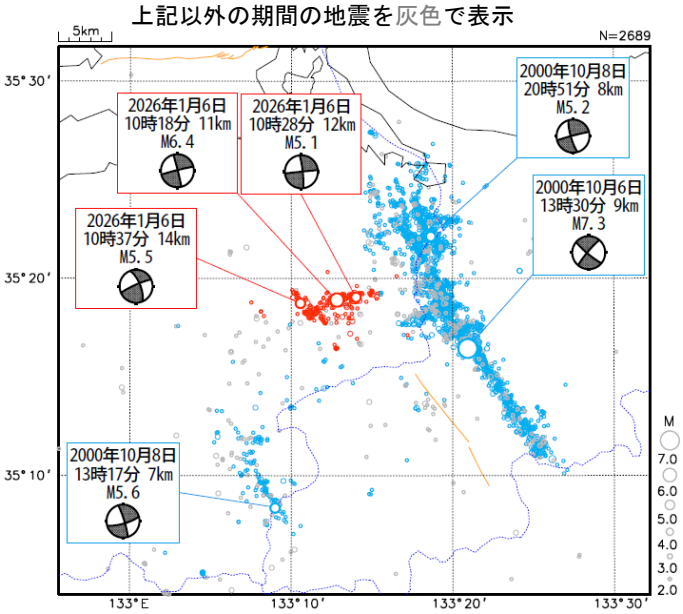


領域ｂ内のＭ－Ｔ図

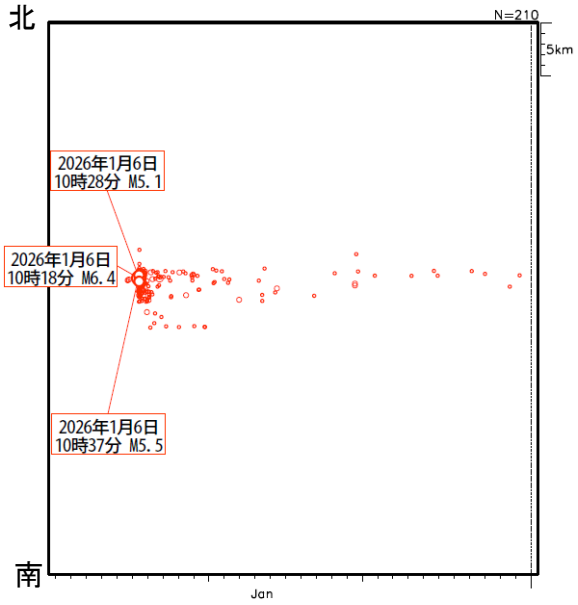


気象庁作成

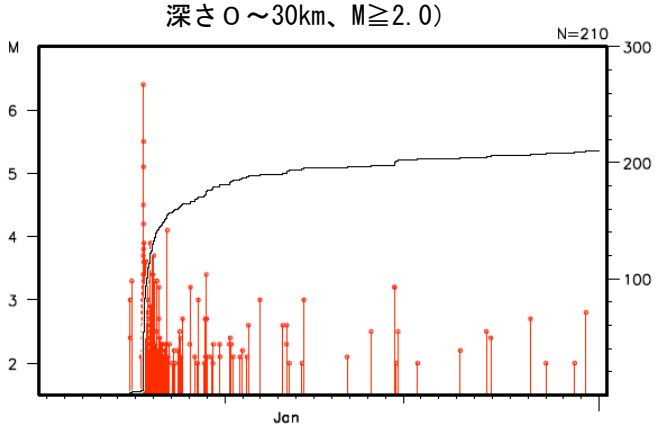
震央分布図（前ページの拡大図）
（1997 年 10 月 1 日～2026 年 1 月 31 日、
深さ 0～30km、M≧2.0）
2000 年 10 月～2003 年 9 月の地震を水色、
2026 年 1 月の地震を**赤色**、
上記以外の期間の地震を灰色で表示



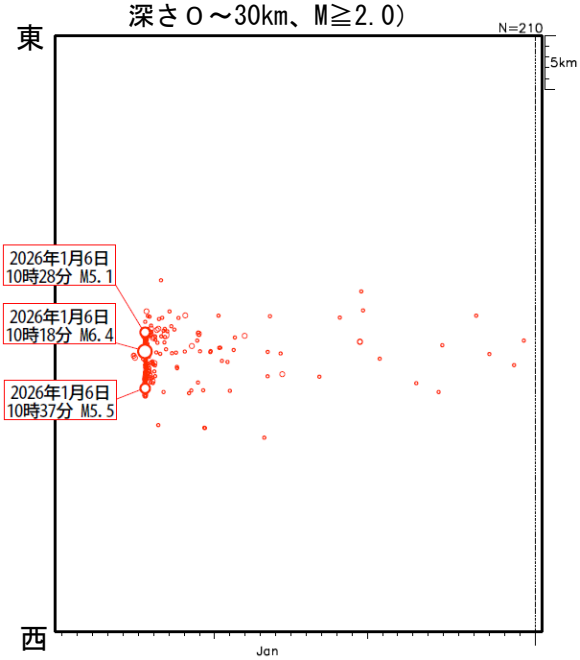
震央分布図内の時空間分布図（南北投影）
（2026 年 1 月 1 日～ 1 月 31 日、
深さ 0～30km、M≧2.0）



震央分布図内のＭ－Ｔ回数積算図
（2026 年 1 月 1 日～ 1 月 31 日、
深さ 0～30km、M≧2.0）



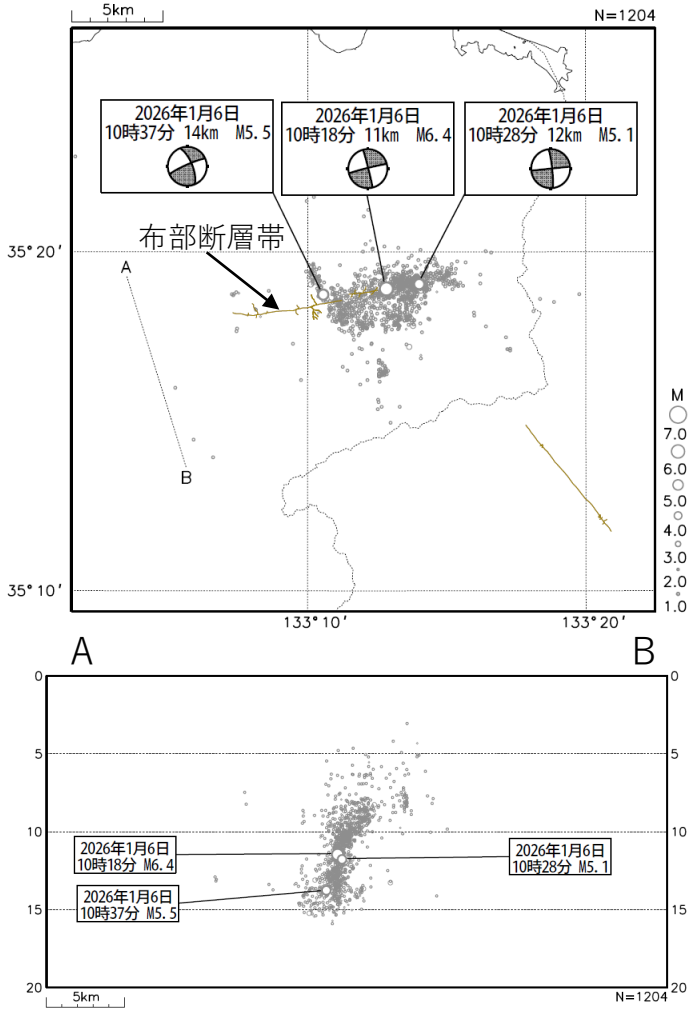
震央分布図内の時空間分布図（東西投影）
（2026 年 1 月 1 日～ 1 月 31 日、
深さ 0～30km、M≧2.0）



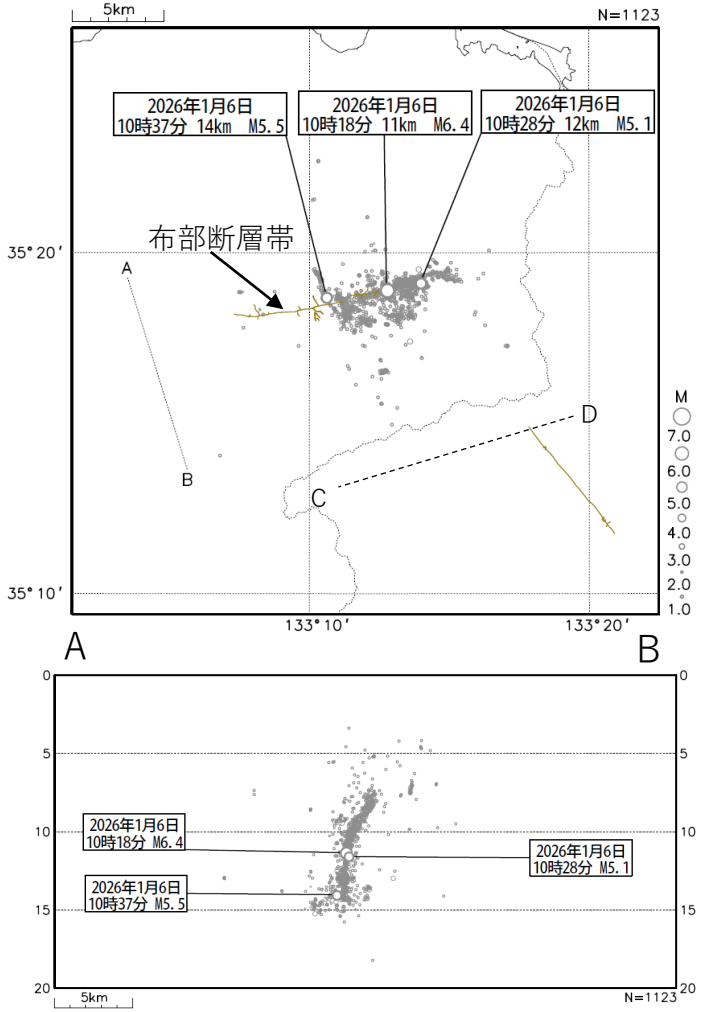
気象庁作成

１月６日　島根県東部の地震

上図：一元化震源の震央分布図(2026年１月１日～20日、M≧1.0、深さ０-20km)
下図：一元化震源の断面図（A－B投影）

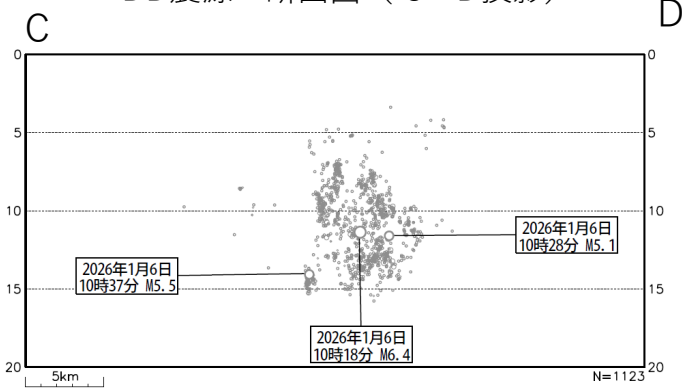


上図：DD震源の震央分布図(2026年１月１日～20日、M≧1.0、深さ０-20km)
下図：DD震源の断面図（ A－B投影）



１月１日から20日までのデータを使用し波形相関を用いたDD(Double-Difference)法による震源再決定を行った。

DD震源の断面図（ C－D投影）



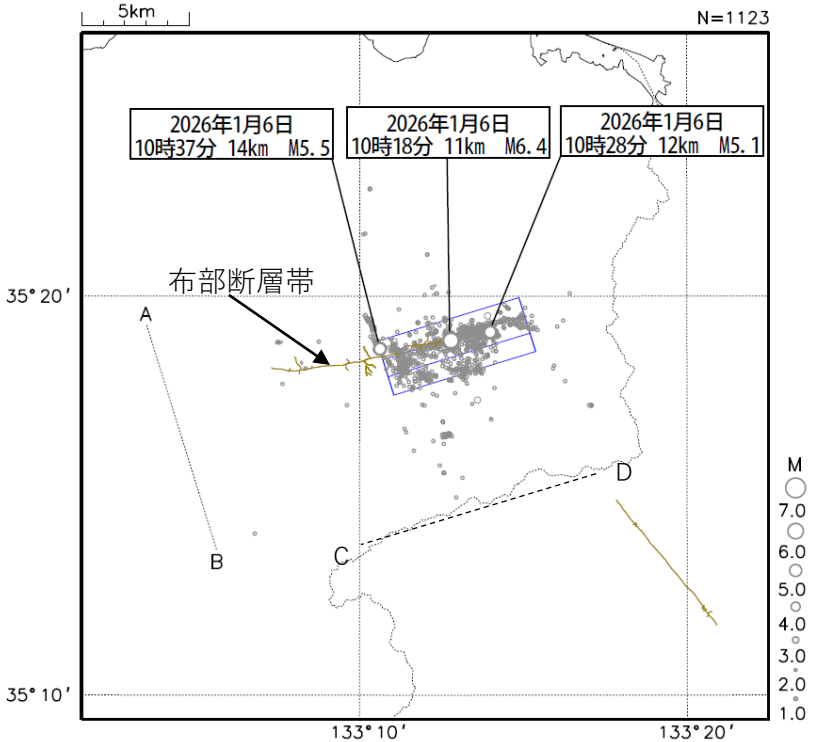
図の茶色の線は、「活断層詳細デジタルマップ（東京大学出版会、2002）」による活断層を示す

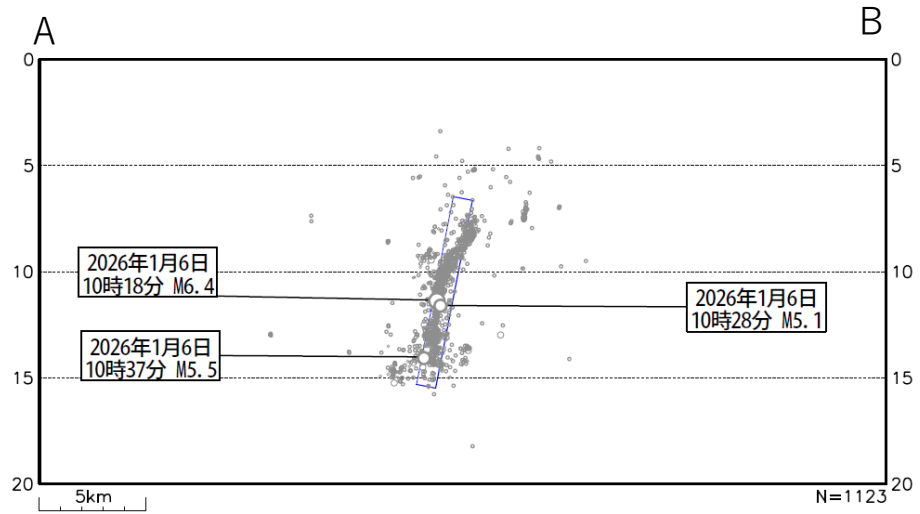
気象庁作成

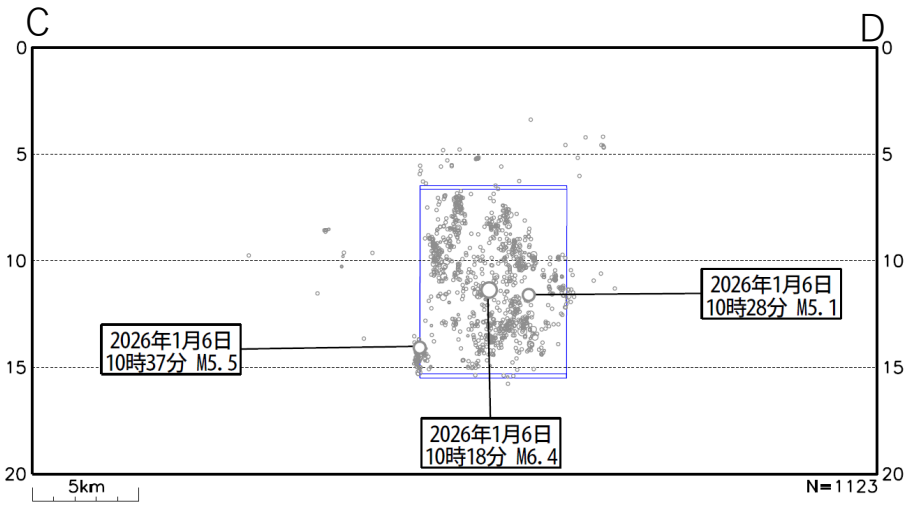
１月６日　島根県東部の地震

FaultNo	Lon	Lat	Depth(km)	Strike	Dip	Length(km)	Width(km)	Thickness(km)	Planarity	Sd_strike	Sd_dip
1	133.2	35.3	11.0	252.8	78.9	6.9	9.0	0.9	9.5	0.7	0.7

左図：DD震源の震央分布図(2026年１月１日～20日、M≧1.0、深さ０-20km)
右上図：DD震源の断面図（ A－B投影）
右下図：DD震源の断面図（ C－D投影）







PCA（主成分分析）を用いて断層面の推定を行った。
推定された形状は上記記載の表のとおり。

図の青枠線は推定された断層面の形状を表す。

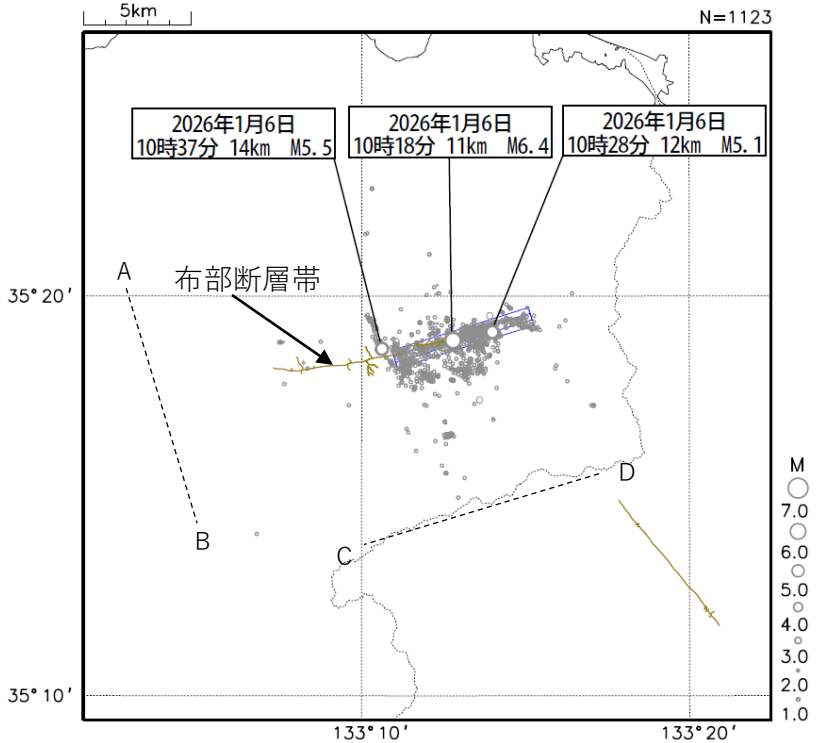
図の茶色の線は「活断層詳細デジタルマップ（東京大学出版会、2002）」による活断層を示す

気象庁作成

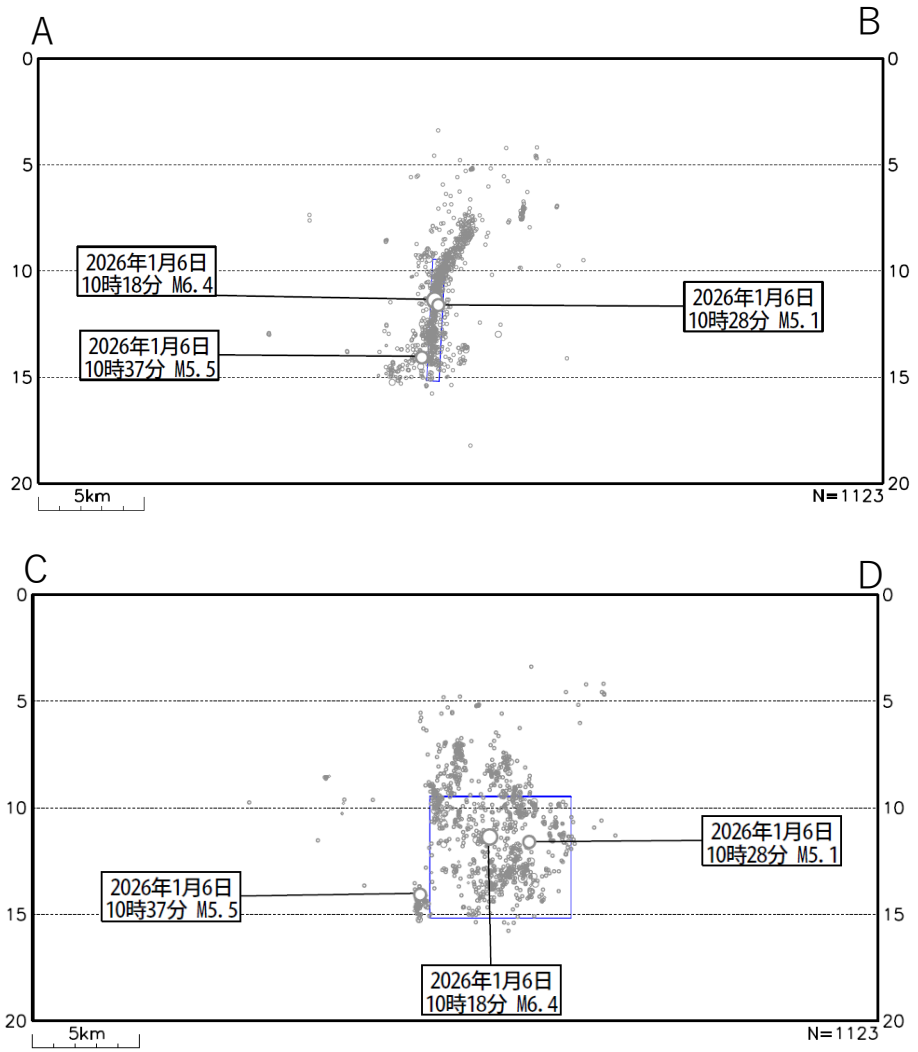
１月６日　島根県東部の地震

FaultNo	Lon	Lat	Depth(km)	Strike	Dip	Length(km)	Width(km)	Thickness(km)	Planarity	Sd_strike	Sd_dip
1	133.2	35.3	12.3	252.5	87.2	6.6	5.7	0.6	9.4	0.6	1.1

左図：DD震源の震央分布図(2026年１月１日～20日、M≧1.0、深さ０-20km)
右上図：DD震源の断面図（Ａ－B投影）
右下図：DD震源の断面図（Ｃ－D投影）



図の青枠線は推定された断層面の形状(10km以深)を表す。



PCA（主成分分析）を用いて、**10km以深**のデータ（注１）（注２）について断層面の推定を行った。
推定された形状は上記記載の表のとおり。

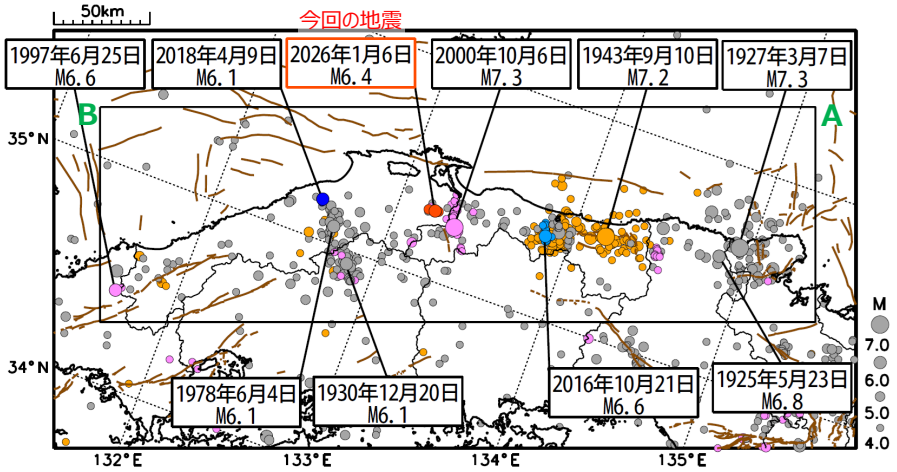
（注１）10km以浅のデータについては、平面性を確保できなかったため記載していない。
（Planarity=λ2/λ3=5.6）
（注２）１月16日10時37分M5.5の地震が含まれるクラスタは除いて解析している。

図の茶色の線は「活断層詳細デジタルマップ（東京大学出版会、2002）」による活断層を示す

気象庁作成

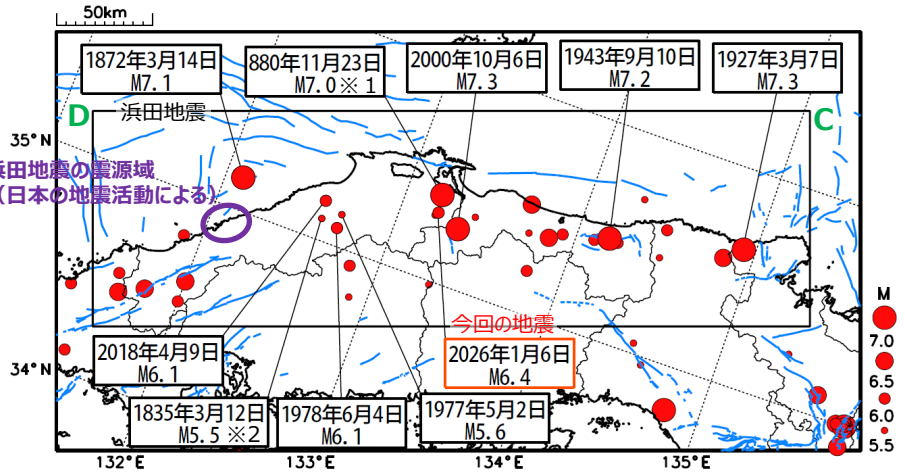
1月6日　島根県東部の地震（周辺の過去の地震活動）

震央分布図（1919年1月1日～2026年1月28日、M≧4.0、30km以浅）



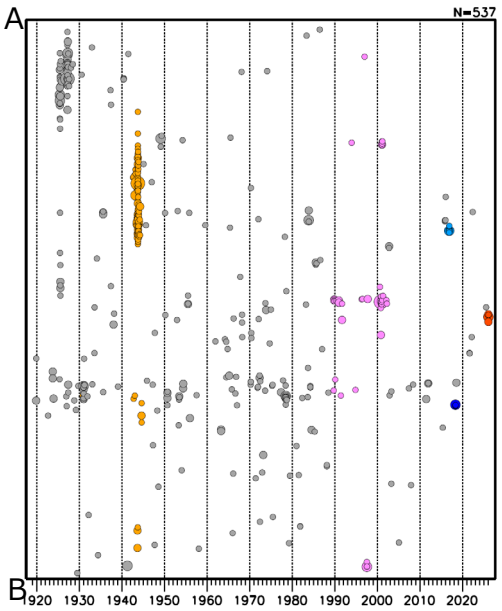
茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

震央分布図（466年～ 2026年1月6日、M≧5.5の被害地震、30km以浅）

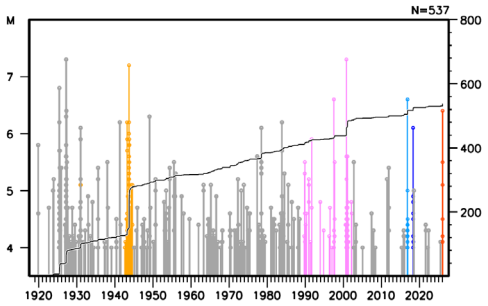


青線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

上図矩形内の時空間分布（AB投影）

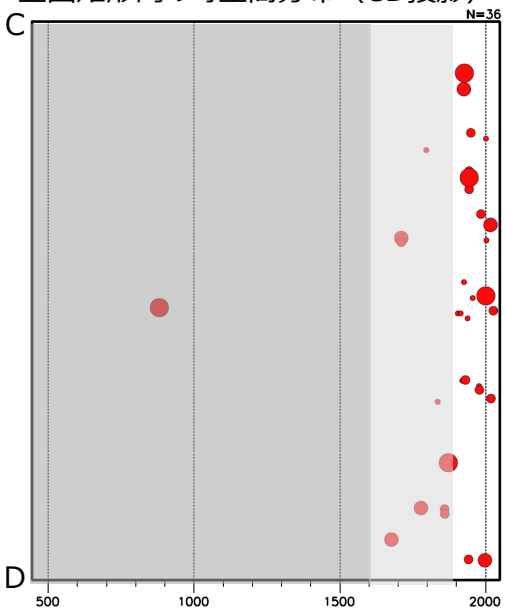


上図矩形内のMT・回数積算図



橙色：1942年1月1日～1944年12月31日
桃色：1989年1月1日～2002年4月5日
水色：2016年10月1日～10月31日
青色：2018年4月1日～30日
赤色：2026年1月1日～28日
灰色：上記以外の期間

上図矩形内の時空間分布（CD投影）



※1
社寺・民家の破損が多く、震央は当時の国府に置かれている［日本被害地震総覧より］。また、中田ほか（2005）のトレンチ調査の結果、宍道（鹿島）断層の最新活動が880年の地震に対応する可能性が指摘されている［宍道（鹿島）断層の長期評価より］。

※2
島根県高畑村で石地蔵・石塔・墓石など倒れ、蔵の壁破る。久保・長原で石垣崩る［以上、日本被害地震総覧より］。

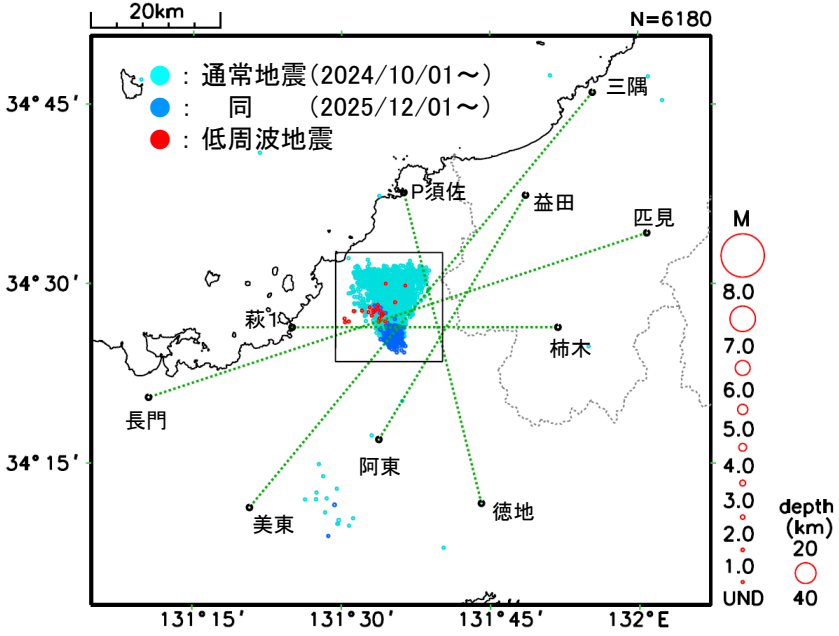
震源要素は1884年までは理科年表、1885年～1922年は宇津によるカタログ（宇津（1982、1985）、茅野・宇津（2001）など）を使用した。

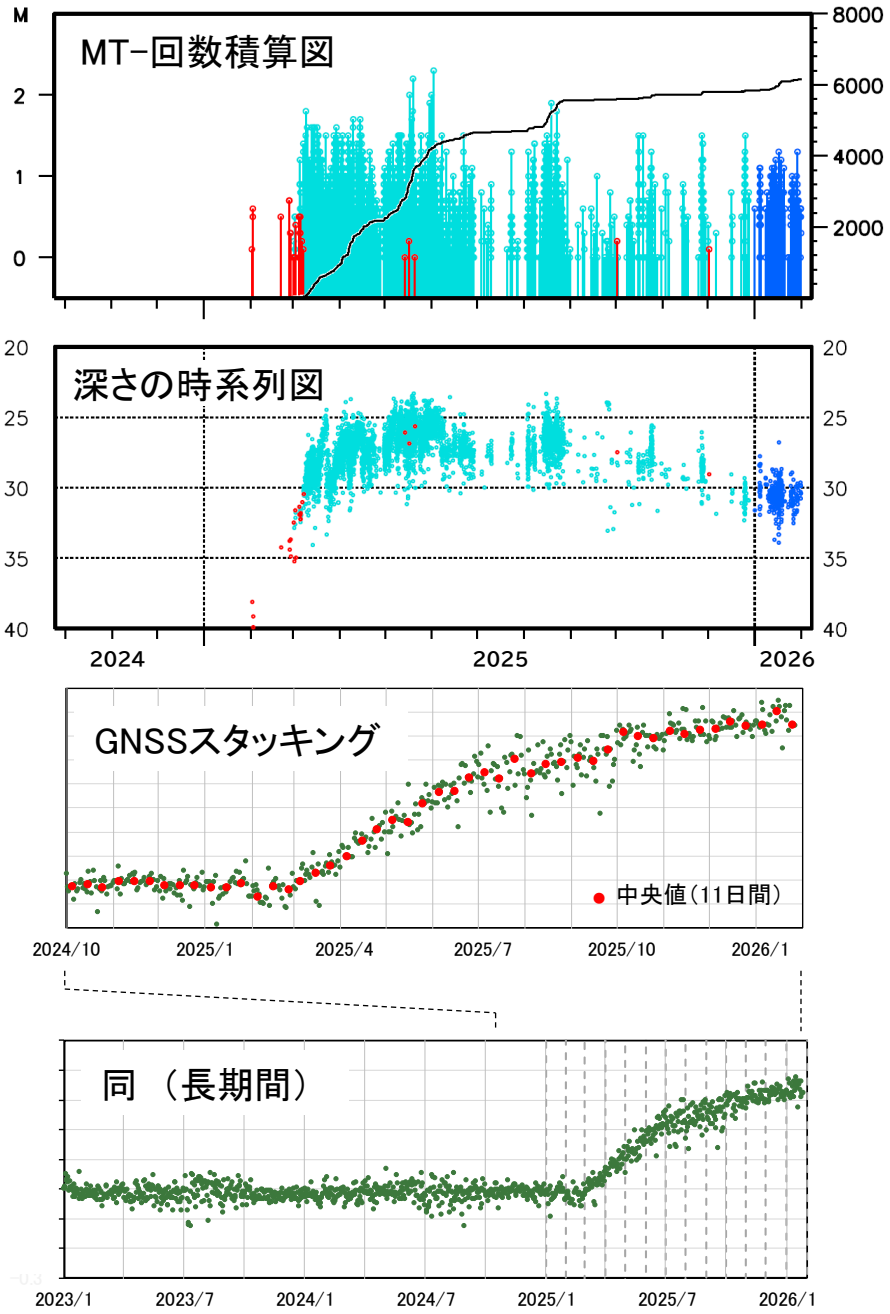
：江戸時代より前
：江戸時代～1884年（宇津カタログ以前）

気象庁作成

山口県北部の地震活動と地殻変動

震央分布図（2024年10月～2026年1月31日）
深さ20～40km、Mすべて





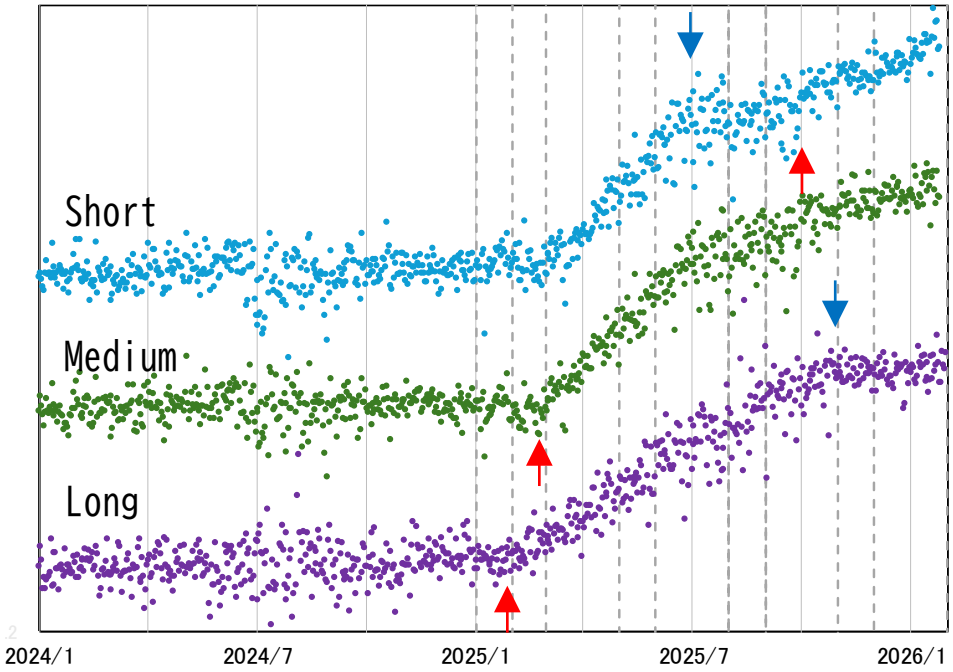
・地震活動開始とほぼ同時期から伸びの変化

・伸びの変化は夏頃から鈍化

（気象庁作成）

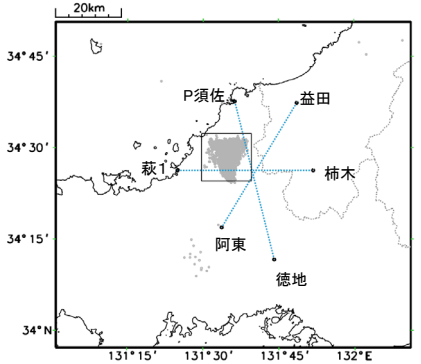
GNSSデータは、2026年1月26日まで
2023/1～2024/12 で一次トレンド除去、年周・半年周除去

短い／中間／長い基線によるスタッキング時系列変化

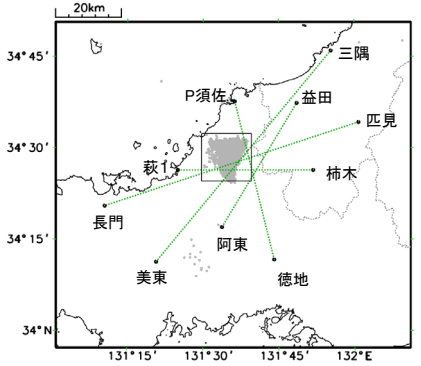


スタッキングに用いた基線
（数値は用いた基線長の平均）

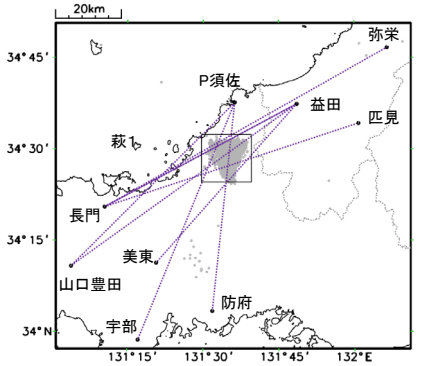
Short
（45km）



Medium
（60km）



Long
（75km）



（気象庁作成）

Short
- 地震活動開始頃から伸びの変化
- 夏ごろから伸びの変化は停滞
- 秋ごろから再び伸びの変化

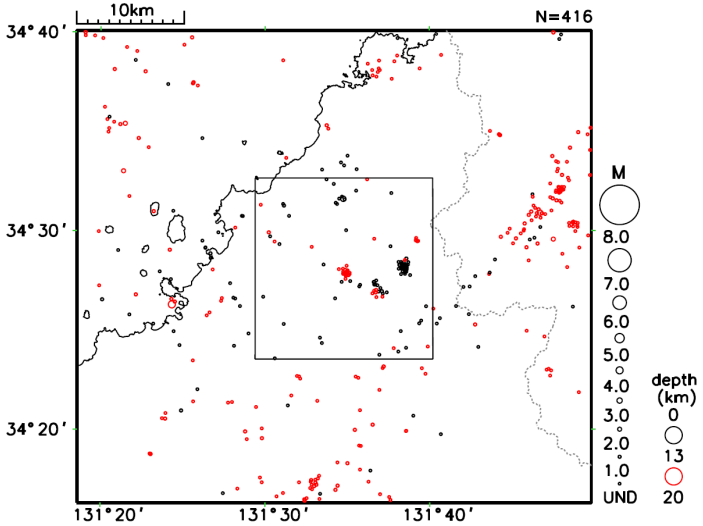
Medium
- 地震活動の開始とほぼ同時期（２月末）から伸びの変化
- 伸びの変化は夏頃から鈍化

Long
- 変化の開始は地震活動よりも先行（１月末頃？）
- 秋以降、伸びの変化は鈍化

地震活動とスタッキングデータ

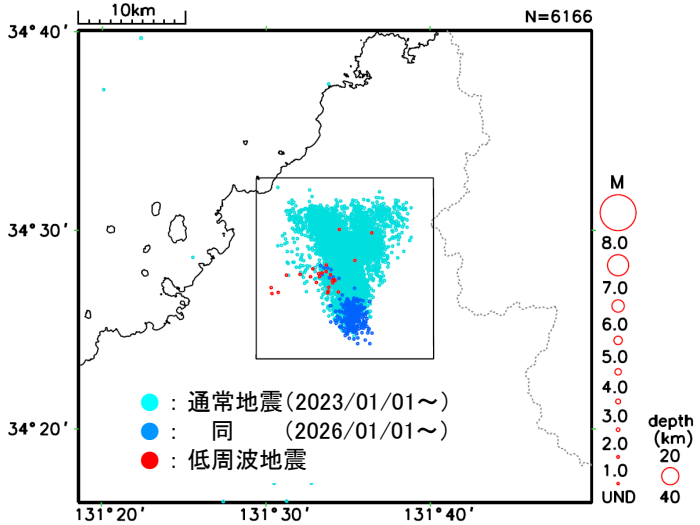
2023年1月1日～2026年1月31日、深さ 0～20km

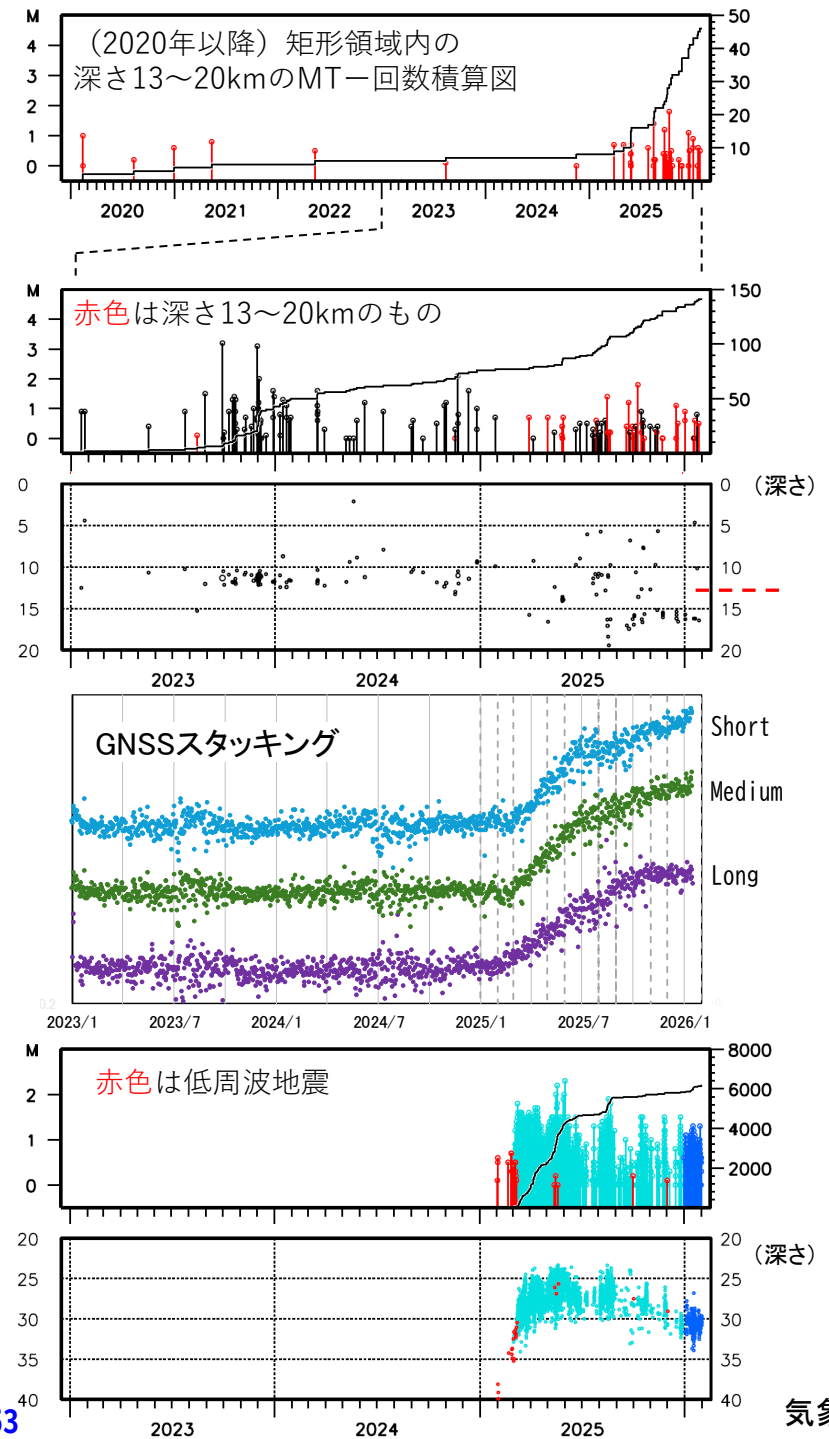
（深さ13km以深を赤色でプロット）



2023年1月1日～2026年1月31日、深さ: 20～40km

（2026年1月以降を青色で、低周波地震は赤色でプロット）





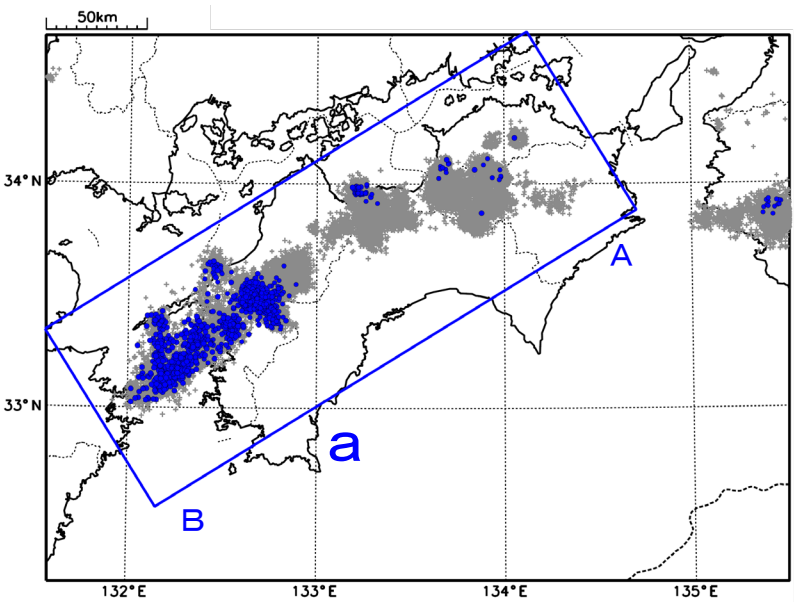
気象庁作成

四国西部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

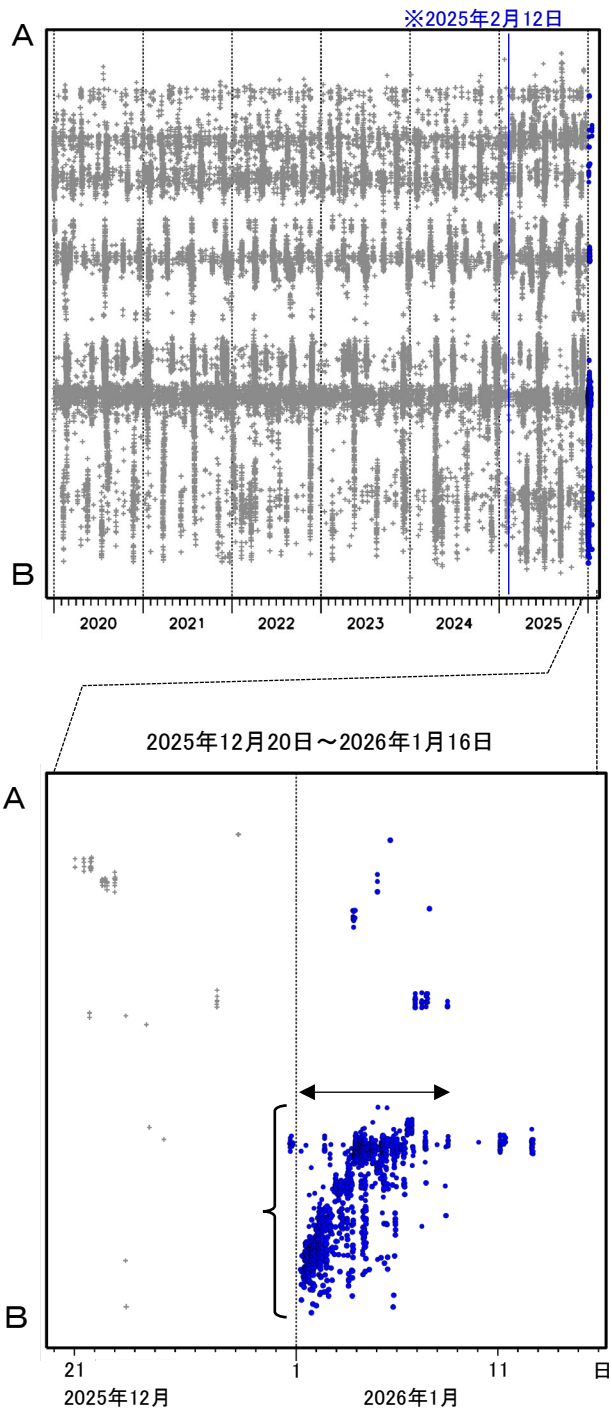
2025年12月31日から2026年1月8日にかけて、四国西部で深部低周波地震（微動）を観測した。
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ・傾斜計で地殻変動を観測している。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図（2020年1月1日～2026年1月16日、
深さ0～60km、Mすべて）
灰：2020年1月1日～2025年12月30日、
青：2025年12月31日以降



震央分布図の領域a内の時空間分布図（A－B投影）

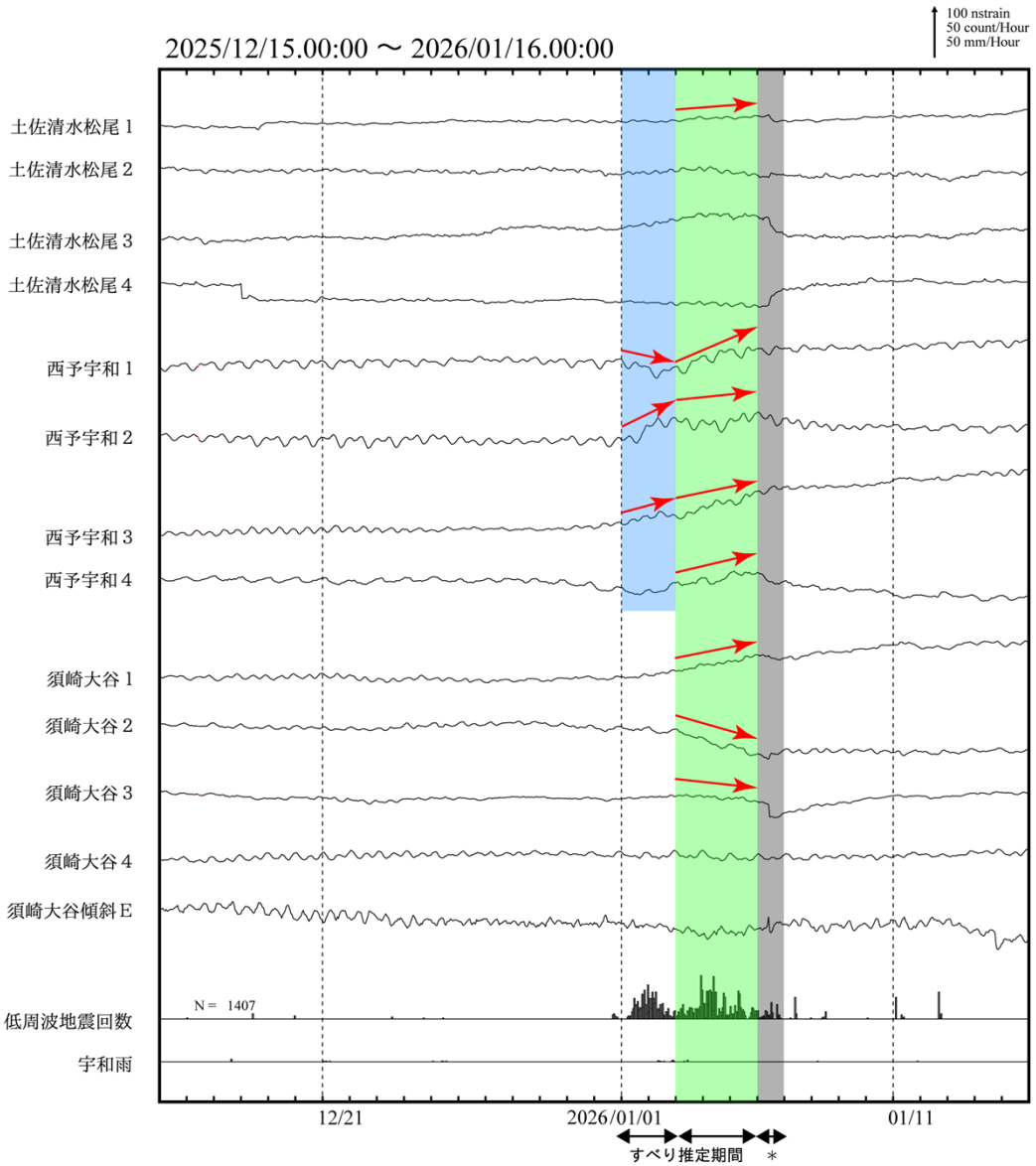


※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、
それ以前と比較して検知能力が変わっている。

気象庁作成

四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり（1月1日～5日）

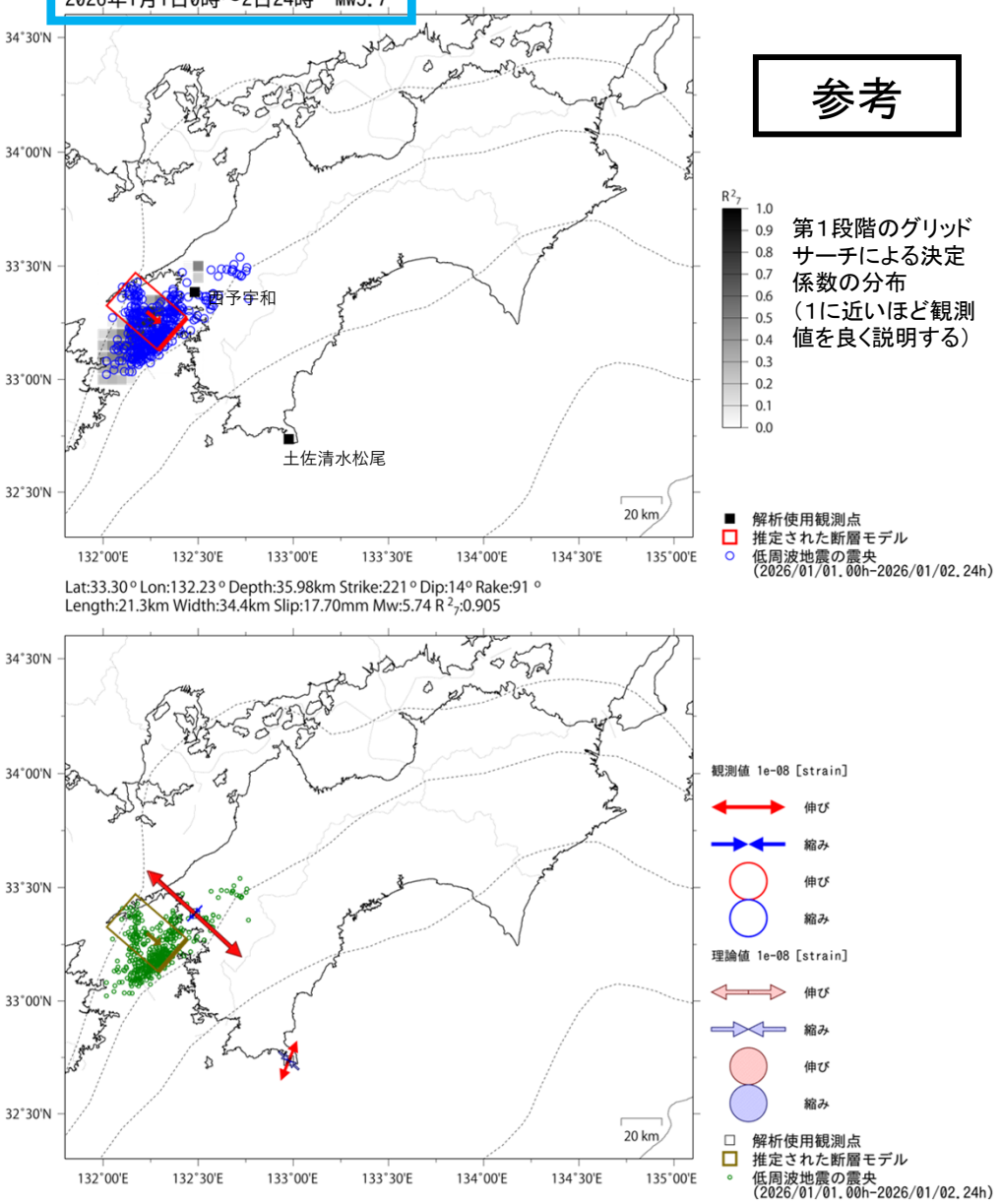
愛媛県から高知県で観測されたひずみ・傾斜変化



土佐清水松尾、西予宇和及び須崎大谷は産業技術総合研究所のひずみ・傾斜計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。
＊の期間に地震（2026/1/6 島根県東部）の影響による波形の変化が見られる。

2026年1月1日0時～2日24時　Mw5.7

参考



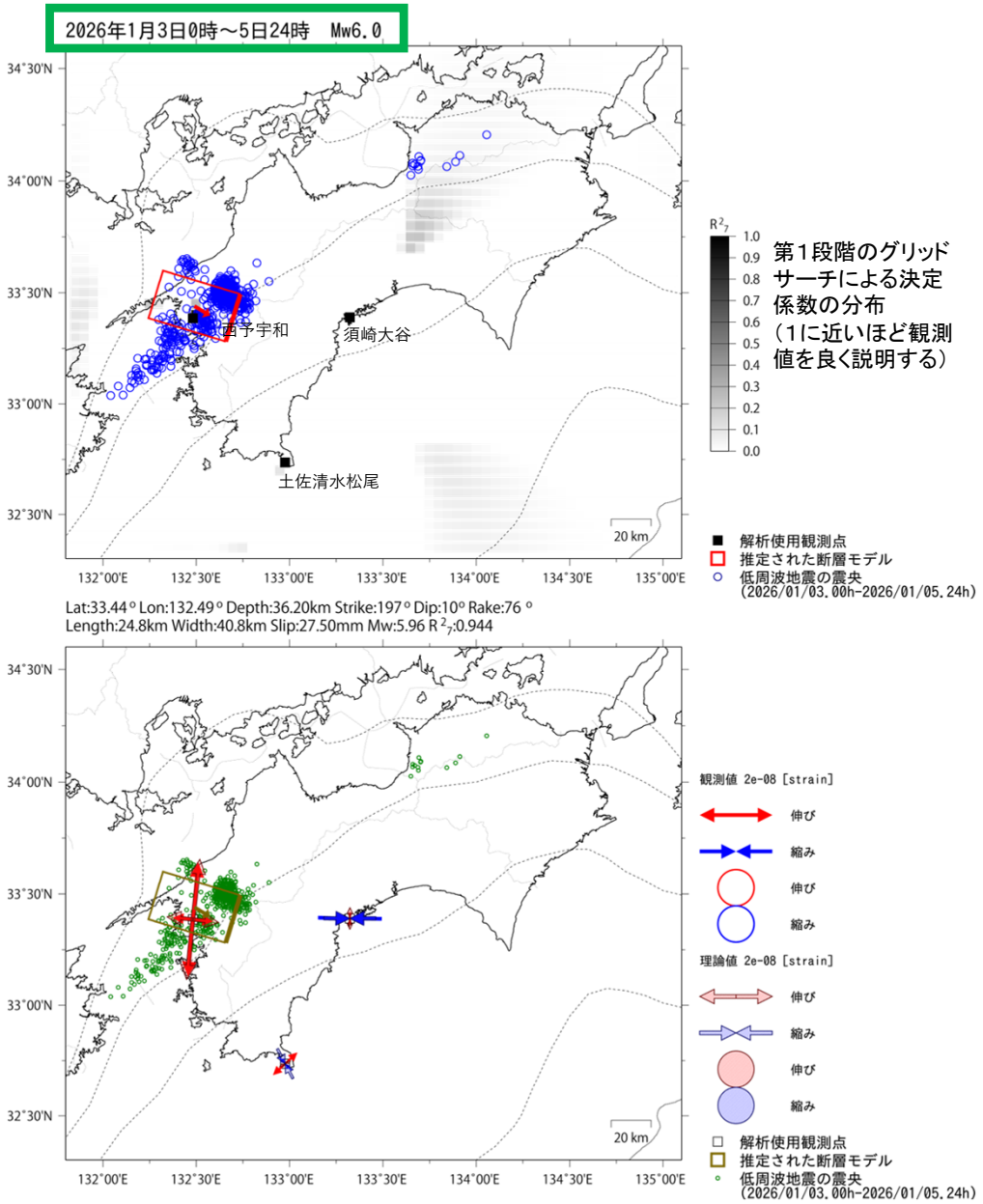
Lat:33.30° Lon:132.23° Depth:35.98km Strike:221° Dip:14° Rake:91 °
Length:21.3km Width:34.4km Slip:17.70mm Mw:5.74 R^2_7:0.905

左図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

四国西部で観測した短期的ゆっくりすべり（1月1日～5日）



前頁に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

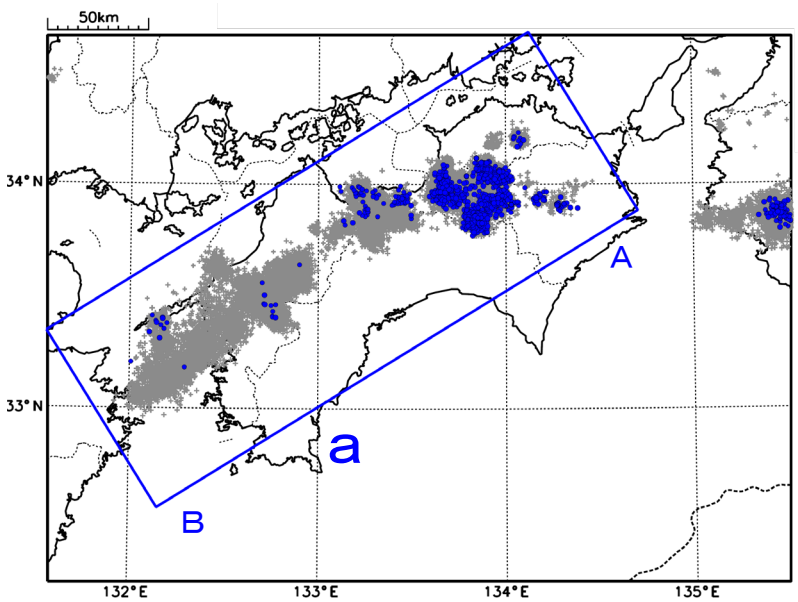
気象庁作成

四国東部の深部低周波地震（微動）活動と短期的ゆっくりすべり

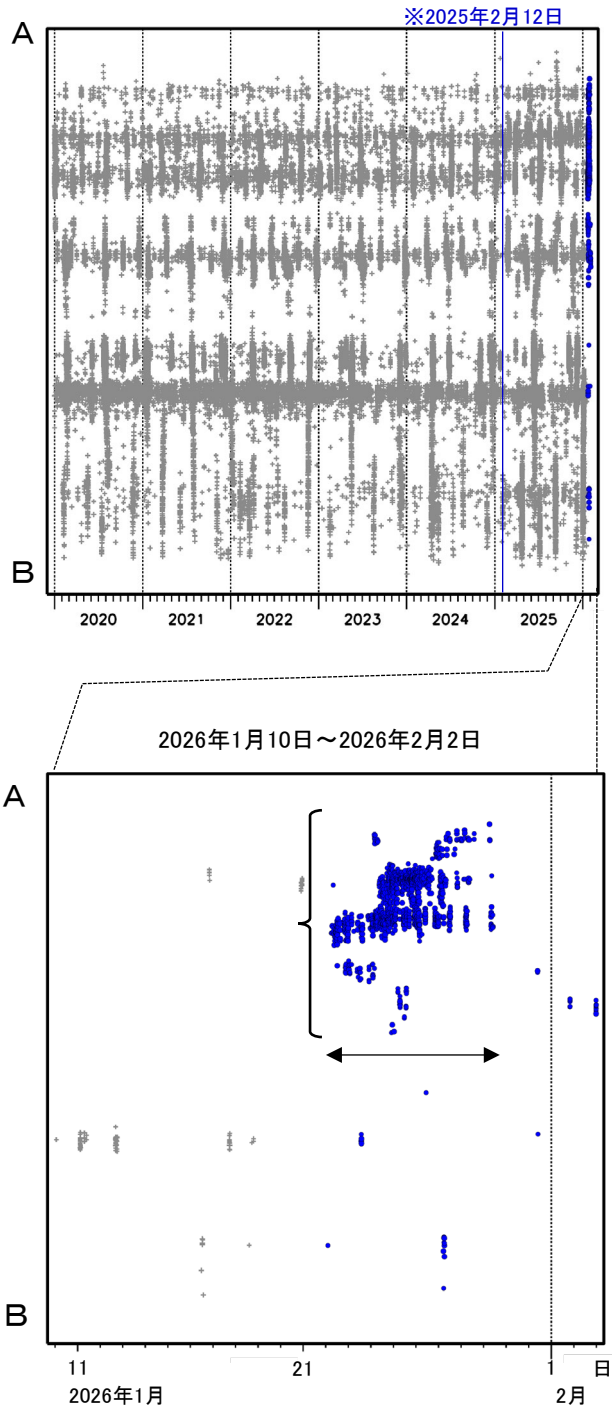
2026年1月22日から1月29日にかけて、四国東部で深部低周波地震（微動）を観測した。
深部低周波地震（微動）活動とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ・傾斜計で地殻変動を観測している。これらは、短期的ゆっくりすべりに起因すると推定される。

深部低周波地震（微動）活動

震央分布図（2020年1月1日～2026年2月2日、
深さ0～60km、Mすべて）
灰：2020年1月1日～2026年1月21日、
青：2026年1月22日以降



震央分布図の領域a内の時空間分布図（A－B投影）

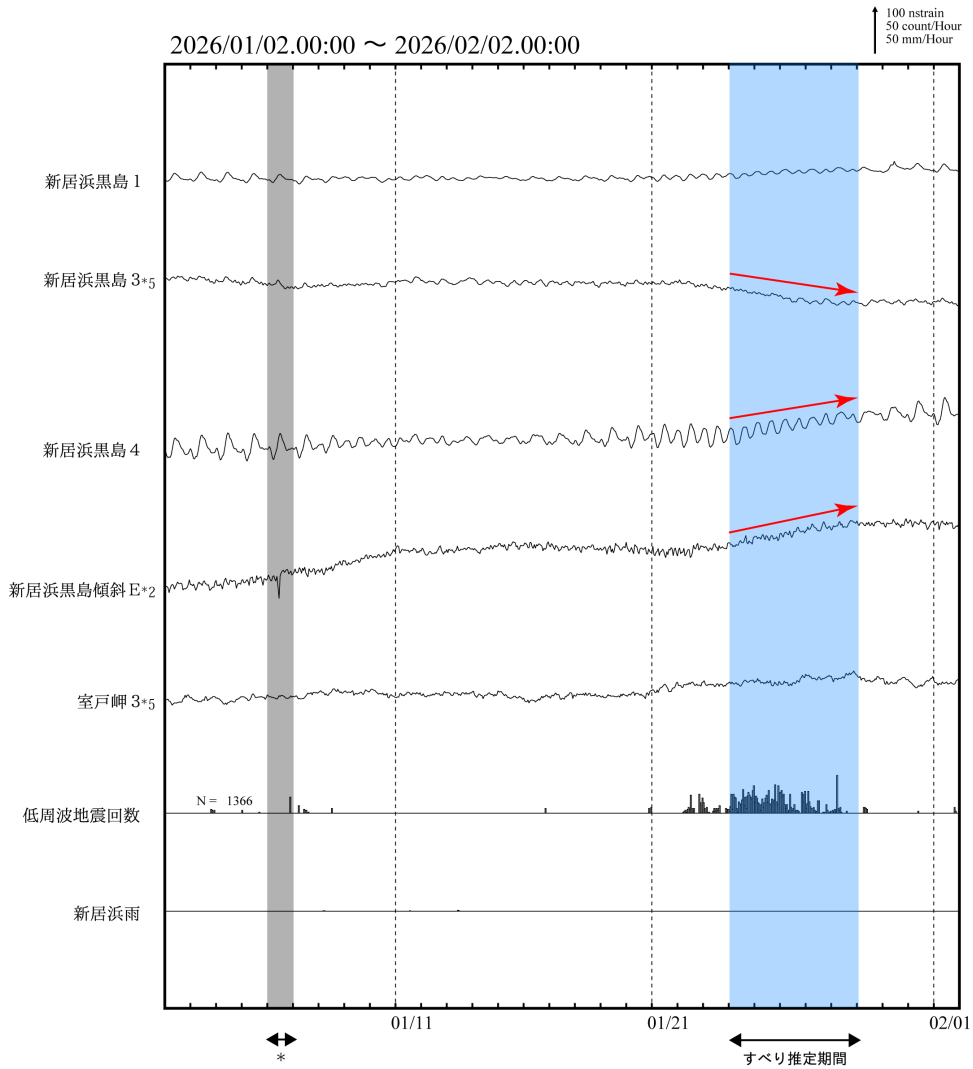


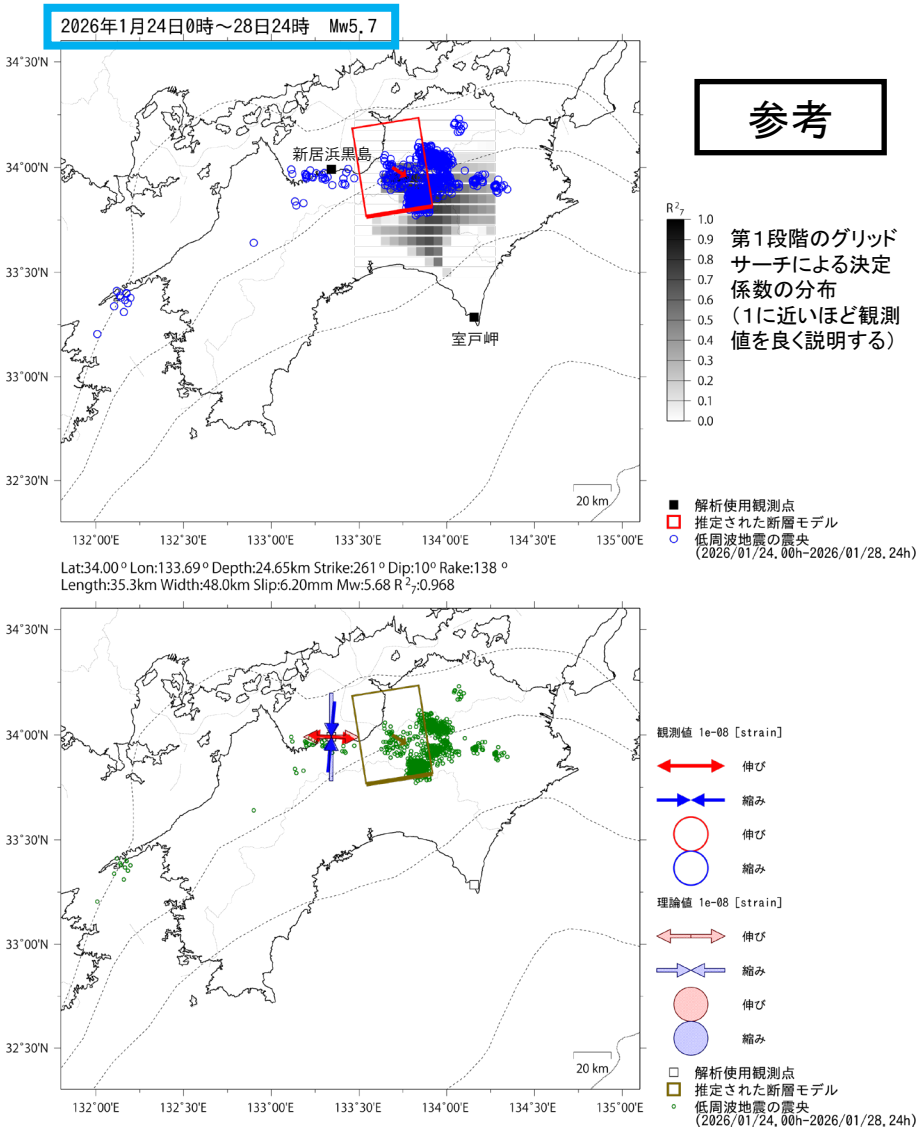
※2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、
それ以前と比較して検知能力が変わっている。

気象庁作成

四国東部で観測した短期的ゆっくりすべり（1月24日～28日）

愛媛県から高知県で観測されたひずみ・傾斜変化





参考

R^2 1.0 0.9 0.8 0.7 0.6 0.5 0.4 0.3 0.2 0.1 0.0

第１段階のグリッドサーチによる決定係数の分布（1に近いほど観測値を良く説明する）

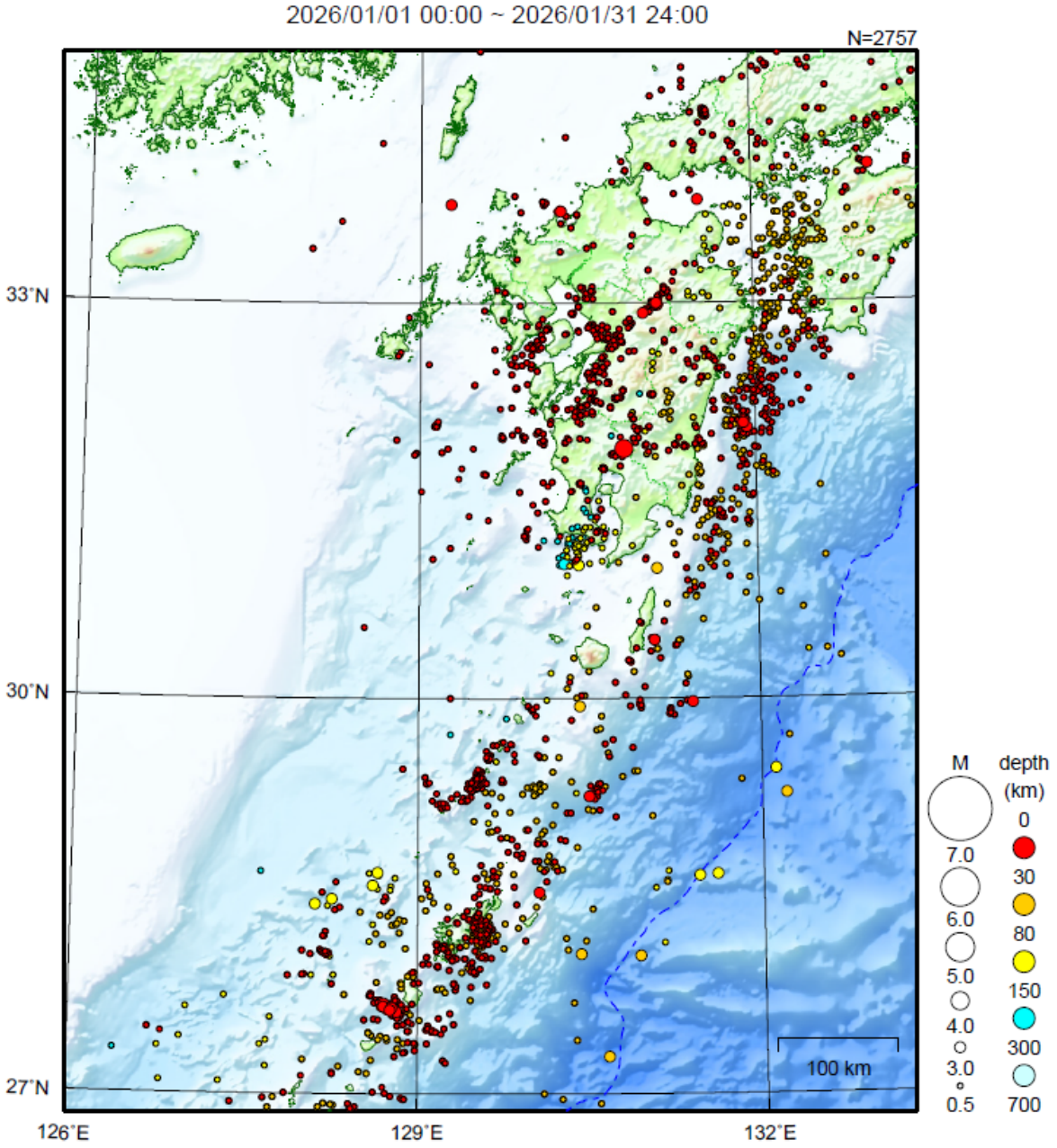
新居浜黒島及び室戸岬は産業技術総合研究所のひずみ・傾斜計である。
解析に使用したチャネルについては背景色を塗り、そのうち有意な変化が見られたチャネルに赤矢印を描画している。
*の期間に地震（2026/1/6 島根県東部）の影響による波形の変化が見られる。

左図に示す観測点での変化量をもとにすべり推定を行ったところ、図の場所にゆっくりすべりを示す断層モデルが求まった。

断層モデルの推定は、産総研の解析方法（板場ほか，2012）を参考に以下の2段階で行う。
・断層サイズを20km×20kmに固定し、位置を0.05度単位でグリッドサーチにより推定する。
・その位置を中心にして、他の断層パラメータの最適解を求める。

気象庁作成

九州地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

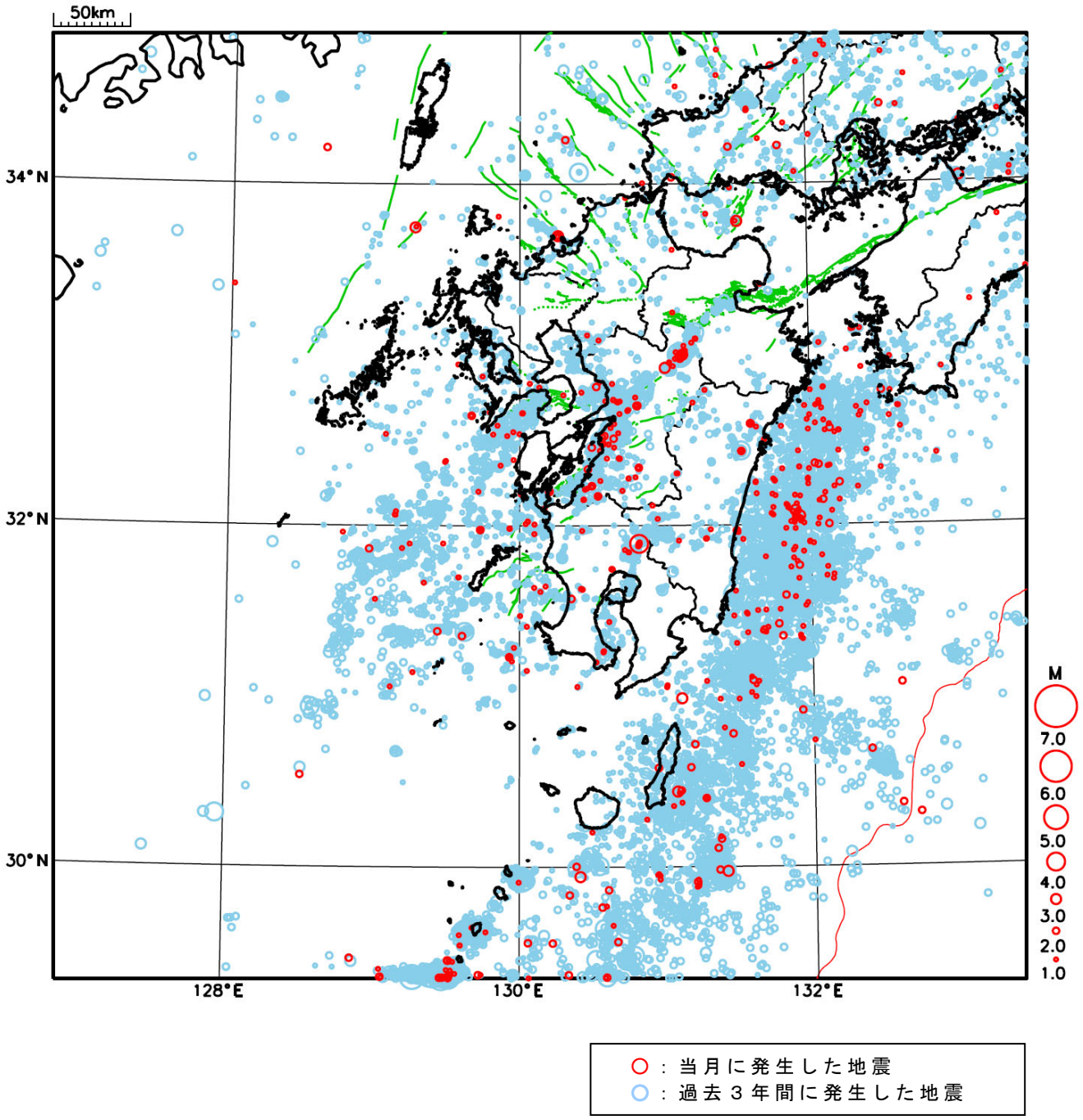
特に目立った地震活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

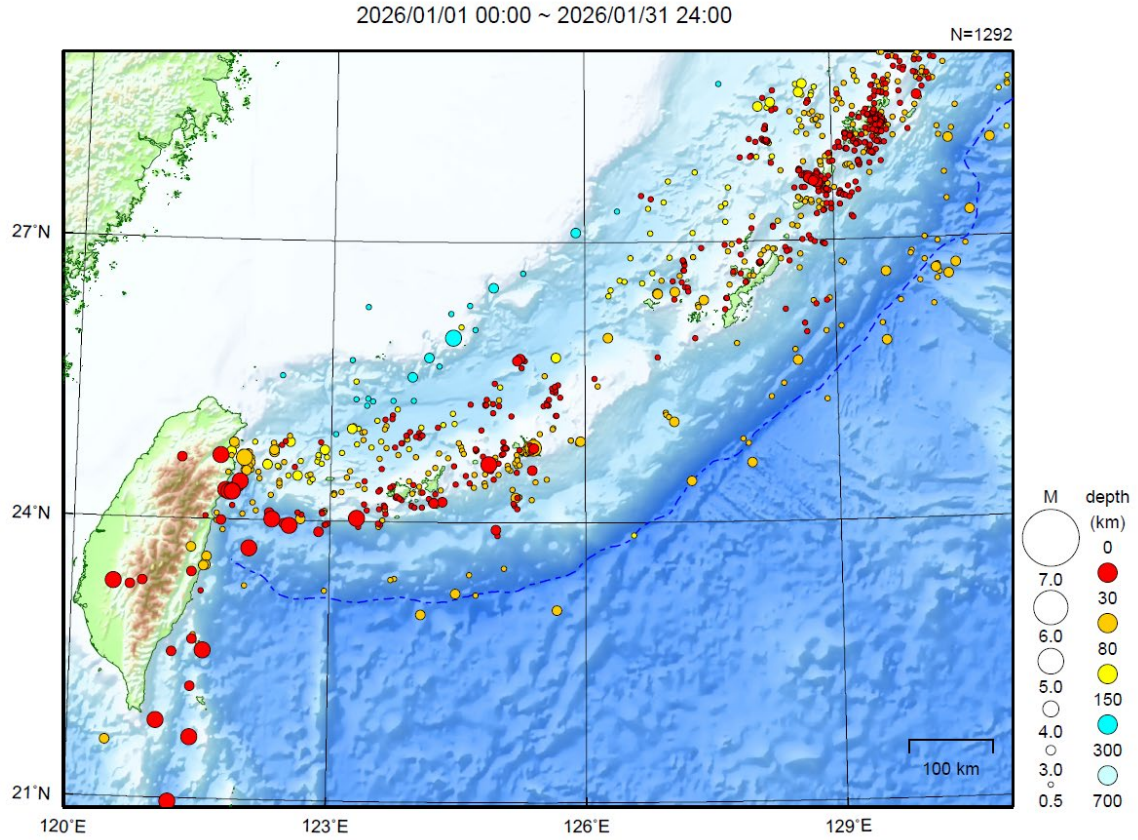
九州地方における 2026 年１月の地震活動

（M≧1.0、陸域 深さ 30km 以浅、海域 深さ 60km 以浅）



気象庁作成

沖縄地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30 及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

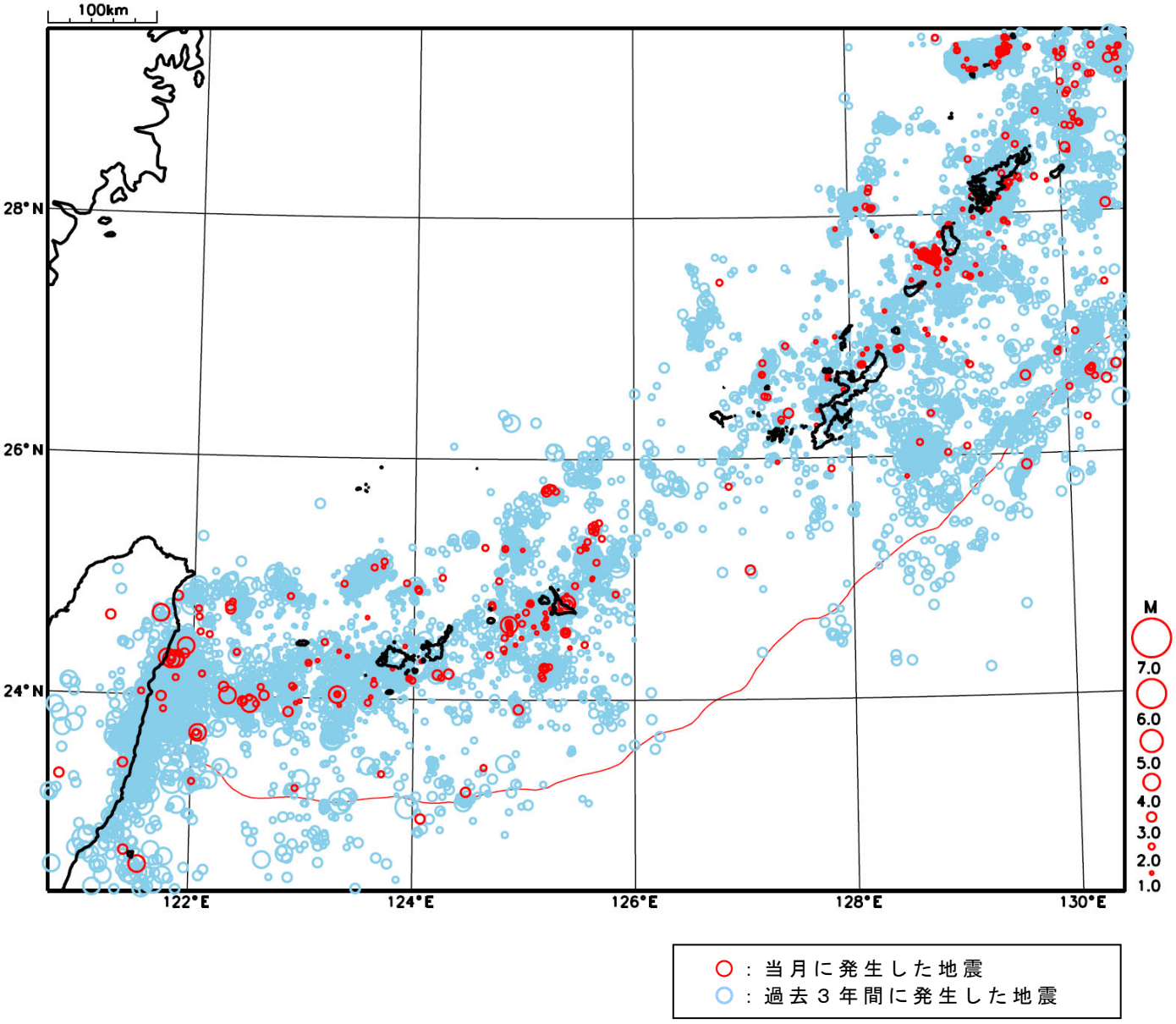
特に目立った地震活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

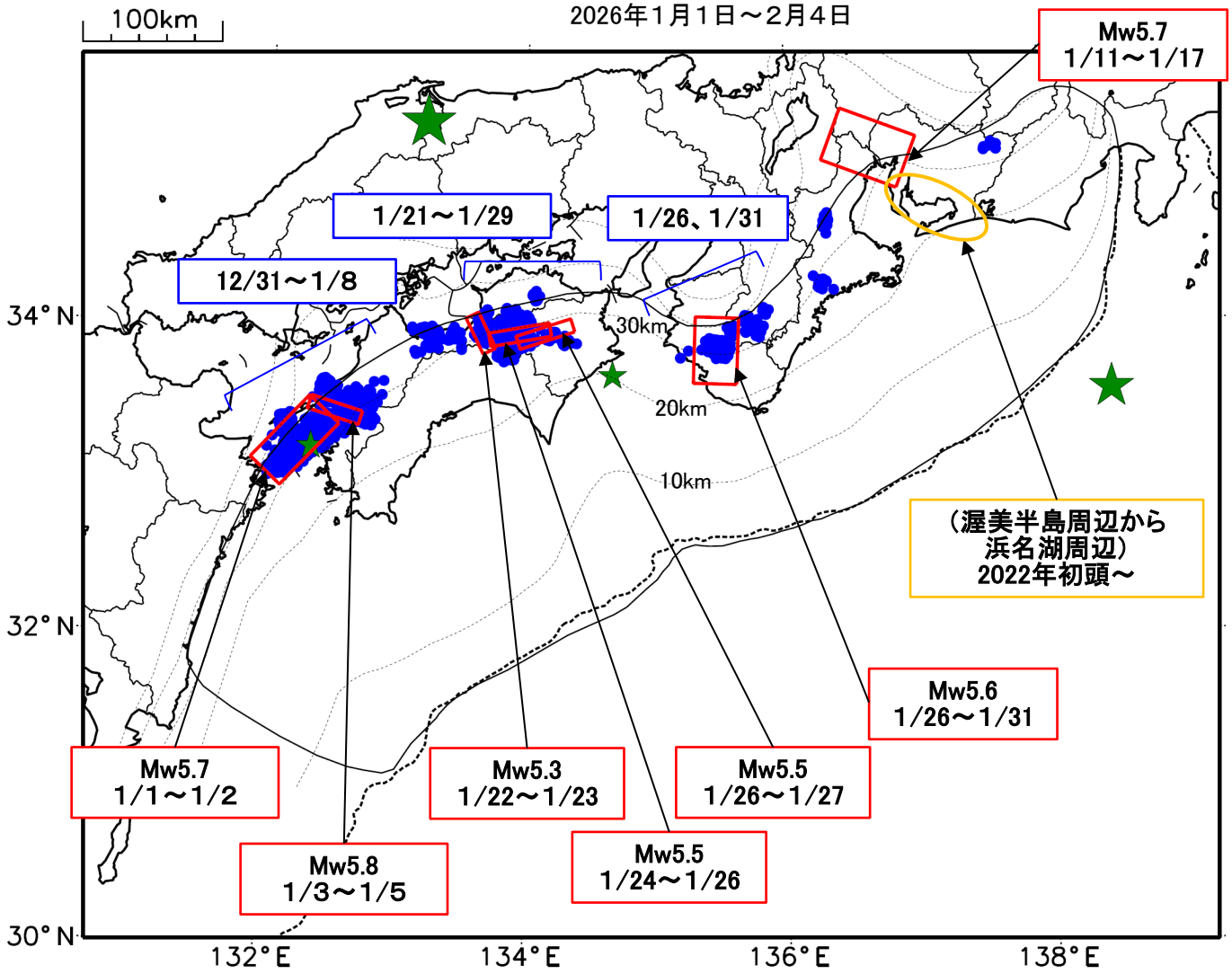
沖縄地方における 2026 年 1 月の地震活動

（M≧1.0、深さ 60km 以浅）



気象庁作成

最近の南海トラフ周辺の地殻活動



緑（★）
通常の地震（最大震度3以上もしくはM3.5以上の地震、大きさはMの大きさを示す）

青（●）
深部低周波地震（微動）

赤（□）
短期的ゆっくりすべり

黄（○）
長期的ゆっくりすべり

※地図中の点線は、Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)によるフィリピン海プレート上面の深さを示す。

※深部低周波地震（微動）及び短期的ゆっくりすべりは、2025年12月30日以降のものを示す。

通常の地震（最大震度3以上もしくはM3.5以上）・・・・・・・・・気象庁の解析結果による。
深部低周波地震（微動）・・・・・・・・・（震源データ）気象庁の解析結果による。　（活動期間）気象庁及び防災科学技術研究所の解析結果による。
短期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・【東海】気象庁の解析結果を示す。
【紀伊半島中部から紀伊半島西部、四国西部、四国東部】産業技術総合研究所の解析結果を示す。
長期的ゆっくりすべり・・・・・・・・・・・国土地理院の解析結果を元におおよその場所を表示している。

気象庁作成

令和８年１月１日～令和８年２月４日の主な地震活動

○南海トラフ巨大地震の想定震源域およびその周辺の地震活動：

【最大震度３以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震及びその他の主な地震】

月/日	時:分	震央地名	深さ (km)	M	最大震度	発生場所
１/２	07:49	紀伊水道	39	3.9	２	フィリピン海プレート内部
１/６	10:18	島根県東部	11	6.4	５強	地殻内
１/20	01:30	東海道南方沖	－	4.4	１	フィリピン海プレート内
２/３	00:11	豊後水道	39	3.6	２	フィリピン海プレート内部

※震源の深さは、精度がやや劣るものは表記していない。
※太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く。

○深部低周波地震（微動）活動期間

四国	紀伊半島	東海
■四国東部 １月３日 １月５日 １月 16 日 １月 20 日 １月 22 日～29 日[注1)]　・・・（２） ■四国中部 １月６日～８日 １月 22 日～25 日 １月 31 日～２月２日 ■四国西部 12 月 31 日～１月８日[注2)]・・・（１） １月 10 日～12 日 １月 16 日～18 日 １月 22 日～23 日 １月 26 日～27 日 ２月３日	■紀伊半島北部 １月９日～10 日 １月 20 日～21 日 ２月４日～（継続中） ■紀伊半島中部 １月４日 １月８日 １月 26 日、１月 31 日　・・・（３） ■紀伊半島西部 12 月 31 日～１月１日 １月 20 日～21 日 １月 26 日　・・・（３）	１月６日 １月 27 日

※深部低周波地震（微動）活動は、気象庁一元化震源を用い、地域ごとの一連の活動（継続日数２日以上または活動日数１日の場合で複数個検知したもの）について、活動した場所ごとに記載している。
※ひずみ変化と同期して観測された深部低周波地震（微動）活動を赤字で示す。
※上の表中（１）～（３）を付した活動は、今期間、主な深部低周波地震（微動）活動として取り上げたもの。

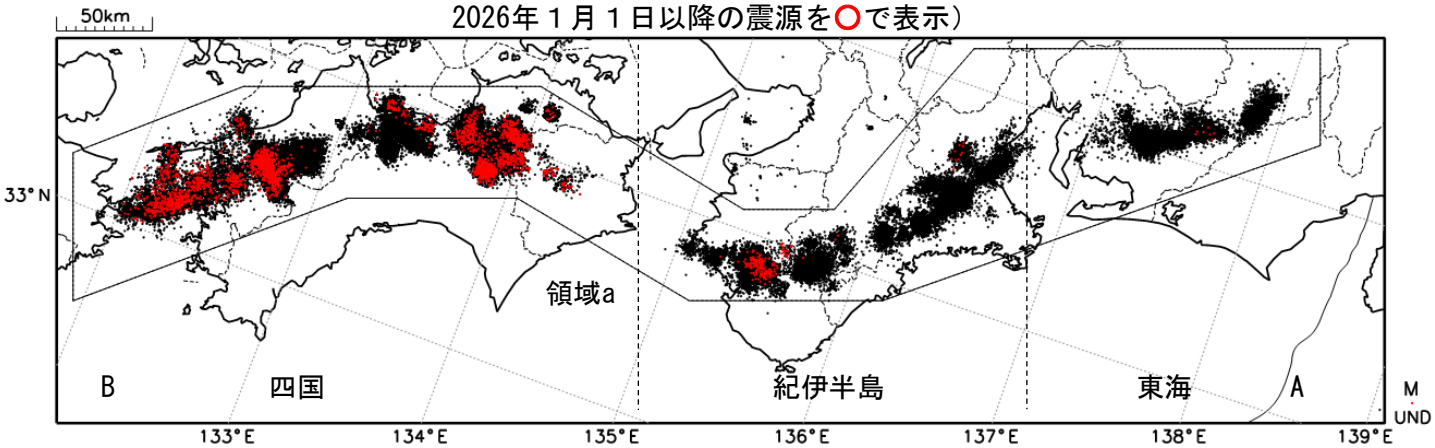
注１） 防災科学技術研究所による解析では、１月 21 日から 28 日頃にかけて微動活動が見られた。
注２） 防災科学技術研究所による解析では、１月１日から７日頃にかけて微動活動が見られた。

気象庁作成

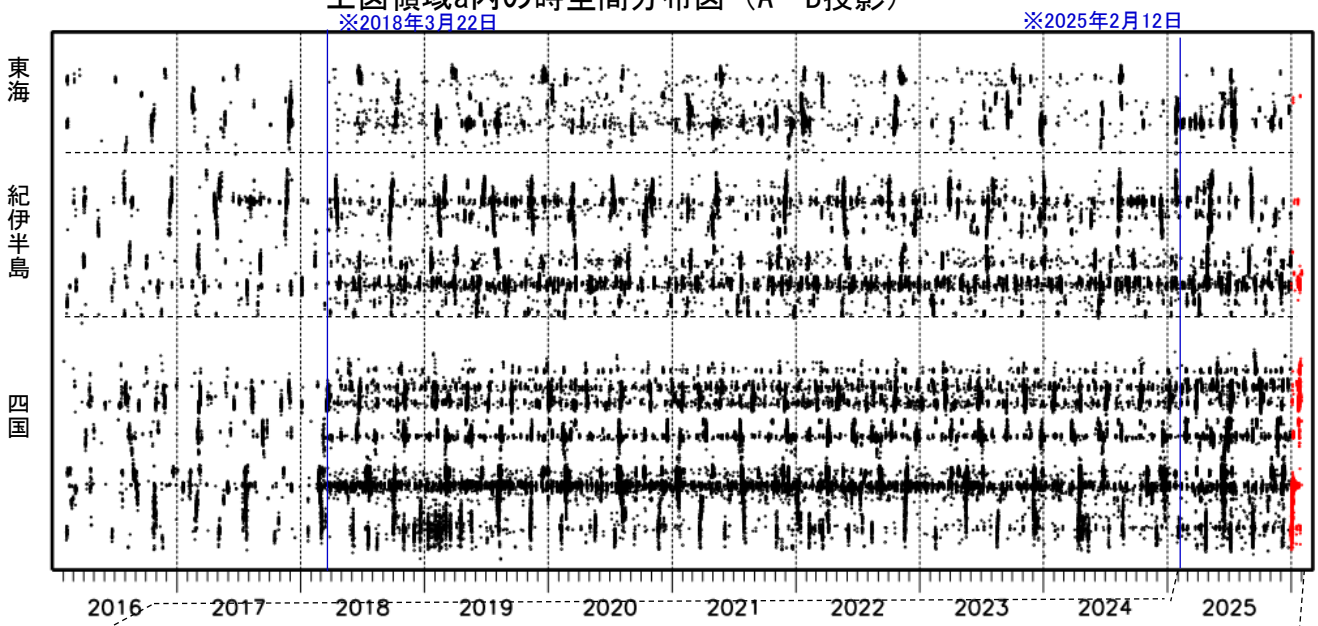
深部低周波地震（微動）活動（2016年２月１日～2026年１月31日）

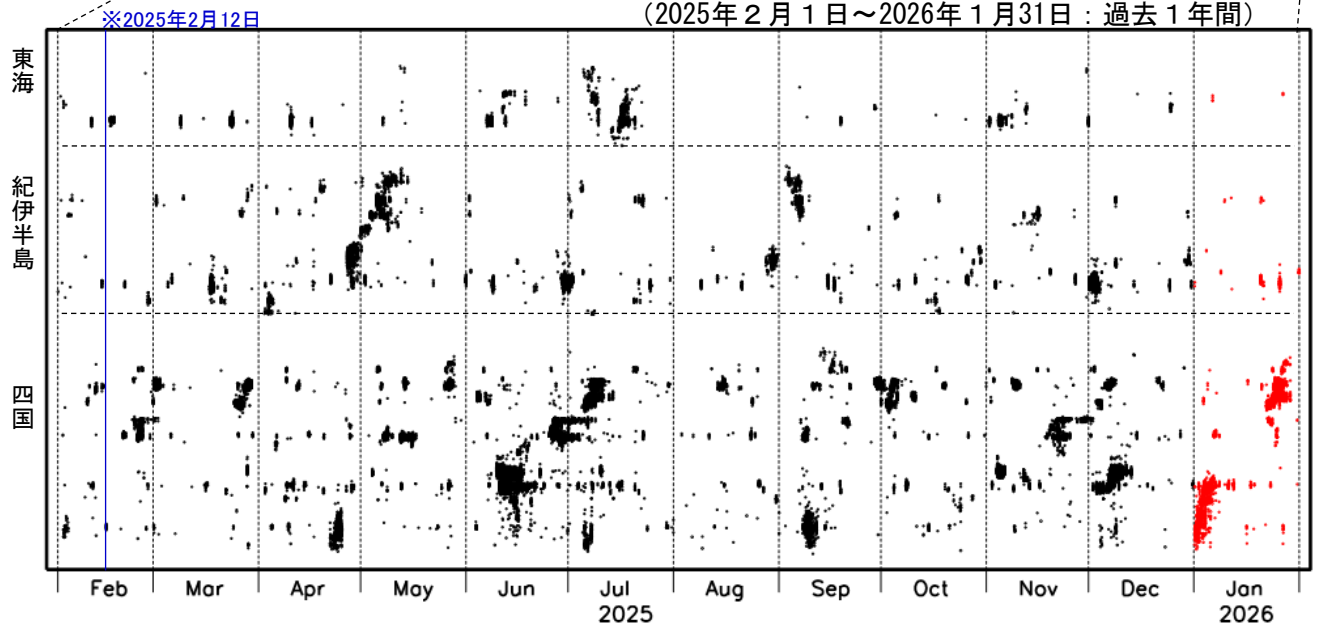
深部低周波地震（微動）は、「短期的ゆっくりすべり」に密接に関連する現象とみられており、プレート境界の状態の変化を監視するために、その活動を監視している。

震央分布図（2016年２月１日～2026年１月31日：過去10年間
2026年１月１日以降の震源を○で表示）



上図領域a内の時空間分布図（A－B投影）





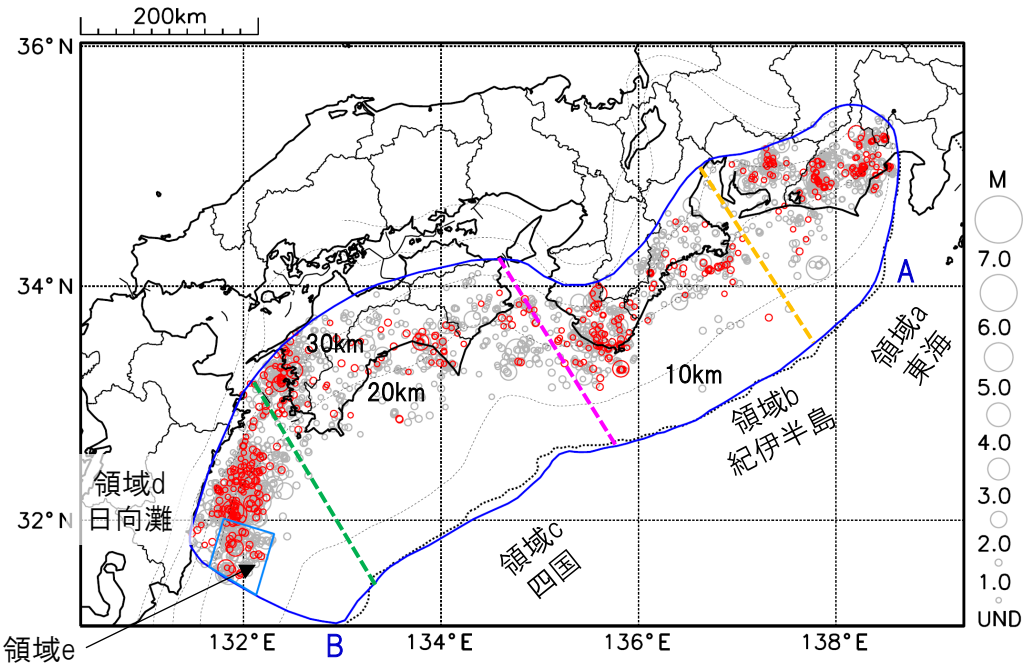
※2018年３月22日、および、2025年2月12日から、深部低周波地震（微動）の検知手法の改善により、
それ以前と比較して検知能力がそれぞれ変わっている。

気象庁作成

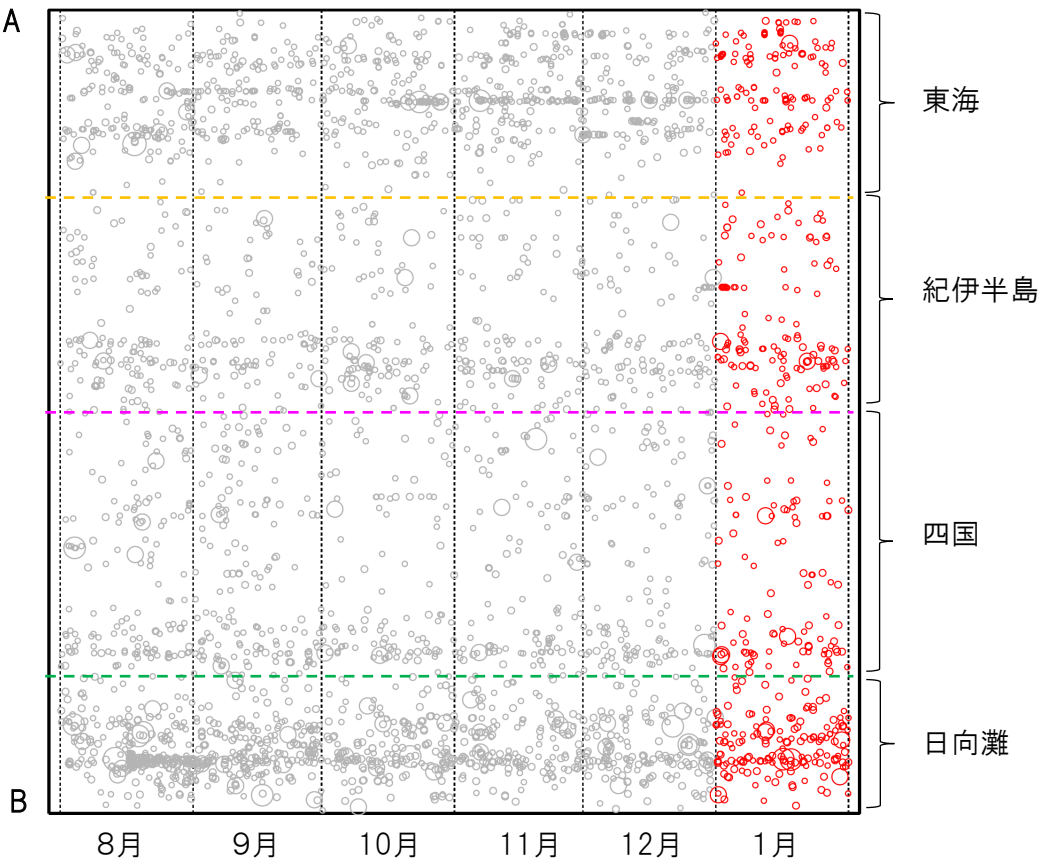
プレート境界とその周辺の地震活動

フィリピン海プレート上面の深さから±8km未満の地震を表示している。
日向灘の領域e内のみ、深さ20km～35kmの地震を追加している。

震央分布図
（2025年8月1日～2026年1月31日、M全て、2026年1月の地震を赤く表示）



南海トラフ巨大地震の想定震源域内の時空間分布図（A-B投影）



・フィリピン海プレート上面の深さは、Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
・今期間の地震のうち、M3.2以上の地震で想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震に吹き出しを付している。吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差（+は浅い、-は深い）を示す。
・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。

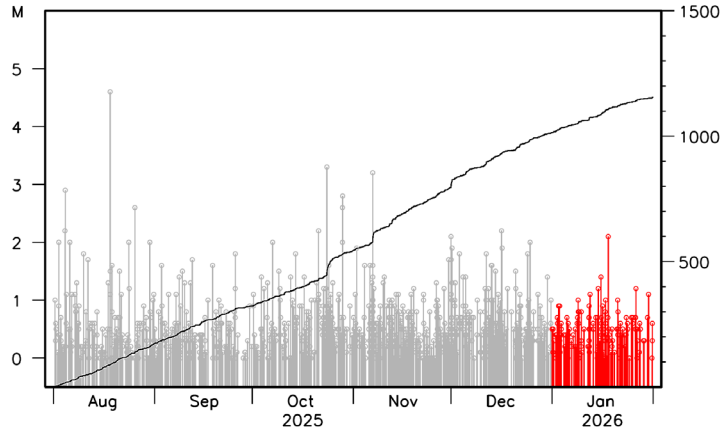
気象庁作成

プレート境界とその周辺の地震活動

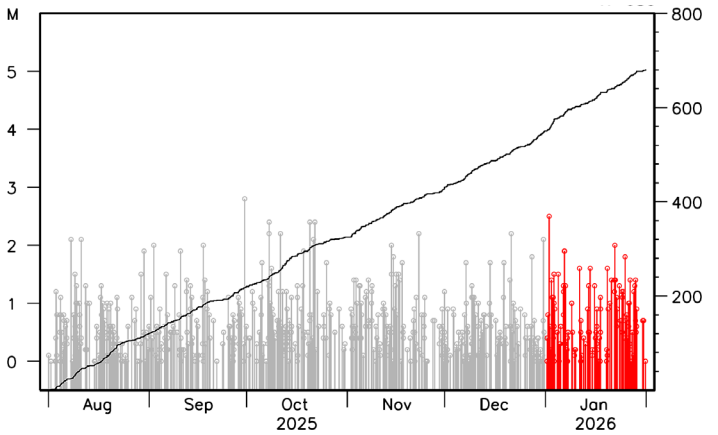
フィリピン海プレート上面の深さから±8km未満の地震を表示している。

震央分布図の各領域内のMT図･回数積算図
（2025年8月1日～2026年1月31日、M全て、2026年1月の地震を赤く表示）

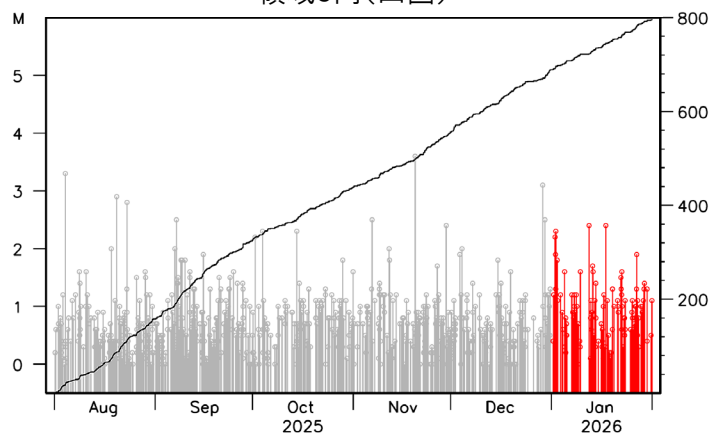
領域a内（東海）



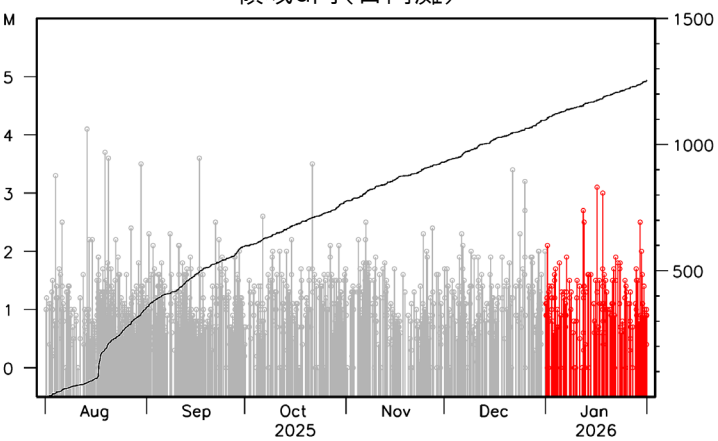
領域b内（紀伊半島）



領域c内（四国）



領域d内（日向灘）

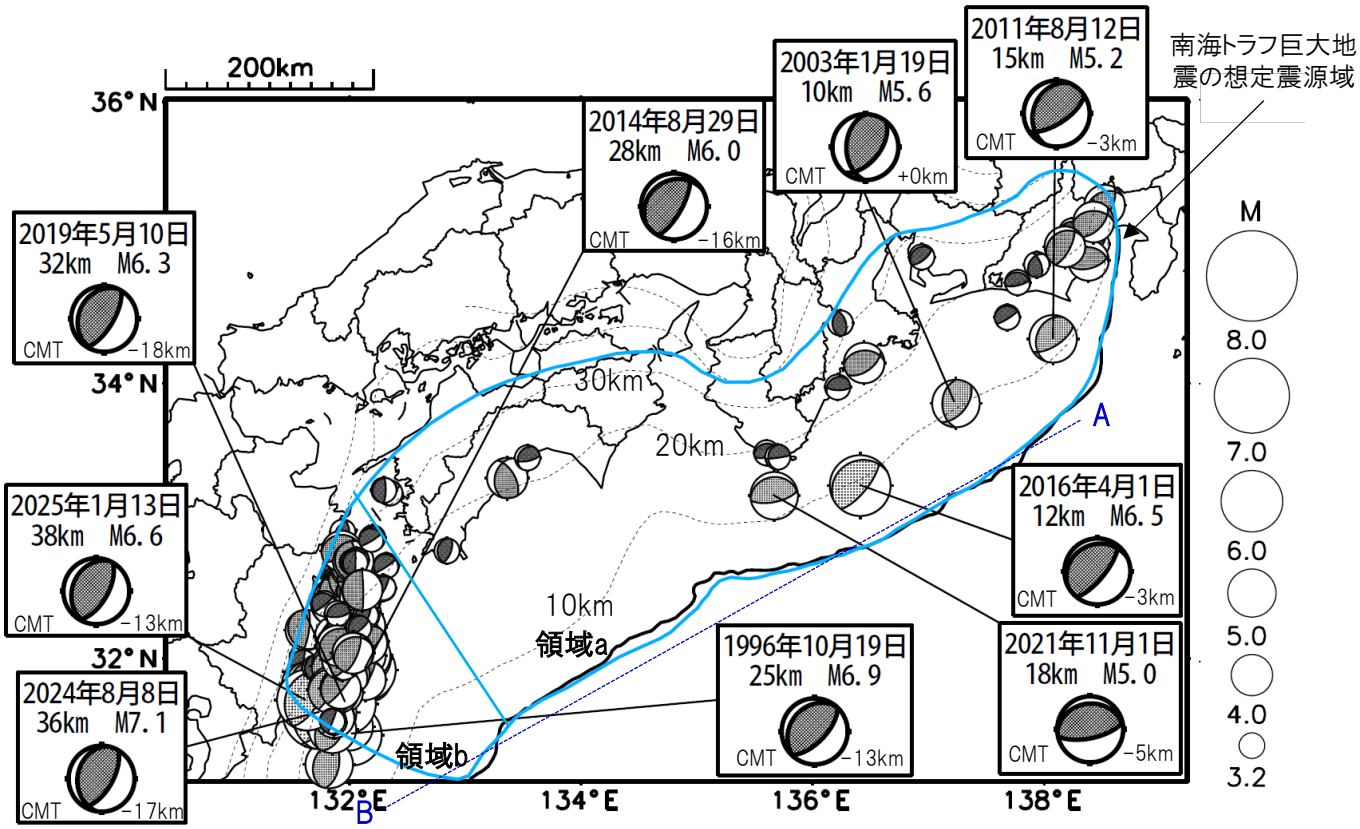


※M全ての地震を表示していることから、検知能力未満の地震も表示しているため、回数積算図は参考として表記している。

気象庁作成

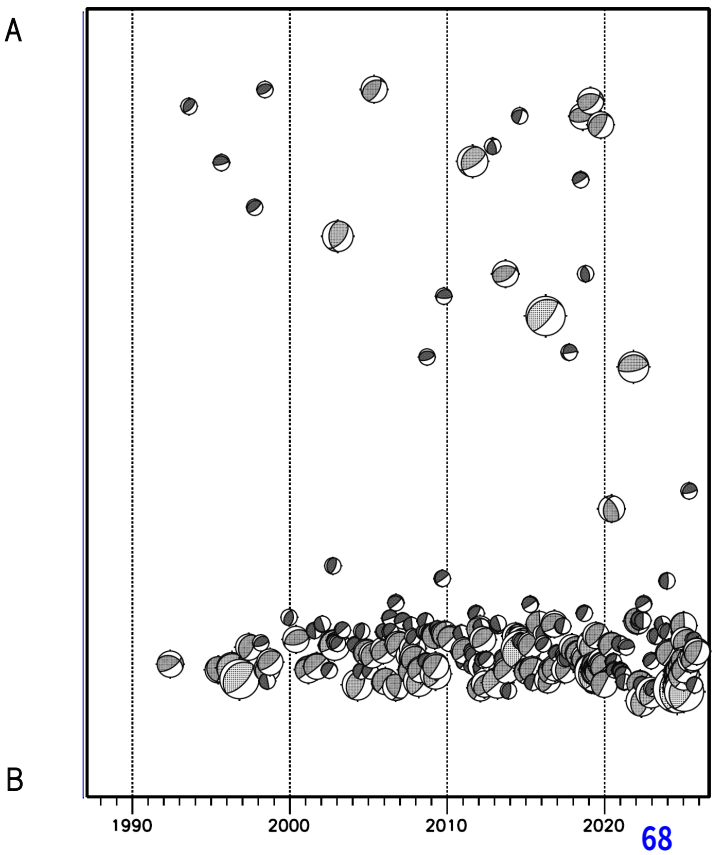
想定南海トラフ地震の発震機構解と類似の型の地震

震央分布図（1987年9月1日～2026年1月31日、M≧3.2、2026年1月の地震を赤く表示）



・フィリピン海プレート上面の深さは、Baba et al.(2002)、Hirose et al.(2008)、Nakajima and Hasegawa(2007)による。震央分布図中の点線は10kmごとの等深線を示す。
・今期間に発生した地震（赤）、日向灘のM6.0以上、その他の地域のM5.0以上の地震に吹き出しを付けている。
・発震機構解の横に「S」の表記があるものは、精度がやや劣るものである。
・吹き出しの右下の数値は、フィリピン海プレート上面の深さからの差を示す。+は浅い、−は深いことを示す。
・吹き出しに「CMT」と表記した地震は、発震機構解と深さはCMT解による。Mは気象庁マグニチュードを表記している。
・発震機構解の解析基準は、解析当時の観測網等に応じて変遷しているため一定ではない。

震央分布図内の時空間分布図



プレート境界型の地震と類似の型の発震機構解を持つ地震は以下の条件で抽出した。

【抽出条件】
・M3.2以上の地震
・領域a内（南海トラフの想定最大規模の想定震源域内）で発生した地震
・発震機構解が以下の条件を全て満たしたものを抽出した。
　P軸の傾斜角が45度以下
　P軸の方位角が65度以上180度以下（※）
　T軸の傾斜角が45度以上
　N軸の傾斜角が30度以下
　※以外の条件は、東海地震と類似の型を抽出する条件と同様
・発震機構解は、CMT解と初動解の両方で検索をした。
・同一の地震で、CMT解と初動解の両方がある場合はCMT解を選択している。
・東海地方から四国地方（領域a）は、フィリピン海プレート上面の深さから±10km未満の地震のみ抽出した。日向灘（領域b）は、+10km～−20km未満の震源を抽出した。CMT解はセントロイドの深さを使用した。

気象庁作成